

◆外国人児童生徒の総合的な学習支援事業◆

外国人児童生徒のための JSL対話型アセスメント

ディー

エル

エー

DLA

Dialogic Language Assessment
for Japanese as a Second Language



文部科学省初等中等教育局国際教育課

はじめに

平成 24 年 5 月現在、公立の小・中・高等学校等には日本語指導が必要な外国人児童生徒が 27,013 人、また日本国籍を持つ日本語指導が必要な児童生徒は 6,171 人在籍しています。これらの日本語指導が必要な子どもたちは、日常会話が十分にできない児童生徒だけではなく、日常会話ができても学年相当の学習言語能力が不足し、学習活動への参加に支障が生じている児童生徒も含みます。

しかしながら、日本語指導の目安となる日本語能力をどのように把握するかは長年の課題であり、特に子どもを対象にした日本語能力の測定については、各地域で工夫されているものの測定方法の開発が求められています。

これらの御意見を受けて文部科学省では、平成 22 年度から 24 年度にかけて「外国人児童生徒の総合的な学習支援事業」を実施し、そのひとつとして国立大学法人東京外国語大学に委託して「学校において利用可能な日本語能力の測定方法」の開発を行ってまいりました。数多くのモニター調査と学校や教育委員会でのヒアリングを重ね、児童生徒の日本語能力を把握するだけでなく、その後の指導方針を検討する際の参考にもしていただけける資料を揃えていただきました。

本書を各学校における日本語指導の場で御活用いただき、日本語指導が必要な児童生徒へのよりきめ細かな指導・支援にお役立ていただければ幸いです。なお、本測定方法は当省ホームページにも掲載する予定ですので、併せて御活用ください。

末尾となりましたが、本書の作成に当たり御尽力を賜りました関係の皆様に深く御礼申し上げます。

平成 26 年 1 月

文部科学省初等中等教育局国際教育課長
神代 浩

外国人児童生徒のための JSL 対話型アセスメント

目 次

はじめに

理論編 －DLAとは－

序章 「日本語能力測定方法の開発」の背景と目的

1. 事業の趣旨	3
2. 外国人児童生徒の日本語能力測定方法を開発する上での諸課題	3
3. 外国人児童生徒の言語能力観	3
4. CF（会話の流暢度）・DLS（弁別的言語能力）・ALP（学習言語能力）の連続性と個別性	4
5. 開発から生まれた実感	5

第1章 「対話型アセスメント（略称「DLA」）」の概要

1. 「対話型アセスメント（「DLA」）」のねらい	6
2. 「DLA」の特徴	6
3. 「DLA」を使用する際の基本的なステップ	6
4. 「DLA」が測定しようとしている言語能力	7
5. 「DLA」の構成と内容	7
6. 「DLA」の進め方	9
7. 「DLA」と日本語能力の判定方法	9
8. 「DLA」の流れ	10
9. 「DLA」の評価における機能と精度	12

実践編 －「DLA」実践のために－

第2章 「DLA 〈はじめの一歩〉」

1. 〈はじめの一歩〉 概要	15
2. 〈はじめの一歩〉 実践ガイド	18
3. 〈はじめの一歩〉 診断シート	20

第3章 「DLA 〈話す〉」

1. 〈話す〉 概要	23
2. 〈話す〉 実践ガイド	28

3. 〈話す〉 診断シート	31
第4章 「DLA 〈読む〉」	
1. 〈読む〉 概要	37
2. 〈読む〉 実践ガイド	42
3. 〈読む〉 診断シート	63
第5章 「DLA 〈書く〉」	
1. 〈書く〉 概要	73
2. 〈書く〉 実践ガイド	80
3. 〈書く〉 診断シート	96
第6章 「DLA 〈聴く〉」	
1. 〈聴く〉 概要	105
2. 〈聴く〉 実践ガイド	111
3. 〈聴く〉 診断シート	127
第7章 測定の記録と評価・個人指導記録 137	

評価キット

別冊資料

1. **DLA 〈読む〉 レベル別テキスト**
2. **DLA 〈聴く〉 映像 (DVD)**

巻末資料

1. **DLA 〈はじめの一歩〉 語彙カード** 149
2. **DLA 〈話す〉 基礎カード・タスクカード・認知カード** 156
3. **DLA 〈書く〉 作文課題** 163
4. **DLA 〈書く〉 作文用紙** 165
5. **DLA 〈聴く〉 映像 (DVD) スクリプト** 168
6. **DLA 〈聴く〉 視覚補助教材 (キーワード)** 172

その他

- FAQ 178
- 主要参考文献 185
- 協力者一覧 188

理論編

序 章

「日本語能力測定方法の開発」の背景と目的

1. 事業の趣旨

- ・公立学校に在籍する日本語指導が必要な児童生徒が増加する中、外国人児童生徒に対する教育の充実は喫緊の課題となっています。
- ・日本語指導は、背景の異なる外国人児童生徒の日本語能力に応じて行うことは大切なことですが、具体的な言語能力のイメージが共有されているわけではありません。
- ・言語能力の測定方法においては、全国的に利用可能な汎用的な測定方法が開発されていなかったわけではありません。
- ・教育現場におけるニーズ調査等を踏まえ、また、実証を重ねることにより、全国的にどの学校でも使用可能な日本語能力測定方法の開発が求められています。
- ・このような状況を踏まえ、「**対話型アセスメント（略称「DLA」：Dialogic Language Assessment）**」の開発に至りました。

※本事業は、文部科学省「外国人児童生徒の総合的な学習支援事業」の一環で、具体的な名称は「学校において利用可能な日本語能力測定方法の開発（平成22～24年度）」です。

2. 外国人児童生徒の日本語能力測定方法を開発するまでの諸課題

- ・現行の多くのテストは、編入時の初期指導の到達度評価が主流となっていて、児童生徒のその後の伸びの予測や、教科指導に直結する指導には必ずしもつながっていません。
- ・また、テストは、「文字、文法などの言語要素」に主眼がおかれて、めざすべき子どもの言語能力、具体的に何ができるようになるかという視点が共有されていません。
- ・現状のテストでは、児童生徒の母語をはじめ認知力の把握が困難なために、潜在的な能力を活用した指導がむずかしく、言語能力の測定も困難にしています。
- ・そこで、外国人児童生徒の言語能力を測定する場合、日本語能力のレベルのみならず、年齢にともなう認知力の発達段階に考慮する必要があります。
- ・日本語能力は、母語、年齢、入国年齢、滞在年数（四大要因）による影響を受けるので、これらを考慮した測定ツールにする必要があります。

※本事業で自治体対象に実施したアンケート調査結果より。

3. 外国人児童生徒の言語能力観

- ・本事業では、子どもたちの言語能力を以下の3つの側面（カミンズ、2006の講演資料（中島・湯川訳）より）から把握し、測定ツールの開発の基本としています。

① Conversational Fluency=CF（会話の流暢度）：日常的な学校生活に必要な会話力で獲得に普通1～2年必要とされるもの

- ・よく慣れている場面で相手と対面して会話する力です。

- ・母語の会話の流暢度は、就学年齢4、5歳から8歳の間に高度に発達します。
- ・頻度数の高い語彙と簡単な文法構造の使用を含みます。
- ・第二言語学習者は、学校や周囲の環境を通して第二言語への接触を始めて1年ないし2年で流暢な会話力が伸びるのが普通とされています。

② Discrete Language Skills=DLS (弁別的言語能力) : 個々の技能によって習得に必要な時間が異なる

- ・言語とリテラシーの規則的な側面。音韻意識（単語が弁別可能な音で成り立っているという認識）、フォニックス（音と文字との関係についての認識、文字を読み取る力）、文字認識、単文を形成する力（大文字や句読点に関する規則、スペリング、文法）、語彙、文法構造が主なものです。
- ・これらの技能は、次のいずれかの方法で獲得されます：(a)直接指導の結果、(b)読み書き活動の実体験を通して。
- ・音韻意識と文字を読み取る力、文字解読力は就学後2年ぐらいで獲得が可能だと言われています。したがって学校言語の初期の文字を読んで理解する力は母語話者とほぼ同じように進んでいくことが知られています。

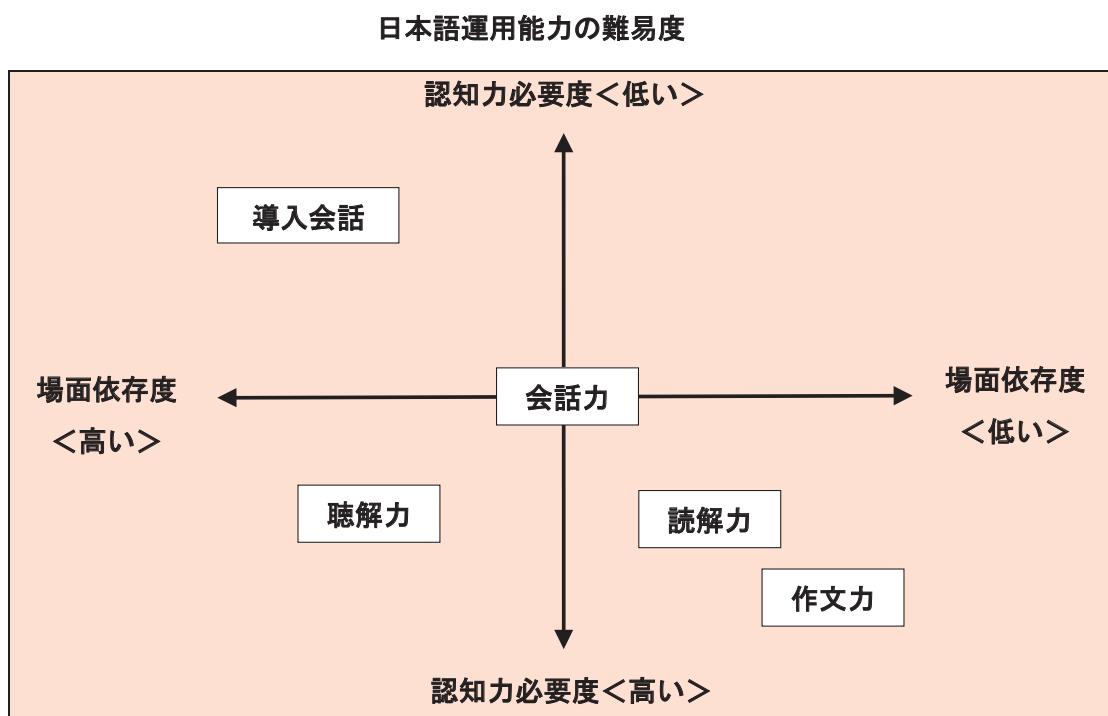
③ Academic Language Proficiency=ALP (教科学習言語能力) : 学年相当レベルに達するのに5年以上必要とされる能力

- ・ますます複雑になる話し言葉と書き言葉を理解し、かつ産出する力を指します。学年とともに、日常会話ではほとんど聞くことのない低頻度の語彙、複雑な構文や抽象的な表現などが出てきます。教科学習では（例：国語、社会、理科、算数・数学）、言語的にも概念的にも高度な文章を理解することが要求され、またそれらを正確に統合して使うことが必要とされています。
- ・外国人児童生徒が母語話者レベルに追いつくのに、教科学習言語に接触してから少なくとも5年が必要だと言われています。これは教科学習言語が複雑であると同時に、外国人児童生徒が、語彙、概念、読み書き能力が伸びつつある母語話者児童生徒に向かって追いつくことを強いられるからです。
- ・教科にかかる読解力を伸ばすためには、弁別的言語能力を獲得する方法とは異なった指導法が必要です。特に、語彙や教科学習言語能力を伸ばすためには、読解力育成に焦点を当てた多読が必須です。

4. CF（会話の流暢度）・DLS（弁別的言語能力）・ALP（学習言語能力） の連続性と個別性

- ・1、2年も経てば、流暢な日本語を話し日常生活では問題のない子どもが、教科学習に困難を感じるのは、求められる日本語能力が異なることによります。
- ・日常会話では場面の助けによって日本語の習得が容易ですが、教科学習では書き言葉としての日本語能力に加え、教科固有の語彙や背景知識が求められるために、習得には時間がかかり、日本人児童生徒とは異なる方法で指導することが必要になってきます。
- ・上記の言語力は三者択一的な能力ではなく、場面依存度と認知力必要度の連続性の中に位置する言語能力で、特に教科学習には場面の助けのない高度な認知力を必要とします。

- 指導者は、子ども達の潜在的な能力（母語力や母語で培った知識）を活用しながら、教科で必要な日本語能力と学力を伸ばしていく指導を心がけることが重要です。
- 子どもの日本語能力の測定及び判定においては、以下の図に示されるように初対面で必要な導入会話を行った上で、まず基礎となる会話力を測定することが大切です。
- その上で、教科に結びつく読解力、作文力、聴解力の習得度を測定する必要があります。
- 教科学習においては抽象度の高い語彙力や認知力が求められることから、これらの力の測定に焦点をあてた評価ツールを用意し、子どもの日本語能力を総合的に判断することが必要になってきます。



5. 開発から生まれた実感

外国人児童生徒の日本語能力評価において大切なことは、子どもたちが何を学び、どのように学んでいるかをはっきりと理解し、指導者が子どもたちに何をどのように学んでほしいのか、また最終的にはどのような力が必要なのか指針あるいは学習のゴールを把握することにあります。学習のゴールなくして、指導の具体性や教材の有効性、そして評価の方法は見えてきません。

今回開発した「DLA」は、日本語能力が限られる中で、最大の認知活動を引き出そうとするものです。それにより、子どもの「できること」の最大値を把握し、同時に子どもの能力を伸ばす機会ともなります。子どもにとって学びの機会であると同時に、指導者にとっても、指導に関する気づきを得る機会となるものであることを願っています。

なお、本冊では、「測定ツール」と「評価ツール」、「日本語能力」と「日本語力」「日本語運用能力」、「実施者」と「評価者」、「児童生徒」と「子ども（達）」「JSL児童生徒」「JSL児」を同義で扱います。

第 1 章 「対話型アセスメント(略称「DLA」)」の概要

1. 「対話型アセスメント(「DLA」)」のねらい

- ・「DLA」は、基本的には、日常会話はできるが、教科学習に困難を感じている児童生徒を対象としています。
- ・子どもたちの言語能力を把握すると同時に、どのような学習支援が必要であるか、教科学習支援のあり方を検討するための「DLA」をめざしています。
- ・「DLA」によって、指導者は児童生徒が何をどのように学んでいるのかを知ることができます。また、学習支援のための指導計画の助けとなり、学習活動及び教材の選択について考える際のヒントを与えます。
- ・児童生徒の学びにとって意味のある指導計画を立てることによって、子どもたちの学びに対する興味関心、学習意欲を喚起し、学習動機を高めることが可能です。

2. 「DLA」の特徴

- ・「DLA」は、いわゆる従来型の紙筆テストや集団テストとは異なっています。
- ・それは、子どもたちの母語、年齢、入国年齢、滞在年数（四大要因）によって影響を受ける言語運用力や思考力、学びの方法等が多様であるために、これまでの一的なテストでは、子どもたちの本来の力を引き出すには限界があるからです。
- ・「DLA」は、テストから得られる結果を序列化するためのものではなく、むしろ、テストの実施過程そのものを、学びの機会として捉えるところに特徴があります。
- ・さらに、一番早く伸びる会話力を使って、紙筆テストでは決して現れることのない、潜在的な力を引き出します。
- ・そのために、「DLA」の活用方法は「対話型」を基本とします。それは、指導者が子どもたちに向き合う大切な機会（対話重視）であると考えるからです。
- ・指導者と子どもたちが一対一で向き合うことで、日頃の学習の成果を、そして今後の支援活動で必要となる学習内容や学習領域を絞り込んでいく上で必要な情報が得られるような構成をねらいとしています。
- ・厚い言葉の壁の中で教科学習言語能力を伸ばそうとしている外国人児童生徒は、個々の子どものレベルに適した評価者のちょっととした問いかけや語りかけ（誘い水のようなもの）によって、その力の片鱗を見せることがあります。
- ・ゆえに、「対話型」の「DLA」は、年齢相応の言語能力を持たない子どもの教科学習言語能力評価法として妥当性があると言えましょう。

3. 「DLA」を使用する際の基本的なステップ

- ・測定ツールを有効に使うには、次のステップを踏むことをお勧めします。
- ① 評価の目的を明確にする：「DLA」を使って、子どもたちのどのような側面、例えば、言語能力面であるのか、思考力などを必要とする認知面であるのか、具体的に知りたいことを明確にする。「DLA」から知りたい情報を確認する。
 - ② 評価ツールを選ぶ：「DLA」で提示されたいくつかの評価ツールから、目的にかなったものを選ぶ。
 - ③ 評価ツールを理解する：事前に評価ツールの実施方法をよく読み、進行方法を十分に理解しておく。
 - ④ 子どもたちの力を最大限発揮させる：「DLA」の実施にあたっては、「DLA」<はじめの一歩>（詳細は後述）を通して、ラポール（共感できる信頼関係）を築き、持っている力を思う存分発揮できるよう配慮する。また、技能別テストが可能かどうかを判断する。

4. 「DLA」が測定しようとしている言語能力

- ・「DLA」は、<はじめの一歩>（「導入会話」と「語彙力チェック」）と、<話す> <読む><書く><聴く>の4つの言語技能から構成されています。
- ・「DLA」のそれぞれのテストは、おおむね以下に示すような言語能力の測定をねらいとしています。①②③については序章を参照してください。

テストと測定能力

測定能力 テスト	①CF (会話の流暢度)	②DLS (弁別的言語能力)	③ALP (教科学習 言語能力)
◆導入会話	○		
◆語彙力チェック		○	
●DLA <話す>	○	○	○
●DLA <読む>		○	○
●DLA <書く>		○	○
●DLA <聴く>			○

5. 「DLA」の構成と内容

- ・「DLA」を活用するために、以下のものが用意されています。

◇「実践ガイド」

- ・「実践ガイド」は、各技能測定の概要を説明し具体的な手順を詳述したものです。

◇「評価キット」 (別冊資料および巻末資料)

- ・「DLA」実施の際に評価者が必要とするカード類、読みテキスト、作文用紙、映像DVD、キーワードのイラストなどが含まれます。以下に技能ごとに使用するキットの一覧を示します。

技能別評価キット一覧

テスト名	評価キット
◆<はじめの一歩> 「導入会話」	
◆<はじめの一歩> 「語彙力チェック」	「語彙カード」
●DLA <話す>	「基礎カード」「タスクカード」 「認知カード」
●DLA <読む>	「DLA <読む> レベル別テキスト」(7冊)
●DLA <書く>	「作文用紙」 「作文課題」
●DLA <聴く>	「聴解用映像」(DVD 1本) 「視覚補助教材 (キーワード)」

◇「診断シート」

- ・「診断シート」は各技能の測定結果を記入するものです。

◇「DLA 実施レポート」・「DLA 採点表＜全体評価＞」（実践編 第7章で詳述）

- ・「診断シート」で得られた結果をまとめて記入するものです。

◇「JSL 評価参照枠＜全体＞」

・「**DLA**」では、各技能別のテストの開発と共に、日本語の力の段階を6段階の「ステージ」に分け、総合的かつ多面的に記述した「JSL 評価参照枠」を作成しました。

・「JSL 評価参照枠＜全体＞」では、「在籍学級参加との関係」と「支援の段階」を6ステージで示しています。

・ステージ1～2は、日本語による意思の疎通がむづかしく、サバイバル日本語の段階です。在籍学級での学習はほぼ不可能で、手厚い指導が必要です。

・ステージ3は、単文の理解がむづかしく、発話にも誤用が多く見られるレベルです。クラス活動に部分的参加を始めつつ、個別的な指導をすることが必要です。

・ステージ4は、日常生活に必要な基本的な日本語がわかり、自らも発話ができる段階です。話し言葉を通したクラス活動にはある程度参加できるレベルです。しかし、授業を理解して学習するには読み書きにおいて困難が見られ、個別的な指導が必要です。

・ステージ5～6は、教科内容に関連した内容が理解できるようになり、授業にも興味をもって参加しようとするレベルです。読み書きにも抵抗感が少なく、自律的に学習しようとする態度が見られます。必要に応じて支援をしていくことが必要です。

JSL評価参照枠＜全体＞

ステージ	学齢期の子どもの在籍学級参加との関係	支援の段階
6	教科内容と関連したトピックについて理解し、積極的に授業に参加できる	支援付き自律学習段階
5	教科内容と関連したトピックについて理解し、授業にある程度の支援を得て参加できる	個別学習支援段階
4	日常的なトピックについて理解し、学級活動にある程度参加できる	
3	支援を得て、日常的なトピックについて理解し、学級活動にも部分的にある程度参加できる	
2	支援を得て、学校生活に必要な日本語の習得が進む	初期支援段階
1	学校生活に必要な日本語の習得がはじまる	

◇ 「JSL評価参照枠<技能別>」

- ・各技能別評価で得られた結果と、日常の授業態度やテストの結果などと合わせて、総合的に日本語能力の発達段階を評定し、今後の支援の必要度を判断するために「JSL評価参照枠<技能別>」を示しています。
- ・日本語や教科の学習が進むにつれて、子どもの言語能力や思考力も変化します。学習の節目でもある時期（学期末、学年末）に「DLA」を実施して、子どもの変化や変容、でき具合などを判定するために「JSL評価参照枠<技能別>」を活用してください。

◇ 「個人指導記録」 (実践編 第7章で詳述)

- ・「DLA」の結果を記録します。

6. 「DLA」の進め方

- ・「DLA」は、「学びの力を伸ばすテスト」「学習支援に役立つテスト」をめざしているため、実施方法は「対話」を重視し、マンツーマン形式で行います。
- ・子ども一人あたりの所要時間は、45～50分以内で実施してください。したがって、実施においては、子どもが一人ずつ受けられるよう準備してください。
- ・ただし、子どもの状況によって必要な時間が異なるため、明記されている所要時間は大体の目安としてください。特に、「導入会話」やDLA（話す）は、対話の流れを崩さないように無駄を省いて、短時間で終えるようにする必要があります。
- ・一人あたりの所要時間の目安は、「はじめの一歩」は5分程、「話す」は15分程、「読む」は30分程、「書く」は40分程、「聴く」は15～20分です。
- ・どのテストを実施するかは、実施者が決めます。子どもの日本語能力に応じて、適宜選択してください。

＜留意点＞

- ・実施者は、児童生徒が理解しやすいように短文、単文で話すよう心がけます。
- ・実施者が質問する時は、「～ですか／ますか」のような「です／ます体」で質問します。
- ・実施者は、子どもが話している時、話をさえぎったり否定したりしないようにします。
- ・実施者は、子どもが日本語による発話や作文等で詰まっても、すぐに答えを与えることはせず、答えを誘導するように支援します。
- ・実施者は、子どもの力を最大限に引き出すために忍耐強く話したり書いたりするのを待ちます。
- ・質問が理解できないと思われる時は、言い回しを変更せずに、3回ぐらいまで繰り返します。

7. 「DLA」と日本語能力の判定方法

7-1. 包括的尺度と分析的尺度

- ・外国人児童生徒の日本語能力の判定においては、日頃の観察や指導を通しての反応からある程度推測したり、把握したりすることが可能ですが。しかし、指導者個々人の主観的な判断によることが多く、子どものレベルを具体的に示すとなると共通の尺度上で評価する必要があります。
- ・「DLA」では、子どものパフォーマンス（言語行動、言語運用能力）を評価の対象にしているため、パフォーマンスのレベルを判定するための評価尺度を参照します。一般的にパフォーマンスの判定には、以下の2つの評価尺度を使って判定する方法があります。

①包括的尺度：全体評価、総合的評価の際に用いられる尺度です。話す力や書く力は、内容を全体的に捉えて成功の度合いを判定することができます。このような場合に包括的尺度が必要になります。なお、8頁で示した「JSL評価参考枠<全体>」は、子どもの在籍学級への参加の関係や支援の段階を包括的尺度に基づいて明示したものです。

②分析的尺度：言語能力を支えている知識や能力を分析して、それらを評価対象項目として位置づけ、パフォーマンスのレベルごとにその特徴を記述したものです。評価の際には、項目ごとにパフォーマンスの特徴を分析しレベルを特定します。ただし、各項目のレベルが必ずしも一致するわけではありませんので、全体評価のように結果をまとめることはむずかしくなります。しかしながら、子どもの強い点や弱い点については比較が可能になるので、より細かく把握することが可能です。「JSL評価参考枠<技能別>」はこの考え方をもとに作られています。

・「DLA」では、両尺度ともに6レベル、発達段階を意識して6ステージという名称に分けて記述しています。

7-2. 技能別の採点・評価

①技能別の採点では、技能別に用意された「診断シート」を使用し、パフォーマンスのレベルを採点・評価してください。

②採点欄は、3段階「5・3・1」で表示したものと「正・誤」「正答・無回答」(<話す>)で表示したものがあります。いずれも、必ず点数が明示され、合計点、平均点が計算できるようになっています。

7-3. ステージの判定

①ステージ判定には、「DLA」の結果として出てきた得点を平均値化します。

②「DLA」で得られた結果を「JSL評価参考枠」のステージに反映させます。

③ステージの記述文を参照して、実際の子どもの能力と比べます。

④平均値から出された数値が該当ステージの記述内容と一致しない場合、記述内容を優先してステージを判定します。

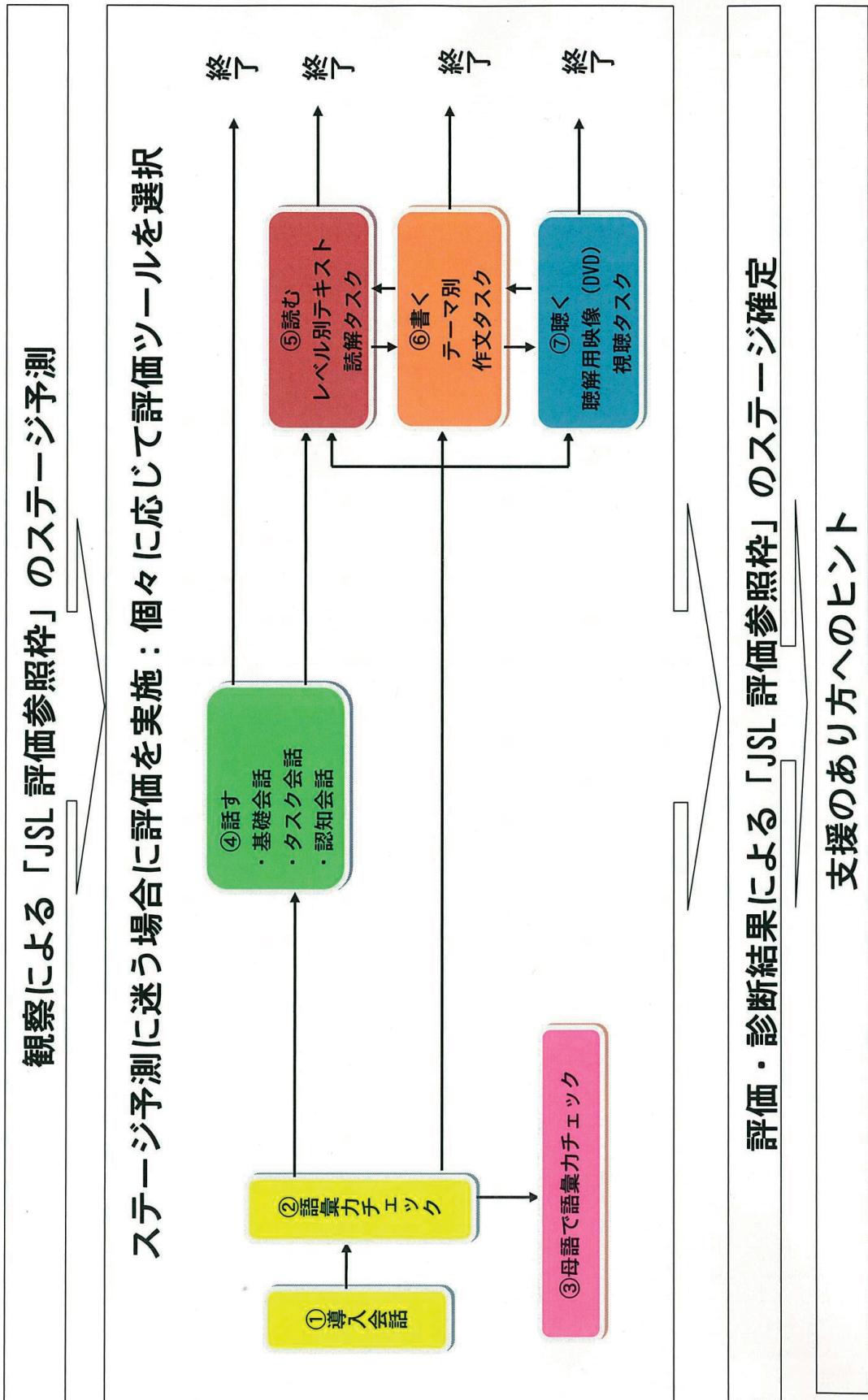
・子どものステージの判定はやさしいものではありません。なぜならば、子どもの潜在的な能力を測定するためには、30分から40分程度では十分ではないからです。「DLA」を実施して得られた情報は、あくまでも限られたものであって、「JSL評価参考枠<技能別>」と参照し、子どもの現段階でのステージを推測したり予測したりするものであると考えることが大切です。

・ステージ判定では、「DLA」の結果として出てきた得点とともに、日頃の子どもの学習成果を「JSL評価参考枠<技能別>」の中で位置づけることも大切になります。

8. 「DLA」の流れ

・以上述べてきた「DLA」の構成と実施の流れを次ページに示します。

・観察により子どものステージが予測できない場合は、指導者あるいは実施者は、①「導入会話」②「語彙力チェック」によって子どものレベルを確認します。④<話す>に進むか、⑤<読む>⑥<書く>⑦<聴く>に進むか判断してください。文字がわかるレベルであると判断された場合は、④を省略しても構いません。⑤⑥⑦の実施の順序は、子どもの日本語力に応じて柔軟に対応してください。

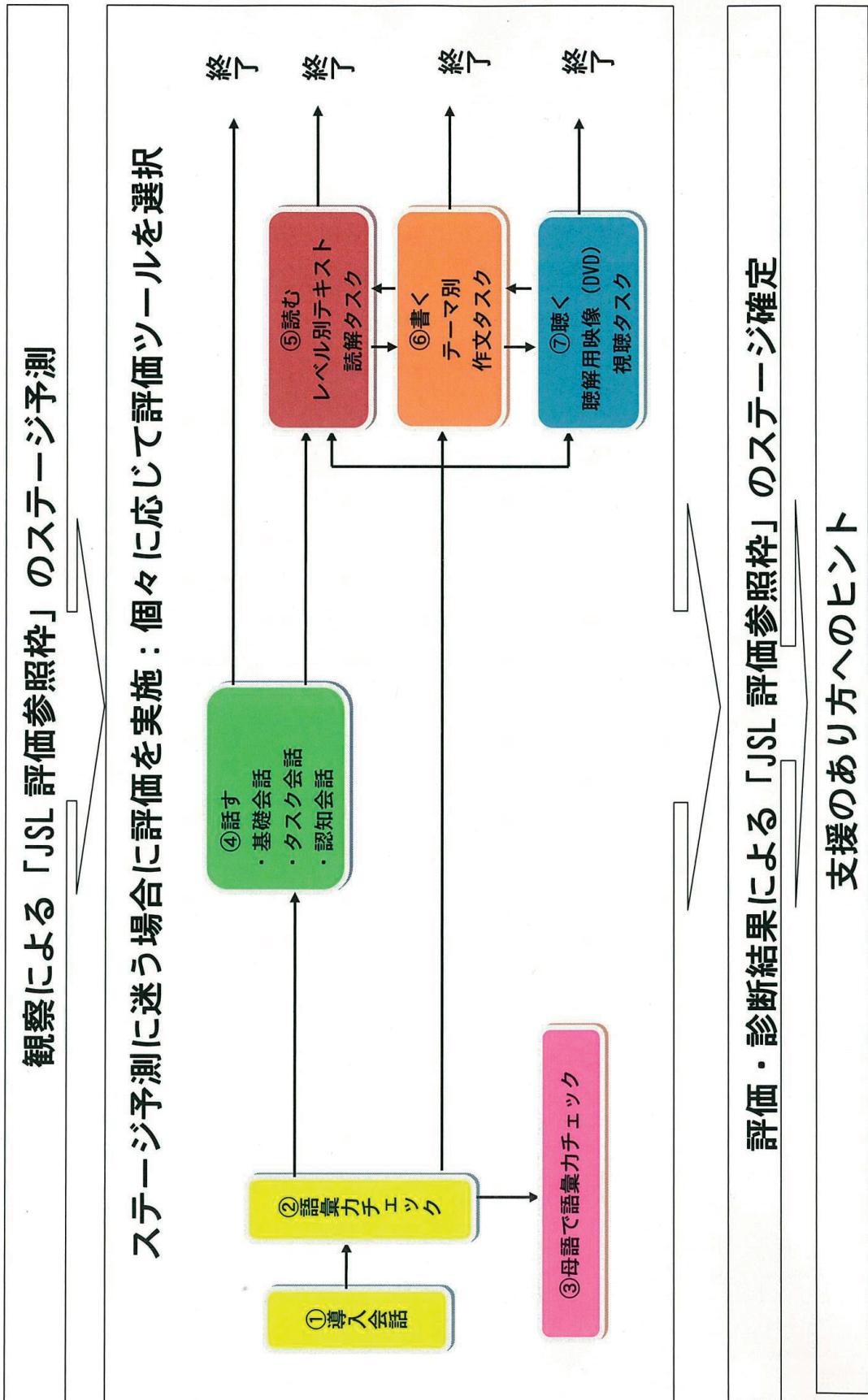


- ・1回の実施で全ての「DLA」を行うのは望ましくありません。数日に分けて実施することを心がけてください。なお、どのくらいの頻度で実施するかについてですが、指導や学習の成果を把握するために実施する場合は、半年に一度実施するのがよいでしょう。また、指導の在り方を検討するための情報を得るために実施する場合は、その都度実施することも可能です。
- ・所要時間は子どもによって、また、与える課題によっても異なりますが、以下に目安を示しておきますので、実施計画の参考にしてください。

DLA 〈はじめの一歩〉	5 分程度
DLA 〈話す〉	10～15 分程度
DLA 〈読む〉	20～30 分程度
DLA 〈書く〉	20～40 分程度
DLA 〈聴く〉	15～20 分程度

9. 「DLA」の評価における機能と精度

- ・「DLA」は、日本の学校で学んでいる外国人児童生徒の日本語能力を明らかにして、現在の子ども達の実態を把握した上で、どのような指導や対応が必要かを知るための評価ツールです。
- ・「DLA」の評価の機能としては、「診断的評価」、「形成的評価」、そして「総括的評価」が挙げられます。
- ・「診断的評価」とは、編入学当初や日本語指導開始時における、子どもの日本語能力、母語力、入国年齢、滞日年数、生活経験の実態等を把握するために行う評価です。
- ・「形成的評価」とは、日本語指導や授業の開始後に子どもの学びやつまずきなどを把握するために実施するもので、得られた情報をもとに支援の在り方や支援の内容などについて検討を行います。
- ・「総括的評価」は、学期末や学年末に実施して、子どもの将来の見通しについての検討を行います。例えば、取り出し指導や入り込み指導の回数や期間などの検討です。
- ・「DLA」は上記の目的を達成するために、子どものパフォーマンスに注目しています。
- ・パフォーマンスに焦点をあてた評価ツールであるために、テスト理論で言われているテストの妥当性や信頼性については新たな測定法という観点から考察する必要があります。
- ・妥当性とは測定したい知識や能力を適切に測定しているかを問うもので、信頼性とは測定結果に一貫性があり測定の誤差が少なく安定していることを示す指標です。
- ・この点からみると、「DLA」は、日本語を使わなければならない状況を設定して、子どもの日本語力を最大限に発揮させられるよう構造化されているので、妥当性は高いといえます。
- ・一方、信頼性については、実施者の質問や応答の仕方によって、また、実施するための環境要因によって、子どもの反応が異なる場合があったり、実施者の採点や評価の仕方が主観的になる傾向もあったりして、結果における信頼性の確保はむずかしいことが挙げられます。
- ・信頼性を高めていくためには、実施者向けの訓練を充実させることが必要です。
- ・また「JSL評価参考枠」の中身についても、今後、検証を重ねながら、精度を高めていく必要があります。



実践編

「DLA <はじめの一歩>」

<話す><読む><書く><聴く>

概要・実践ガイド

診断シート・JSL評価参照枠

第2章 「DLA〈はじめの一歩〉」

DLA〈はじめの一歩〉概要

(1) 目的

- **DLA**〈はじめの一歩〉は、あいさつ、名前、学年などの子ども自身に関する質問の「導入会話」と55問の基礎語彙からなる「語彙力チェック」を通して、この後、**DLA**をどのように進めていくかということの参考情報を得るために実施します。
- 同時に、子どもが置かれている生活環境や言語環境をよりよく知ることを目的としています。
- さらに、子どもと評価者との間の信頼関係を築き、子どもが**DLA**に前向きに取り組める雰囲気作りをねらいとしています。

(2) 対象

- 全ての子どもを対象とします。日本語能力がどの程度か全く予測がつかない子どもに対して**DLA**〈話す〉〈読む〉〈書く〉〈聴く〉の評価を行う前に、導入として使用します。
- 日頃の接触や観察から会話力や語彙力を把握している子ども、**DLA**を既に実施している子どもに対しては、この〈はじめの一歩〉をスキップしてもかまいません。

(3) 方法

- **DLA**〈はじめの一歩〉は、実践ガイド(p18-19)に沿って、「導入会話」、「語彙力チェック」の順で実施します。
- 「語彙力チェック」では、巻末資料1の「**DLA**〈はじめの一歩〉語彙カード」を使用し、絵の内容を単語レベルで発話させます。
- 使用に際しては、切り取って厚紙に貼るなどしてカード状にし、一枚ずつ提示できるようにします。厚紙の大きさは、縦7.5cm×横12.5cm程度が望ましいです。
- **DLA**〈はじめの一歩〉の実施を試みたもののまだ日本語の基礎的な会話力も十分に身についておらず、継続が難しいと判断した場合は、「導入会話」の途中であっても「語彙力チェック」の途中であってもすぐに終了します。
- 終了した場合は母語力の測定をお勧めします。母語がわかる実施者が近くにいない場合でもこの「語彙力チェック」の語彙カードを使用して母語の語彙力をチェックしてください。答える様子を観察し、母語力を推定します。詳しく知りたい場合は、後日録音テープを母語がわかる評価者に確認してもらうという方法も考えられます。
- 「導入会話」と「語彙力チェック」で得られた情報は全体評価の対象には入っていません。

(4) 実施の前に

用意するもの

- **DLA**〈はじめの一歩〉の実施には以下のものを使用します。
 - **DLA**〈はじめの一歩〉実践ガイド(p18-19)
 - 「語彙カード」
 - 「録音機器」(ICレコーダー、MD、テープレコーダーなど)
 - 評価者用のメモ用紙(名前や、友だちの名前等、実施中に必要となる最低限の情報を書き込むためのメモ用紙)

実施前の準備

- 語彙カードを番号順に揃え、ばらばらにならないようにリングでとめるなどしておきます。
- 語彙カードをテンポよくめくることができるように、練習しておきます。

(5) 実施手順

座り方

- 座り方は、子どもの正面に向き合わずに、机の角を挟んで座ることによって、子どもと同じ目線でカードが見られます。また威圧感を軽減することにもつながります。

録音機器のスイッチを入れる

- 録音機の状態を確かめ、スイッチを入れてから、**DLA** 〈はじめの一歩〉を始めます。

対話の実施

- DLA** 〈はじめの一歩〉実践ガイドの「実施者の発話」(☺マーク)に書いてある通りに話し対話を進めていきます。

(6) 実施上の留意点

〈流れを重視する〉

- 子どもに合わせて、自然な速さで会話を進めます。できるだけ、テンポよく子どもの興味や関心を高められるよう工夫することが大切です。
- 普段から接している子どもで、冒頭の「初対面のあいさつ」(自己紹介)が不要な場合は、スキップしてください。
- 途中で児童生徒の発話を遮ったり、否定したり、訂正しないでください。
- 「導入会話」で、子どもが応答に困ったり、「わからない」と言ったら、もう一度質問を繰り返します。この場合、説明を加えたり、言い回しを変えたりしないでください。質問を3度繰り返しても応答出来ない場合には、そこで流れを止めずにつぎの作業に移ってください。
- 「語彙力チェック」で、子どもが答えに詰まったり間違えたりしても、正解を教えたり訂正したりせずに、さっと次のカードへ移ります。

〈雰囲気作り〉

- 話し言葉が流暢な子どもであっても、テストと聞くと緊張したり、拒否反応を示したりすることも考えられます。和やかな雰囲気作りを心がけてください。
- 子どもの応答に対して、相づちを打ったり、うなずいたりして反応します。
- 実施者にとっても 〈はじめの一歩〉はウォームアップとしても大切な活動になります。常に子どもから発話を引きだそうという意識をもって対応してください。教師ではなくファシリテーター(引き出し役)の役割を担うことが大切になります。

〈対話中は採点しない〉

- 子どもの面前で診断シートを使って採点評価をしないでください。また**DLA** 〈はじめの一歩〉は他の**DLA**とセットで実施する場合が多いので、その場合は、その過程が一通り終了してから採点を行います。
- 正確な評価、記録のために録音をしましょう。

〈ほめておわる〉

- どんな日本語レベルであっても、最後には、日本語を「話した」ということを前向きに高く評価して終わってください。

(7) 次のステップへのヒント

- ・**DLA**〈はじめの一歩〉を実施しながら、子どもの様子をよく観察し、次にどのようなステップで、**DLA**〈話す〉〈読む〉〈書く〉〈聴く〉を進めるか、予測をたてます。
- ・「導入会話」と「語彙力チェック」が、大体70～80パーセント以上できると判断した場合は、次へ進むことが可能です。20～30パーセント以下であったら、次へ進まずに終了します。その中間で判断に迷う場合は、少し先へ進んでみて判断しましょう。
- ・本章の（3）でも述べたように子どもの日本語の習得度によっては、この**DLA**〈はじめの一歩〉の途中で終了することもあります。

(8) 採点のタイミングと方法

- ・**DLA**〈はじめの一歩〉の正式な採点は、録音を聴きながら、その後に続けて実施する他の**DLA**が終了した時点でまとめて行います。
- ・〈はじめの一歩〉診断シート(p20-21)の該当箇所（正答か誤答か）をチェックします。
- ・「語彙力チェック」の採点には、「正誤表」(p22)をご参照ください。
- ・尚、**DLA**〈はじめの一歩〉は文法、発音、イントネーションの善し悪しを判定するものではなく、あくまでも意味・概念が理解できているかということを判定します。例えば、「語彙力チェック」の動詞「泳ぐ」では、「泳いでいます」が出ないで「水泳」と答える場合もありますが、概念理解ができていると判断し正答とみなします。
- ・「JSL評価参照枠」に照らし合わせた全体的な評価は行いませんが、記入済み診断シートは、今後の指導の参考のために記録として保存しておくとよいでしょう。

導入会話

① 初対面のあいさつ :



こんにちは。私は、(自己紹介)です。

② 説明 : これからすることを子どものやる気が増すように楽しく説明する。



「これから、○○さん/くんが日本語でどのくらいお話ができるか知りたいです。わかることは何でも話してください。わからないときは、『わかりません』と言ってください。いいですか」

③ 質問 :

・次の順番で質問を進める。



- ①「名前を教えてください／名前は何ですか」
- ②「何年生ですか」
- ③「何歳ですか／いくつですか」
- ④「誕生日はいつですか」
- ⑤「お兄さん／お姉さん(弟・妹)がいますか」

・兄弟姉妹については、個々の子どもの状況や家族構成などに応じて柔軟に対応する。



- ⑥「友だちがいますか」
- ⑦「友だちの名前を教えてください」
- ⑧「友だちとどんなことをして遊びますか」

・タスク会話で必要となるので、しっかり友だちの名前を聞きとっておく。(メモしてもよい)



- ⑨「学校は楽しいですか／好きですか」
- ⑩「どうしてですか」

・理由をしっかり述べることができるかどうかはDLA<読む><書く><聴く>の実施が可能かどうかの判断につながる。



- ⑪「日本の学校で好きなことは何ですか」
- ⑫「日本の学校で嫌いなことは何ですか」

・⑪⑫の後に、個々の子どもに対応した質問を加えてもよい。



- ⑬「家で○○語を話しますか」



- ⑭「ひらがなが読めますか。書けますか。」
- ⑮「カタカナが読めますか。書けますか。」

・⑭⑮の質問はDLA<読む><書く>へ行くためのもの。



- ⑯「○○語が読めますか。書けますか。」

語彙力チェック

①<語彙カードが名詞の場合>(1~42)



これは何ですか。そう、目ですね。では、(実施者)が「1」といったら「目」と言ってください。「2」と言ったらこれ(指で2の絵を指しながら)を言ってください。分からないときは「わかりません」と言って下さい。いいですか。では、「1」。

②<語彙カードが動詞の場合>(43~50)

- カード43番(泳ぐ)まで来たら、次のように言う。



何をしますか。／何をしていますか。

③<語彙カードが形容詞の場合>(51~55)

- カード51番(短い)まで来たら、次のように言う。



どんなスカートですか。

・「どんな」の意味がわからない場合は、次のように質問する。



これは「長い」ですね。では、これ(「短い」ほうの絵を指して)は?

次に進みましょう.....

○導入会話・語彙力チェックでのやりとりが20~30%程度の場合は、ここで終了してもよい。



これで終わりです。どうもありがとうございました。

○導入会話・語彙力チェックで半分以上やりとりができた場合は、「基礎会話」に進む。

○導入会話で会話の流暢度があり文字の読み書きができることが確認できたら、DLA<読む>または<書く>に進む。流暢度がかなり高い場合は、<聴く>に進むこともできる。

母語力を判定する(オプション)

○導入会話・語彙力チェックを通してほとんど日本語が出てこなかった場合や母語力を推定したい場合、同じ語彙カードを使って母語での語彙力をチェックするとよい。 (「では、今度は○○語(母語)でやってみましょう」のように言う。)

メモ:

- ・語彙カードは、子どもの母語による単語力の把握にも活用できる。実施方法はほぼ同じで、カードを提示して、母語で発話させる。母語でどのくらい自信を持って応答したか、また応答できた語彙の数はいくつか数えることによって、母語力レベルを推定する。詳しく測りたい場合には、母語話者に録音を聞いて評価してもらうとよい。
- ・語彙力と会話力、読解力との関係が深いことが多くの研究から分かっている。つまり、母語の語彙力がどのくらいあるかを知ることによって、母語の会話力や読解力がどのくらいあるかを推測することができる。
- ・また、母語と日本語といった二つのことばの語彙力、読解力もそれぞれ関係が深いので、母語の語彙力を知っておくことは、子どもに対してどのように日本語を指導し、どのくらいその習得を期待したらいいのかを判断するうえで、大変重要なとなる。

診断シート「導入会話」

名前 _____ (男・女) 学年(所属) _____ 年 月 日

実施者の発話	正答	無回答
① 「名前を教えてください/名前は何ですか」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 「何年生ですか」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 「何歳ですか/いくつですか」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 「誕生日はいつですか」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 「お兄さん/お姉さん（弟・妹）がいますか」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ 「友だちがいますか」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦ 「友だちの名前を教えてください。」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧ 「友だちとどんなことをして遊びますか」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑨ 「学校は楽しいですか/好きですか」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑩ 「どうして（楽しい/好き）ですか」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑪ 「日本の学校で好きなことは何ですか」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑫ 「日本の学校で嫌いなことは何ですか」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑬ 「家で○○語を話しますか」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑭ 「ひらがなが読めますか。書けますか。」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑮ 「カタカナが読めますか。書けますか」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑯ 「○○語が読めますか。書けますか」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
正答数／質問数	/16	
正答の割合	⇒ %	

名前 (男・女) 学年(所属) 年 月 日

■語彙力チェック■									
番号	語彙	正	誤	備考欄	番号	語彙	正	誤	備考欄
1	目	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		31	引き出し	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
2	まつげ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		32	黒板	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
3	口	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		33	黒板消し	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
4	唇	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		34	地図	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
5	手	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		35	はさみ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
6	親指	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		36	ノート	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
7	爪	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		37	運転手	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
8	鼻	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		38	医者	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
9	ぶどう	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		39	消防士	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
10	卵	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		40	バス	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
11	海老	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		41	飛行機	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
12	牛乳・ミルク	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		42	翼	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
13	牛	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		43	泳いでいる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
14	(牛の) 角	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		44	字を書いている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
15	(犬の) しっぽ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		45	歯を磨いている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
16	鶏	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		46	着る	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
17	馬	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		47	起きる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
18	象	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		48	座る	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
19	ねずみ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		49	掃除する	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
20	(ねこの) ひげ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		50	怒る	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
21	木	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		51	短い	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
22	葉	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		52	細い	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
23	枝	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		53	軽い	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
24	扇風機	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		54	寒い	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
25	電話	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		55	背が高い	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
26	ドア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		集計	正答数	/55	%	
27	屋根	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						
28	階段	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						
29	窓	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						
30	机	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						

「語彙力チェック」正誤表

No.	カテゴリー	正解	許容範囲	誤用例
1	I 体の一部	目	おめめ、めめ	
2	I 体の一部	まつげ		まゆげ、めゆげ
3	I 体の一部	口	口紅	
4	I 体の一部	唇		
5	I 体の一部	手	おてて、手の平	
6	I 体の一部	親指	指、指先、おとうさん指	手指
7	I 体の一部	爪		
8	I 体の一部	鼻		
9	II 食べ物	ぶどう		ふとう
10	II 食べ物	卵	にわとりのたまご	
11	II 食べ物	海老	ざりがに、伊勢えび	
12	II 食べ物	牛乳・ミルク		乳牛
13	III 動植物	牛		
14	III 動植物	(牛の)角		牛
15	III 動植物	(犬の)しっぽ		犬、いっぽ
16	III 動植物	鶏	とり	にわどり
17	III 動植物	馬	ロバ	
18	III 動植物	象	ぞうさん	
19	III 動植物	ねずみ		
20	III 動植物	(ねこの)ひげ		ねこのけ
21	III 動植物	木		
22	III 動植物	葉	はっぱ	かば
23	III 動植物	枝	木の枝	木のぼう
24	IV 機器	扇風機		
25	IV 機器	電話		携帯
26	V 家の一部	ドア	戸、扉	もん
27	V 家の一部	屋根	かわら	家、家の頭、家の上
28	V 家の一部	階段		ろうか
29	V 家の一部	窓		
30	VI 学校にある物	机	テーブル、勉強机、デスク	
31	VI 学校にある物	引き出し		机の中
32	VI 学校にある物	黒板		教室、ごくばん
33	VI 学校にある物	黒板消し	黒板の消すやつ、黒板ふき、イレーザー	こぶばんけし
34	VI 学校にある物	地図	世界、地球、マップ	ちつ
35	VI 学校にある物	はさみ		はちゃみ
36	VI 学校にある物	ノート	教科書、本、帳面	
37	VII 職業	運転手		
38	VII 職業	医者	お医者さん、医師	病院の人、病院の先生、病院の見てくれる人
39	VII 職業	消防士	消防車の人、消防隊員、消防車のおにいさん	消防署、ぼうぼうし、消防員、消防署で火をとめる人
40	VIII 乗り物	バス		バス停、車
41	VIII 乗り物	飛行機	航空機、ジェット(機)、ジャンボ(機)	
42	VIII 乗り物	翼	飛行機の羽、比翼、主翼	
43	IX 学校生活の動作	泳いでいる	泳ぐ、水泳、クロール、プール	
44	IX 学校生活の動作	字を書いている	書く、字を書く、勉強する、宿題をする	えんぴつ、書き、短いペン、習字、絵をかく、お絵かき
45	X 日常生活の動作	歯を磨いている	歯を磨く、歯磨き	はがき、歯ブラシ、歯を洗っている歯洗う
46	X 日常生活の動作	着る	着ています、服を着ている、着替え、服を着替えて、洋服を着る	
47	X 日常生活の動作	起きる	起きます、起きてる、起きた、起床(する)	ねてる／ねてない、ねむ
48	X 日常生活の動作	座る	座ります、座ってる、いすに座っている、いすに座る、腰(を)かける	いすを座る、座りなさい、座って
49	XI 仕事の動作	掃除する	きれいにする、清掃、掃除	
50	XII 感情の動作	怒る	怒っている、怒った、機嫌が悪い	悪い、こわい
51	XIII 形状	短い		ちっちやい
52	XIII 形状	細い		おそい、色鉛筆
53	XIII 形状	軽い		荷物、かばん、茶色、バッグ、かばんを持つ、大きいのかばん
54	XIII 形状	寒い		
55	XIII 形状	背が高い		

第3章 「DLA〈話す〉」

DLA〈話す〉概要

(1) 目的

- ・日本生まれの外国人児童生徒や学齢期に来日した子どもが、学校生活を通してまず最初に身につけるのが会話力です。毎日出合う教師や仲間となんとかコミュニケーションをとろうとして会話力の基礎が発達し、この会話力を土台として読む力、書く力が伸びていきます。DLA〈話す〉は、教科学習言語能力の基礎となる大事な会話力を多面的に測るものです。
- ・DLA〈話す〉は、話す力を3面で捉えます。3面とは、基礎会話・対話・認知の3つです。
- ・基礎的な文型や語彙を使って応答する基礎会話面を《基礎タスク》で、一対一でのやりとりに参加して与えられたタスクをこなせる対話面を《対話タスク》で、自分の考えや意見をまとめて述べる認知面を《認知タスク》によって測ります。この3面からトータルな「話す力」のレベルを推定します。
- ・DLA〈話す〉は、場面に依存して対応できる言語能力から認知力を必要とする言語能力まで、幅広い話す力を見ようとするものです。

(2) 対象

- ・DLA〈話す〉は、やっと最低限の受け答えができる子どもから流暢に話せる子どもまで、幅広いレベルの子どもを対象とします。
- ・ただし、〈はじめの一歩〉でほとんど受け答えが成立しなかった子どもには実施できません。

(3) 方法

- ・DLA〈話す〉実践ガイド(p28-30)に沿って、《基礎タスク》《対話タスク》《認知タスク》の順で実施します。
- ・子どもに無理強いをしてはいけないので、日本語の習得レベルによって《基礎タスク》で終了する場合や《対話タスク》で終了する場合もあり、《認知タスク》まで行って終了する場合もあります。
- ・DLA〈話す〉では、3種類の絵カードを使います。巻末資料の絵カードのうち、ピンクの枠の絵カードは《基礎タスク》ための基礎カード、黄色の枠は《対話タスク》ための対話カード、ブルーの枠は《認知タスク》ための認知カードです。使用に際しては、切り取ってカードにしてください。
- ・基礎カードは3枚、対話カードは4枚あります。順番に使用してください。
- ・認知カードは7枚ありますが、子どもの年齢に応じてその中から3、4枚を選んで使用します。
(低学年の場合は2枚)

(4) 構成

- ・DLA〈話す〉は、次の4つから構成されています。
 - ① 「DLA〈話す〉実践ガイド」 (p28-30)
実践ガイドに沿って《基礎タスク》《対話タスク》《認知タスク》を行います。
 - ② 「DLA〈話す〉基礎・対話・認知カード」 (巻末資料)
実践ガイドに沿って該当するカードを使用します。
 - ③ 「DLA〈話す〉診断シート」 (p31-35)
DLA〈話す〉を実施したあと、採点・評価に使用します。

④ 「JSL評価参照枠〈話す〉」 (p36)

採点・評価の結果を診断シートに記入した後、このJSL評価参照枠〈話す〉に照らし合わせて、日本語習得のステージを推定し、どの程度の学習支援が必要かを判断します。

⑤ 「DLA実施レポート」・「DLA採点表<全体評価>」(第7章)

「診断シート」で得られた結果を記入します。

(5) 実施の前に

- 対象となる児童生徒に合わせて使いたい認知カードをあらかじめ選び、基礎カード・対話カードと合わせて順番に揃えておきます。
⇒ 認知カードを選ぶ際は【絵カードの種類と対象年齢】を参照してください。
- (子どもの様子に応じてその場で変えてかまいませんが、迷って時間をとってしまわないように見当をつけて用意しておくことをおすすめします。)

用意するもの

- 録音(録画)機器
- 使用する絵カード(基礎カード3枚、対話カード4枚、認知カード7枚のうち3、4枚(低学年は2枚))
- DLA〈話す〉実践ガイド

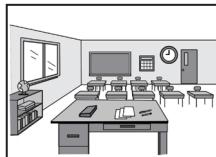
【絵カードの種類と対象年齢】

	絵カード	小学校 低学年	小学校 中学年	小学校 高学年	中学生
基礎タスク	1.教室	○	○	○	○
	2.スポーツ	○	○	○	○
	3.日課	○	○	○	○
対話タスク	4.先生に質問	○	○	○	○
	5.新しい先生	○	○	○	○
	6.友達を誘う	○	○	○	○
	7.キャッチボール事件	○	○	○	○
認知タスク	8.お話	○	○		
	9.消防車	○	○		
	10.キャッチボール事件の報告		○	○	○
	11.環境問題		○	○	○
	12.地震		○	○	○
	13.水の環境			○	○
	14.蝶の一生			○	○

○は年齢に適しているカード、○のないカードは認知レベルが適していないもの。
(詳細は、次頁からの「各絵カードのねらい」をご覧ください。)

各絵カードのねらい

◇「基礎タスク」は、初期日本語指導の段階で学習する文型の定着度を測るものです。



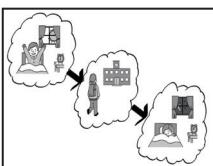
(1)「教室」

□ねらい: 存在動詞「ある・いる」を使って、物や人の存在について表現できるかどうかを見ます。2年生以上では、時間の読み方も聞きます。



(2)「スポーツ」

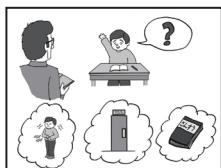
□ねらい: 「したことがあるか・ないか」(過去の経験)、「できる・できない」(可能表現)、「好きか・嫌いか」、「どちらが好きか」(比較)などの問い合わせに答える力を見ます。



(3)「日課＜起床＞＜登校＞＜就寝＞」

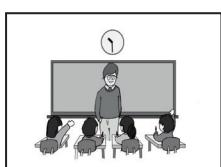
□ねらい: 動詞の現在形(習慣)と過去形の使い分け、「～て、～て」のように時系列で行動を表現する力を見ます。

◇「対話タスク」は、状況・必要に応じて自ら発話し、会話をリードする力を測定します。



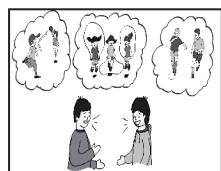
(4)「先生に質問」A,B

□ねらい: 教室で授業中にトイレに行ってもよいかどうか許可を求めることができるかどうかを見ます。また、教科書を忘れ、隣の友だちに貸してもらいたいなどの依頼ができるかどうかを見ます。



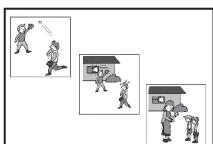
(5)「新しい先生」

□ねらい: 新しい先生に自己紹介をしたり、先生に質問をしたりすることができるかどうかを見ます。



(6)「友達を誘う」

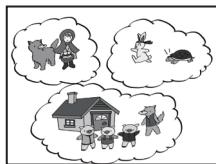
□ねらい: 友だちを誘うことができるかどうかを見ます。
会話をリードする力を見ます。(実施者は友だちの役割をします。)



(7)「キャッチボール事件」

□ねらい: キャッチボールをしていて、窓ガラスを割ってしまったと女人(その家の人に)に伝えて、丁寧に謝ることができるかどうかを見ます。

◇「認知タスク」は、教科内容と関連した内容について、まとまりのある話ができるかどうかを見ます。子どもの発達に応じて7つのカードの中から3、4枚（低学年は2枚）選びます。



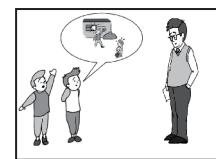
(8)「お話」カード

□ねらい: 3つの絵からなじみのあるものを選び、ストーリーを再生できるかどうかを見ます。3つのお話以外のお話でもいいです。



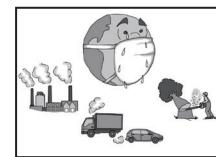
(9)「消防車」カード

□ねらい: 2台の車について、どんな役割があるか共通点と相違点について話せるかどうかを見ます。



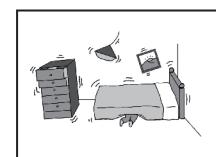
(10)「キャッチボール事件の報告」カード

□ねらい: 「キャッチボール事件」カード(7)を使って、起こったことを理由をふまえ先生に報告(説明)できるかどうかを見ます。



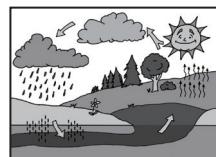
(11)「環境問題」カード

□ねらい: 地球が今どうなっているか説明する力を見ます。地球のために何ができるか意見が言えるかを見ます。中学生では、温暖化の要因・仕組みを説明できるかを見ます。



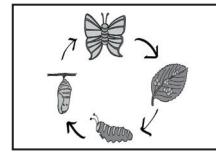
(12)「地震」カード

□ねらい: 地震の体験談を話せるかどうかを見ます。また、地震の時どうしたらよいか意見が言えるか、また、中学生では地震の要因・仕組みを説明できるかを見ます。



(13)「水の循環」カード

□ねらい: 教科の用語を使って、水の循環の仕組みを説明できるかどうかを見ます。また、水の循環に欠かせない太陽がなかつたらどうなるかという質問から、仮定の出来事に対して根拠を示して答えられるかどうかを見ます。



(14)「蝶の一生」カード

□ねらい: 理科の用語を使って、卵から幼虫、さなぎ、成虫になる変化について説明できるかどうかを見ます。

(6) 実施手順

カードの使い方・座り方

- ・カードは使用する順に積み重ね、伏せて置きます。一番上のカードを裏返すと必要なカードが現れるように重ねてください。
- ・座り方は、子どもの正面に向き合わずに、机の角などを使って座り、カードが子どもと実施者の両者から見えるように置いてください。

録音機のスイッチを入れる

- ・録音機の状態を確かめ、スイッチを入れてから、DLA〈話す〉を始めます。
- ・〈はじめの一歩〉に続けて実施する場合はすでに録音機のスイッチは入っています。

タスクの実施

- ・DLA〈話す〉実践ガイドの「実施者の発話」(☺マーク)に書いてある通りに話します。
- ・カードを一枚ずつめくりながら、対話を進めていきます。
- ・《基礎タスク》《対話タスク》《認知タスク》の順に進めていきますが、どうしても対話が続かず子どもが沈黙してしまう状態が続いたら、《基礎タスク》もしくは《対話タスク》の段階で終わってもかまいません。

(7) 実施上の留意点

<流れを重視する>

- ・基礎タスク、対話タスク、認知タスクは、それぞれ途中でとまらず実践ガイドに沿って一気に行います。そのために、会話の流れを頭に入れておく必要があります。
- ・途中で児童生徒の発話を遮ったり、否定したり、訂正しないでください。
実施者の質問が分からぬ場合は、文言を変えずに3度ぐらい繰り返してください。
それでも分からぬ場合は、そこで流れを止めずにつぎの作業に移ってください。

<対話中は採点しない>

- ・子どもの面前で診断シートを使って採点評価をしないでください。採点評価は実施後に行います。正確な評価、記録のために録音をしましょう。

<ほめておわる>

- ・どんな日本語レベルであっても、最後には、日本語を「話した」ということを前向きに高く評価して終わってください。

(8) 評価の方法

- ・録音を聞きながら採点・評価をします。

評価の手順

- ・まず診断シート(p31-34)を使用し、質問に答えられたか・タスクが実施できたかについて平均点を出し(量的評価)、次に、その結果を踏まえ、質的評価シート(p35)で回答の質について平均点を出します。この二つを併用してJSL評価参照枠(話す)(p36)のステージの判定を行います。
- ・量的評価は「正答」「無回答」の2択で行います。評価者の問い合わせに対して意味のある回答ができたら「正答」、質問が理解できなかつたり不適切な返答もしくは無回答の場合には「無回答」にチェックします。
- ・質的評価は5点(とてもよい)、3点(ふつう)、1点(もうすこし)のあてはまるものに○をつけます。

評価項目とJSL評価参照枠との関係

- ・質的評価シートの評価項目はJSL評価参照枠の項目に対応しています。
- ・評価結果と参照枠の記述を総合的に照らし合わせて、ステージを判定してください。

■基礎タスク■

☺実施者の発話	留意点
■「教室」カード (1) <p>○ 「これからカードを見て、先生と少しお話をします。先生が言うことがわからない時は、わからないと言ってもいいですよ。では始めましょう」</p> <p>① 「ここはどこですか」</p> <p>② 「この部屋に、何がありますか」</p> <p>③ 「先生の机はありますか」</p> <p>④ 「では、先生のいすは？」</p> <p>⑤ 「先生はいますか」</p> <p>⑥ 「では、子どもは？」</p> <p>⑦ 「ペンはどこにありますか」</p> <p>⑧ 「時計はありますか」</p> <p>⑨ 「今、何時だと思いますか」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・質問の順番を変えないこと <ul style="list-style-type: none"> ・質問文を途中の形にして「あります／います」を誘導する。 ・絵を指差して「ここ」と言われないよう気をつける。 ・質問文を途中の形にして「あります／います」を誘導する。 ・「ペン」を「鉛筆」と言い換てもよい。 ・①の答えの中に時計が含まれている場合は、「時計がありますね」とする。
■「スポーツ」カード(2) <p>① 「スポーツ（運動）が好きですか」</p> <p>② 「○○さん／くんは、どんなスポーツ（運動）ができますか」</p> <p>③ 「（スポーツ名）は？」</p> <p>④ 「（スポーツ名）をしたことがありますか」</p> <p>⑤ 「（スポーツ名）と（スポーツ名）と、どちらが好きですか」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツをまだ直接経験していない子どもの場合は、親や年上の兄弟ができるスポーツについて聞く。 <ul style="list-style-type: none"> ・質問文を途中の形にして、「できます・できません」を誘導する。 ・スポーツ名がまだ分からない年少児の場合は、評価者が絵を指でさして、「これ」と「これ」とどちらが好きかと聞くとよい。
■「日課<起床><登校><就寝>」カード (3) <p>① 「今朝、何時に起きましたか」</p> <p>② 「それから何をしましたか」</p> <p>③ 「いつも何時ごろ寝ますか」</p> <p>④ 「家に帰ってから、いつもどんなことをしますか。寝るまでのことを話してください」</p> <p>ほとんど応答ができなかった場合にはここで終わる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時間について質問する。 ・過去形の定着度を調べる。 ・習慣的動作について質問する。 ・「て形」を使って、動作を時系列でつなげることができるかどうかを見る。



「これで終わりです。どうもありがとうございました」

質問にだいたい答えられたら、間を空けずにそのまま対話タスクへ進む。

■対話タスク■

☺ 実施者の発話	留意点
■「先生に質問」カード (4) A,B	
(4)A ①「大変です。○○さん/くんは、トイレに行きたく（お腹が痛く）なりました。先生に何と言いますか。私は先生です」	<ul style="list-style-type: none"> カードの下の、「トイレ／お腹が痛い子ども」の絵を指差して質問する。 許可を求められるかどうかを見る。
(4)B ①「○○さん/くんは、教科書を忘れました。隣の席の友だちに見せてもらいたいです。その友だちに何と言いますか」	<ul style="list-style-type: none"> Aに続いて今度は、カード下の「教科書」の絵を指差して質問する。 依頼ができるかどうかを見る。
■「新しい先生」カード (5)	
①「今日から新しい先生です。まず、自分（○○さん/くん）の紹介をしてください。それから、先生に質問を2つしてください。私はその新しい先生です」	<ul style="list-style-type: none"> 実施者は新しい先生の役割りをする。
■「友達を誘う」カード (6)	
①「今日、学校が終わったら、○○さん/くんと遊びたいです。○○さん/くんを誘ってください。下駄箱のところで会いました」	<ul style="list-style-type: none"> 導入会話のところで聞いておいた、友達の名前を使う。そして、実施者は友達の役割をする。 このタスクは、子どもが進んで自ら話を切り出し、誘い、時間、場所などを決めて、会話をしめくくる力を見るものであるから、実施者が主導権を持ってしまわないように留意する。
■「キヤッチボール事件」カード(7)	
①「○○さん/くんは、今友達とキヤッチボールをしています。このようなことが起こりました。この家の人に（女人の）人)にしたことを話して、丁寧に謝ってください」	<ul style="list-style-type: none"> カード(左)(中)(右)を順に指しながら説明する。
②「何をしたんですか」	<ul style="list-style-type: none"> 実施者はこの家の人に（女人の）人)の役割をする。怒っている様子を演じる。

ほとんど応答ができなかった場合にはここで終わる。



「これで終わりです。どうもありがとうございました」

タスクがだいたいこなせたら、間を空けずにそのまま認知タスクへ進む。

■認知タスク■

●子どもの年齢(学年)に応じてカードを3, 4枚(低学年は2枚カード8, 9のみ)選んで実施する。

◎ 実施者の発話	留意点
■「お話」カード(8) (低・中学年)	
①「小さい子どもが何かお話をしてと頼みました。お話をしてあげてください」	・1つお話を選んで話す。なるべく「三匹のこぶた」を勧める。
■「消防車」カード(9) (低・中学年)	
①「この車の名前を知っていますか」 ②「どんな働きをする車ですか。何のために使いますか」 ③「同じところは何ですか／違うところは何ですか」	・二つの車両を順番に指差さして、質問する。 ・二つの車両の働きで、共通点と相違点を質問する。
■「キャッチボール事件の報告」カード(10) (中学年以上)	
○(「キャッチボール事件」カード(7)を使って) ①「このカードを見てください。このカードを使って、起きたことを先生に報告してください」	・一連の事件について理由をふまえて、説明できるかどうかを見る。
■「環境問題」カード(11) (中学年以上)	
①「地球が泣いています。どうして泣いていると思いますか」 ②「どうすればいいと思いますか」 ③「温暖化について学校で習いましたか。温暖化がどうして起こるか説明してください」	・中学生向けの設問。要因、仕組みについて教科の用語を使って説明できるかを見る。
■「地震」カード(12) (中学年以上)	
①「地震に遭ったことがありますか」 ②「その時のこと話をしてください」 ③「学校で地震が起きたら、どうしますか」 ④「地震について学校で習いましたか。地震がどうして起こるか説明してください」	・子ども自身が地震を体験したことがない場合には、親の体験などについて話すよう促す。 ・中学生向けの設問。要因、仕組みについて教科の用語を使って説明できるかを見る。
■「水の循環」カード(13) (高学年・中学生)	
①「水の流れについて説明してください」 ②「私たちが飲む水は、どこからきていると思いますか」 ③「雨が降らなかったら、地球はどうなると思いますか」 ④「太陽がなかったら、どうなると思いますか」	・小学校高学年・中学生向きの設問。
■「蝶の一生」(14) (高学年・中学生)	
①「これは何ですか」 ②「はい、蝶ですね。蝶の一生について話してください」	



「これで終わりです。どうもありがとうございました」

名前 _____ (男・女) 学年(所属) _____ 年 月 日

■基礎タスク■		
評価項目	評価	
	<input type="checkbox"/> 正答	<input type="checkbox"/> 無回答
	<input type="checkbox"/> に☑	
■「教室」カード (1)		
① 「ここはどこですか」 (場所の認識)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 「この部屋に何がありますか」 (モノの存在)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 「先生の机はありますか」 (モノの所在)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 「では、先生のいすは？」 (ある／いるの選択)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 「先生はいますか」 (動詞の否定)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ 「では、子どもは？」 (動詞の否定)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦ 「ペンはどこにありますか」 (存在の位置)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧ 「時計はありますか」 (ある／いるの選択)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑨ 「今、何時だと思いますか」 (時刻) *学習済みの子どものみ評価	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
■「スポーツ」カード (2)		
① 「スポーツ（運動）が好きですか」 (好き・嫌い)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 「どんなスポーツ（運動）ができますか」 (可能表現の理解)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 「（スポーツ名）は？」 (可能表現の選択)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 「（スポーツ名）をしたことがありますか」 (過去の経験)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 「○○と○○と、どちらが好きですか」 (比較)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
■「日課<起床><登校><就寝>」カード (3)		
① 「今朝、何時に起きましたか」 (時刻、過去の動作)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 「それから何をしましたか」 (過去の動作)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 「いつも何時ごろ寝ますか」 (習慣的動作)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 「家に帰ってから、いつもどんなことをしますか。 寝るまでのことを話してください」 (継起的動作)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
評価の目安	評価結果	
□正答：質問の意味を理解し、返答が自然で適切	/18 %	
□無回答：質問が理解できない、返答が不適切、無回答	(/ %)	
※文法上、語彙上の誤用があっても、ここでは減点とはしません。 p.35の質的評価の「文法的正確度」や「語彙」で評価します。	途中でやめたり、 質問数が異なった場合	

診断シート 対話タスク

名前 _____ (男・女) 学年(所属) _____ 年 月 日 _____

■対話タスク■		
評価項目	評価	
	<input type="checkbox"/> 正答	<input type="checkbox"/> 無回答
	<input type="checkbox"/> に☑	
■「先生に質問」カード(4)A,B		
(4)A ① 先生に許可を求める	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(4)B ① 友だちに依頼する	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
■「新しい先生」カード(5)		
① 自己紹介をする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 質問1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 質問2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
■「友達を誘う」カード(6)		
① 会話を切り出す	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 誘う	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 時間、場所の取り決め	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 会話をしめくくる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
■「キャッチボール事件」カード(7)		
① 起こったこと／してしまったことを伝える	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 謝る	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

評価の目安	評価結果
□正答：質問の意味を理解し、返答が自然で適切	/11 %
□無回答：質問が理解できない、返答が不適切、無回答 ※文法上、語彙上の誤用があっても、ここでは減点とはしません。 p.35の質的評価の「文法的正確度」や「語彙」で評価します。	(/ %) 途中でやめた場合

名前 (男・女) 学年(所属) 年 月 日

■認知タスク■		
評価項目	採点/評価	
	<input type="checkbox"/> 正答 <input type="checkbox"/> 無回答 <input type="checkbox"/> に☑	
■「お話」カード（8）		
① 話の展開1（はじめの部分）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 話の展開2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 話の展開3（終わりの部分）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
■「消防車」カード（9）		
① 消防車・はしご車の働き・役目を話す	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 2つを比べて、働きについて共通点・相違点を説明する	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
■「キャッチボール事件の報告」カード（10）		
① 事件の前（何をしていたか）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 事件（何が起こったか）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 対処（謝ったこと）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
■「環境問題」カード（11）		
① 地球が泣いている理由を述べる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 対策（問題解決）の意見を述べる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 温暖化の要因について説明する *中学生のみ評価対象	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
■「地震」カード（12）		
① 地震の経験について述べる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 緊急事態の対策について意見を述べる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 地震の仕組みについて説明する *中学生のみ評価対象	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

診断シート 認知タスク（2）

名前 _____ (男・女) 学年(所属) _____ 年 月 日

評価項目	採点/評価
	<input type="checkbox"/> 正答 <input type="checkbox"/> 無回答 <input type="checkbox"/> に☑
■ 「水の循環」カード（13）	
① 水の循環について説明する	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
② 仮定の出来事（太陽がなかったら）に対して、根拠を示して結果を推測する	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
■ 「蝶の一生」カード（14）	
① 蝶の一生について説明する	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

評価の目安	評価結果の集計
<p><input type="checkbox"/>正答：質問の意味を理解し、返答が自然で適切</p> <p><input type="checkbox"/>無回答：質問が理解できない、返答が不適切、無回答</p> <p>※文法上、語彙上の誤用があっても、ここでは減点とはしません。 p.35の質的評価の「文法的正確度」や「語彙」で評価します。</p>	<p>/ %</p> <p>カード番号 ()</p>

名前: (男・女) 学年(所属): 年 月 日

当てはまる評価点(5・3・1)に○をつける。判断に揺れる場合は、中間を選択し、2点、4点をつけてよい。

■評価基準■ 5:とてもよい 3:ふつう 1:もう少し

DLA＜話す＞ 《質的評価》			
話の内容とまとまり			
基礎・対話タスク達成度	課せられたタスクがこなせる	5	3 1
認知タスク達成度	内容が豊富でまとまりのある話、説明、理由、意見等が言える	5	3 1
文・段落の質			
文の質	自分で単文が作れる	5	3 1
段落の質	単文ばかりでなく、複文を使い、段落を構成できる	5	3 1
文法的正確度			
文法的正確度	正しい文法で話すことができる	5	3 1
語彙			
日常語彙	身近な日常語彙が使える	5	3 1
語彙の質 (教科学習語彙)	話題や内容に相応しい語彙を選んで、正しく使うことができる (教科学習語彙を含む)	5	3 1
発音・流暢度			
発音・イントネーション	自然な発音やイントネーション、だれが聞いてもわかる	5	3 1
流暢さ	やり取りが自然でなめらかである	5	3 1
話す態度			
話す態度	自分から進んで発言し、会話をリードできる	5	3 1
合計⇒ /10=平均⇒			

母語学習「のこ」「〈や跡〉」「「〇〇」」の発達

ステージ	話の内容・まとまり	文・段落の質	文法的正確度	語彙	発音・流暢度	話す態度
6	□年齢相応の教科内容と関連した認知タスクが、こなせる	□まとまとった話が1人でできる	□文法的正確度が高い	□年齢相応の教科内容と関連した認知タスクが、こなせる	□発音が自然で、流暢度が大変高い	□自分から進んで発言し、会話を自らリードできる
5	□年齢相応の教科内容と関連した認知タスクがある程度こなせる	□ある程度まとった話ができる	□文法的正確度がある程度高い	□教科学習語彙がある程度使える	□発音が自然で、流暢度が高い	□様々な会話に積極的に参加することができる
4	□対話タスクがこなせる	□文を生成し、ある程度連文ができる	□連文レベルで誤用がほとんど目立たない	□日常語彙が使える	□発音が自然で、流暢度がある	□聞かれた質問に答えることができる
3	□対話タスクがある程度こなせる	□単文レベルの応答ができる	□単文は生成できるが、助詞や活用などの誤用が目立つ	□身近な日常語彙が使える	□流暢度が低い	□聞かれた質問に答えることができる
2	□基礎タスクがある程度こなせる	□二語文	□語順が流れ、活用が不正確	□基礎語彙が使える	□流暢さなし	□定型表現や知らない単語でコミュニケーションをとろうとする
1	□基礎タスクの質問にいくつか答えられる	□一語文	□単語レベル	□わざかな基礎語彙が使える	□流暢さなし	□ジェスチャーや表情でコミュニケーションをとろうとする

第4章 「DLA〈読む〉」

DLA〈読む〉概要

(1) 目的

- 教科学習言語能力の育成のためには「読書力」の育成が重要となります。
- 「読書力」とは、まとまりのある文章を読んで理解する「読解力」、文章をよりよく理解するために児童生徒が使用する読解ストラテジー（方略）や、文字・単語・文の読みの流暢さを表す「読書・音読行動」、そして本や読書への関わりや態度を示す「読書習慣・興味・態度」の3つの面からなる力を指します。
- DLA〈読む〉では「読書力」を測ります。このDLA〈読む〉を通して、多角的に読書力を測ることで指導のヒントを得ると同時に、児童生徒が本に興味を示し、読書が好きになるきっかけを作ることを目指しています。

(2) 対象

- DLA〈読む〉は、会話の流暢度があり、低学年では文字の習得が始まっている児童、高学年、中学生では短いまとまりのある文章が読めるようになっている児童生徒を対象とします。
- 例えば、学齢期の途中で来日し、高学年であっても日本語の文字を十分に習得できていない児童生徒に対しては使用できません。

(3) 方法

- まず、対象となる児童生徒が読めそうなテキストを、別冊資料の「DLA〈読む〉レベル別テキスト」から一つ選びます。
- そして、そのテキストに対応したDLA〈読む〉実践ガイド（本章のp42-62）にそってテキストを読み、評価者との一対一での対話を通して、内容をどの程度理解しているかを測ります。

(4) 構成

- DLA〈読む〉は、次の4つからなっています。
- ① 「DLA〈読む〉レベル別テキスト」（別冊資料）
7つのテキストがあります。児童生徒の年齢、滞在年数、日本語レベルを考慮しつつ、児童生徒主体で選択します。
- ② 「DLA〈読む〉実践ガイド」（p42-62）
7つのレベル別テキストに対応したDLA〈読む〉実施の手引きです。実施者はここに書かれている手順、声かけ・発問例に従って進めます。
- ③ 「DLA〈読む〉診断シート」（p63-71）
DLA〈読む〉を実施したあと、採点・評価に使用します。
- ④ JSL評価参照枠「読む」（p72）
採点・評価で診断シートに記入した結果を、JSL評価参照枠「読む」に照らし合わせて、ステージを決定します。

（5）実施の前に

用意するもの

- ・**DLA**（読む）の実施には以下のものを使用します。
 - ・選択したテキストに対応した**DLA**（読む）実践ガイド（p42-62）
 - ・対象児童生徒が読めそうなテキスト2～3冊（別冊資料から選ぶ）
(テキストを選ぶ基準は下記の【テキストの対象年齢】を参照)
 - ・録音（録画）機器（ICレコーダー、MD、テープレコーダーなど）

使用テキストの選択方法

- ・**DLA**（読む）では、以下の計7冊のレベルの異なるテキストを別冊資料として添付しました。
下の【テキストの対象年齢】の表を参考にし、児童生徒の現年齢、滞日期間や入国年齢、興味や既存知識、その他の条件を考慮した上で最初に手にするテキストを選びます。

【テキストの対象年齢】

レベル	内容	年齢枠	6-7歳 (1年生)	7-8歳 (2年生)	8-10歳 (中学生)	10-12歳 (高学年)	12-15歳+ (中学生)	別冊 頁番号	実践 ガイド 頁番号
A (就学前児童用)	「えんそくのおとしもの」		○	○				5	42
B (小学1年生前半用)	「ことりと木のは」		○	○	○			21	45
C1 (1年生後半用)	「花いっぱいになあれ」	●						29	48
C2 (2年生用)	「あつまれ、楽器」			●	○		○	45	51
						○			
D (中学生用)	「貝がら」				●	○	○	51	54
E (高学年用)	「アニメーションとわたし」					●	○	63	57
F (小学校終了～中学校前半用)	「自然を守る」					○	●	75	60

- ・実践ガイドに沿って、まず、表中の黒丸（●）のテキストを児童生徒に手渡し、子ども自身が難しいと言った場合に、下のレベルのテキストに変更します。
- ・黒丸（●）で示したテキストが難しいと初めからわかっている場合は、その下のレベルのテキストからスタートしてもかまいません。
- ・レベルC1とC2は、どちらも小学校低学年用の教材ですが、物語文か説明文かというテキストタイプの違いがあります。小学2～4年生の子どもに対して、このレベルCのテキストを使用する場合は、子どもの好みに合わせてどちらかを選んでください。
- ・但し、丸（○）のついていないレベルのテキストは、認知レベルやテーマが適していないため使用すべきではありません。例えば、中学生でレベルDのテキストが読めるだけの力がまだ身についていない児童生徒には、**DLA**（読む）は使用できません。
- ・尚、この7つのテキストのうち、レベルAのテキストは本事業のための書き下し、BからFのテキストは、以前の国語教科書（光村図書出版株式会社）に掲載された作品を集めた『光村ライブラリー』（2002、光村図書出版株式会社）から選んだものです。詳しい出典、作者等については、別冊資料の最後のページをご参照ください。

テキスト中の漢字のルビについて

- ・レベルB、Cは全ての漢字に、レベルDでは中学年での新出漢字に、レベルE、Fでは高学年での新出漢字にルビが振られています。もし、既習漢字の読みの力を測定したい場合は、ルビを減らしてもかまいません。ただし、漢字の負担から、読みへの抵抗感が強まらないように配慮する必要があります。

(6) 実施手順

- 実践ガイドにしたがって、「読むまえに」「読みましょう」「話しいましょう」「読んだあとで」の順に進めます。

① 読むまえに

興味・関心

- 1～2つのキーワードを確認し、テーマについて児童生徒の関心を引き出します。

予測・推測

- レベルに応じて、絵や挿絵を見たり、テキストの最初の部分を読み聞かせて、内容を予測・推測させます。

② 読みましょう

読み聞かせ・音読・黙読

- 実施者と一緒に1冊のテキストを最後まで読みます。実践ガイドに従って、実施者が読み聞かせをし、その後に児童生徒が音読、あるいは黙読をします。
- 音読、黙読の際は、児童生徒が漢字の読み方や語彙の意味を質問した場合にはすぐに答えます。間違って読んだ場合でも訂正しません。

③ 話しいましょう

あらすじ・要旨の口頭再生

- テキストを閉じて、読んだ内容についてあらすじや要旨を口頭で再生させます。
- あまり再生できない場合でも、「一緒に最初から思い出してみましょう」「初めに誰が出てきましたか」「それから?」「最後にどうしましたか」等と声かけをし、児童生徒の発話を最大限に引き出します。
- 再生ができない場合に児童生徒にもう一度テキストを見せるとはお勧めしません。理解したことを再生するのではなく、読んでしまうケースが多いためです。(特にレベルD以下のテキスト)

理解を深めるやりとり・解釈・感想・意見

- 口頭再生に含まれなかった情報について追加質問をしたり、理解を深めるための質問をしたりします。また、内容についての感想や意見、その意見の理由や根拠を聞きます。
- レベルE、Fでは、この時点で再度テキストを見せてもらいません。

④ 読んだあとで

ふり返り・読書習慣に関する質問

- やりとりをふり返り、児童生徒の頑張りを認めた上で、普段の読書習慣や読書・言語環境、読書についてどのように感じているか話し合います。

読みへの内省

- 高学年や中学生の場合は自分自身がどのように読んで、どのように理解しているかということに対する内省を促します。

(7) 実施上の留意点

- 話し合ったり、励ましたりしながら、児童生徒の理解を深め、発話をできるかぎり引き出します。
- 途中で児童生徒の読みや話を遮ったり、否定したり、訂正してはいけません。
- 質問されたとき以外は答えを教えません。質問されたときはわかりやすく答えます。
- 良いところを見つけて、積極的に褒めます。
- この時間が児童生徒にとって楽しい読書の時間となるように心がけます。
- DLA〈読む〉では、日本語が出てこない場合に母語で答えさせたり、絵や図表を示して答えさせたりしてもかまいません。児童生徒の話す内容を録音して、測定終了後に、母語話者に聴いてもらうとよいでしょう。
- 測定中に診断シートに評価を記入してはいけません。正確な評価、記録のために録音をしましょう。

(8) 評価の方法

- **DLA**（読む）が終了したら、採点・評価にうつります。

用意するもの

- DLA（読む）の採点・評価には以下のものを使用します。
 - 録音（録画）したデータ
 - 読んだテキストに対応した**DLA**（読む）診断シート（本章p63-71）
※テキストレベルC2とDの診断シートは、対象児童生徒の年齢枠に応じて、2つの種類が準備されているので、該当するほうを使用。
 - JSL評価参照枠「読む」

評価手順

- 録音したデータを聞きながら、読んだテキストに対応する診断シート（p63-71）に示された評価項目について、5点（とてもよい）、3点（ふつう）、1点（もう少し）で採点します。判断に揺れる場合は、2点、4点をつけてもかまいません。
- 総合得点の平均点を算出します。
- それぞれの診断シートに示されたテキストレベルと算出した評価点を、JSL評価参照枠「読む」（p72）に照らし合わせ、また、普段の学習活動の様子もふまえて、総合的にステージを判定します。

診断シートの評価項目とJSL参照枠との関係

- 診断シートには、テキストレベルと年齢枠に応じた評価項目が記載されています。診断シートの評価項目とJSL評価参照枠「読む」との対応関係は下記の通りです。

「読む」評価 参照枠	診断シートの評価項目	年齢枠・テキスト		10-15歳+ (高学年・中学生)
		A	B, C, D	
読解力	順序・流れ／構成（あらすじ）	○	○	
	人物・場面（様子）／描写・説明	○	○	
	感想	○	○	
	内容理解と要約			○
	要旨・主題の解釈			○
	要旨・主題に対する意見			○
読書行動	予測・推測	○	○	○
	音読のつまずきへの対処		○	○
	自分の読みへの内省			○
音読行動	文字と音の対応	○		
	カタカナ語の識別と読み	○		
	特殊読み	○		
	音読の正確さ	○	○	○
	区切り方		○	○
	表現・イントネーション		○	○
漢字語彙	あらすじ再生での重要な語彙の使用度	○	○	○
	語彙や漢字の読み		○	○
興味・読書習慣	読書嗜好	○	○	○
	読書の質と量	○	○	○

（9）備考

テキストの代用について

- **DLA（読む）** の実施方法、評価方法に慣れてくれば、この7冊のテキストだけでなく、それぞれのレベル（AからF）に該当する市販のテキストで代用しても構いません。それぞれのレベルの示す大まかな特徴は、下記のとおりです。

レベル	特　　徴
A	就学前児童向けテキスト。絵のみでもストーリーが推測できる絵本。文、単語の繰り返しによって時系列に話が進むもの。1ページに1～3文程度。全体で80～350文字程度の長さ。
B	小学1年生前半の児童向けテキスト。ごく簡単で身近なストーリーの絵本や挿絵が多い物語文。1ページに3～6文。全体で300～800文字程度の長さ。
C1	小学1年生後半の児童向けテキスト。簡単なまとまり（ストーリー）のある挿絵や写真付きの物語文。全体で1000～2600文字程度の長さ。
C2	小学2年生向けテキスト。身近なテーマで、簡単なまとまり（構成）のある挿絵や写真付き説明文。全体で500～1000文字程度の長さ。
D	小学校中学年向けテキスト。登場人物、場面、心情の描写が加わった物語文や、因果関係に関する説明が加わった社会・理科的内容の説明文。やや長めで章立てがある。
E	小学校高学年向けテキスト。子どもを対象とした文学作品や、伝記、教科語彙を含む自然や社会的なテーマの説明文。
F	小学校終了から中学校前半向けテキスト。子どもを対象とした文学作品や、伝記、教科語彙を含む自然や社会的なテーマの説明文。主にEよりも語彙や漢字の難易度が高い。

読むまえに...

① 手順の説明：これからすることを子どものやる気が増すように楽しく説明する。



これから本と一緒に読みましょう。はじめは私が読んで、その後を○○さんに読んでもらいますね。読み終わったら、どんなお話だったか話しましょう。

② テキスト選び：いっしょに読む本を決める。

- ・テキストを子どもにわたす。



これは『えんそくのおとしもの』というお話です。
はじめは私が読んで、○○さんには、ここ（12ページはじめ）から読んでもらいます。

③ 興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。

- ・次のことばの理解を確認し、知らない場合は教える。



「えんそく」に行ったことがありますか。
「えんそく」は好きですか。／楽しかったですか。

④ 予測：テキストの絵を見せ、テーマについて予測させる。



絵を自由に見ていいですよ。
これはどんなお話だと思いますか。

メモ：

このテキストは、ひらがな、カタカナの拾い読みの段階の低学年児童に適している（テーマが認知発達レベルに適さないため、中学年以上（特に高学年以上）には原則として使用しない）。この段階の児童は読みながら内容を理解することは難しいと考えられるが、絵を見ながら、本の楽しさを感じ、流れを想像できるとよい。「読みましょう」では、後半を子どもが読むことになっているが、子どもの様子をみながら、最後のほうを一緒に読んでもよい。また、逆に意欲があり、「1人で読みたい」と言う子どもに対しては、自分で読むようにすすめてかまわない。「話し合いましょう」でも、じっくり待って、はげましたり、認めたり、子どもの発話をつなげたりするなど、スマールステップのサポートを心がける。

また母語での読みの力が高く、日本語学習期間が短いためにこのテキストを選んだ子どもの場合は、音読の流暢度やあらすじの再生力が不十分であっても、内容をよく理解できている場合もある。その場合は、最後に母語であらすじ再生を求めたり、話し合ってもよい。最後に子どもが「読めた」「話せた」という達成感をえられるようサポートする。

読みましょう…

① 読み聞かせ：最初は実施者が読み、子どもはテキストを見ながら聞く。

- ・テキストを子どもに見せながら、初めから10ページの最後まで実施者が声にだして読む。



ではこれからいっしょにこの本を読みましょう。はじめは私が読みますね。後でどんなお話を聞きます。しっかり聞いていてください。

② 音読：続きを子どもが読む。

- ・12ページの初めからテキストの最後までを子どもが指で押さえながら読む。



これから○○さんに読んでもらいます。ここから最後まで声に出して読んでください。後でどんなお話を聞きましたね。しっかり読んでください。はい、どうぞ。

- ・実施者は音読の区切り方やつまずいた時にどのように対処するかということに注意しながら聴く。(特に訂正や指導はしない)

- ・終わったら、声かけをする。



とても上手に／頑張って、読めましたね。

話しあいましょう…

① あらすじ再生：テキストをとじて、子どもがテキストの内容を再生する。

実施者は「それから？」などと声かけをしつつ、子どもの話を最大限に引き出す。



ではこのお話はどんなお話でしたか。はじめてこのお話を聞く人にわかるように話してください。終わったら『終わりです』と言ってください。はい、どうぞ。

- ・下の『あらすじチェック』を参考に、どのくらい理解できているかをチェックする。重要な内容をふまえて、まとめて言ってもよい。下記のようなテキスト通りの言い方でなくともよい。

あらすじチェック

- 1. きょうは、(ももちゃんは)えんそく。
- 2. すいとうがおちちゃつた。
- 3. 「これはなんだろう」と、くまさん。
- 4. サンドイッチがおちちゃつた。
- 5. 「これはなんだろう」と、うさぎさん。
- 6. チョコレートもおちちゃつた。
- 7. 「これはなんだろう」と、りすさん。
- 8. (おべんとうの時間、リュックサックの中には)なにもない。
- 9. くまさんとうさぎさんとりすさんが、「おとしものだよ。」とはしつてきた。
- 10. みんなでいっしょに「いただきます。」

② 理解を深めるやりとり：「絵」を見て、話し合いながら、理解を深める。

- ・再生が難しかった場合、「文字」ではなく、「絵」を見ながら、順序にそって、ストーリーを追い、その中で、子どもの発話を引き出す。

③ 文字と音の認識：文字と音との対応ができているか再度、確認する。

- ・9ページをひらいて、次の質問をする。



「くまさん」という言葉はどこにありますか。
「は」(wa)という字はありますか。／どこにありますか。

- ・10ページをひらいて、次の質問をする。



「サンドイッチ」という言葉はどこにありますか。

- ・14ページをひらいて、次の質問をする。



「へ」(e)という字はありますか。／どこにありますか。

④ 解釈・感想：話を読んで、また自分の体験と結びつけてどう感じたか話し合う。



このお話は面白かったですか。 どこが一番面白かったですか。
どうしてそこが一番面白かったですか。 思い出したことや考えたことはありますか。

読んだあとで....

① ふり返り：全体をふり返り、良いところを見つけてしっかりほめる。



はい、これで終わりです。頑張りましたね。難しかったですか、簡単でしたか。
○○さんはとても上手に／頑張って○○できましたね。○○がよくわかっていますね。

② 読書習慣：本や本を読むことについて話し合い、読書への興味・関心を高める。



本は好きですか。よく本（教科書ではない本）を読みますか。
自分で読むのと、お話を聞くのどちらが好きですか。
おうちの人によく○○語／日本語の本を読んでもらいますか。
どんな本（お話の本、絵本、クイズ、めいろ、ずかん、マンガなど）が好きですか。
好きな本の名前を教えてください。（わかれば）

- ・母語での読みの力が高い子どもには、次のような質問をしてもよい。



○○語ではよく本を読みますか。
○○語でどんな本を読みますか（絵本、図鑑、物語、説明の本、教材など）
一週間にどのくらい○○語で本を読みますか。



ではこれからもたくさん本を読んでください。ありがとうございました。

読むまえに...

① 手順の説明：これからすることを子どものやる気が増すように楽しく説明する。



これから本と一緒に読みましょう。はじめは私が読んで、その後を○○さんに読んでもらいますね。読み終わったら、どんなお話だったか話しましょう。

② テキスト選び：いっしょに読む本を選ぶ。

- ・テキストを子どもにわたす。



これは『ことりと木のは』というお話です。どうですか。
読めそうですか。もう少しやさしい本にしますか。

- ・22ページ(1ページ目)の1~2文を音読させ、読み続けるかテキストを変えるかを子どもに選ばせる。



はじめだけ少し読んでみて、決めましょう。22ページ目を声に出して読んでみてください。

- ・子どもが読むのを聞く。読み終わったら、もう一度、次のように質問をする。



最後まで読めそうですか。

- ・「読める」と言った子ども ➡ そのままこの実践ガイドにそって進む。
- ・「読めない」と言った低学年児童 ➡ レベルAのテキストへ

- ・「読めない」と言った中学年児童の場合はDLA〈読む〉を終了する。

③ 興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。

- ・次のことばの理解を確認し、知らない場合は教える。



「とり(ことり)」を知っていますか。見たことがありますか。
「木のは」を知っていますか。

④ 予測：テキストの絵を見せ、テーマについて予測させる。



絵を見ていいですよ。
これはどんなお話だと思いますか。

メモ：

このテキストは、ひらがな、カタカナの習得を終え、拾い読みが安定してできるようになっている子どもに適している（テーマが認知発達レベルに適さないため、高学年以上には原則として使用しない）。まだ文字の拾い読みの段階では読みながら内容を理解することが難しいため、絵や写真で話の流れが予想できる下のレベルのテキストのほうが適しているかもしれない。そのような子どもがこのテキストを選んだ場合、子どもの様子を気をつけて観察し、途中でテキストを変えてよい。また、最後まで読めたとしても、あらすじ再生が難しい場合は、じっくり待って、はげましたり、子どもの発話をつなげたりするなど、スマールステップのサポートを心がける。

母語での読みの力が高く、日本語学習期間が短いためにこのテキストを選んだ子ども（主に中学年）の場合は、音読の流暢度やあらすじの再生力が不十分であっても、内容をよく理解できている場合もある。その場合は、最後に母語であらすじ再生を求めたり、話し合ってもかまわない。最後に子どもが「読めた」「話せた」という達成感をえられるようサポートする。

読みましょう...

① 読み聞かせ：最初は実施者が読み、子どもはテキストを見ながら聞く。

- ・テキストを子どもに見せながら、初めから25ページの最後まで実施者が声にだして読む。



ではこれからいっしょにこの本を読みましょう。はじめは私が読みますね。後でどんなお話を聞きます。しっかり聞いていてください。

② 音読：続きを子どもが読む。

- ・26ページの初めからテキストの最後までを子どもに読ませる。



これから○○さんに読んでもらいます。ここから最後まで声に出して読んでください。もし分からぬことばがあったら聞いてください。後でどんなお話を聞きましたか。しっかり読んでください。では始めましょう。

- ・実施者は音読の区切り方やつまずいた時にどのように対処するかということに注意しながら聞く。(特に訂正や指導はしない)

- ・終わったら、声かけをする。



とても上手に／頑張って、読みましたね。

話しあいましょう...

① あらすじ再生：テキストをとじて、子どもがテキストの内容を再生する。

実施者は「それから？」などと声かけをしつつ、子どもの話を最大限に引き出す。



ではこのお話はどんなお話でしたか。はじめてこのお話を聞く人にわかるように話してください。終わったら『終わりです』と言ってください。はい、どうぞ。

- ・下の『あらすじチェック』を参考に、どのくらい理解できているかをチェックする。重要な内容をふまえて、まとめて言ってもよい。下記のようなテキスト通りの言い方でなくともよい。

あらすじチェック

- 1. ことりのおかあさんが病気です。
- 2. ことりは、えさをさがしに行きました。
- 3. たかがことりにとびかかりました。
- 4. ことりは「たすけて。たすけて。」と(にげながら)さけびました。
- 5. 山の木たちは、いっせいにえだをゆすりました。
- 6. 木のはがいっぱいおちてきました。
- 7. たかは、ことりか木のはか分からなくなりました。
- 8. ことりは、とんでいきました。

② 理解を深めるやりとり：話し合いながら、理解を深める。

- ・再生した内容に次のような情報が含まれていなかった場合に質問する。



たくさん／頑張って／上手にお話できましたね。今度は少し私が質問しますね。

質問

解答例

- | | |
|----------------------------|---|
| 1. はじめ、ことりは何をしに行きましたか。 | 1. 木のみをとりに行った。 |
| 2. ことりはどうして木のみをとりに行きましたか。 | 2. おかあさんが病気で、おかあさんにあげるため。
(早く元気になってほしかったから。) |
| 3. 山の木たちはどうやってことりをたすけましたか。 | 3. えだをゆすって、木のはをおとして、
ことりか木のはかわからなくした。 |

その他の質問(自由)

③ 解釈・感想：お話を読んで、また自分の体験と結びつけてどう感じたか話し合う。



このお話は面白かったですか。
どうして(そこが一番面白かった)ですか。思い出したことや考えたことはありますか。

読んだあとで...

① ふり返り：全体をふり返り、良いところを見つけてしっかりほめる。



はい、これで終わりです。頑張りましたね。難しかったですか、簡単でしたか。
○○さんはとても上手に／頑張って○○できましたね。○○がよくわかっていますね。

② 読書習慣：本や本を読むことについて話し合い、読書への興味・関心を高める。



本は好きですか。よく本(教科書ではない本)を読みますか。
自分で読むのと、お話を聞くのとどちらが好きですか。
おうちの人に○○語／日本語の本を読んでもらいますか。
どんな本(お話の本、絵本、クイズ、めいろ、ずかん、マンガなど)が好きですか。
好きな本の名前を教えてください。(わかれば)

・母語での読みの力が高い子どもには、次のような質問をしてもよい。



○○語ではよく本を読みますか。
○○語でどんな本を読みますか。(絵本、図鑑、物語、説明の本、教材など)
一週間にどのくらい○○語で本を読みますか。



ではこれからもたくさん本を読んでください。ありがとうございました。

読むまえに...

① 手順の説明：これからすることを子どものやる気が増すように楽しく説明する。



これから本と一緒に読みましょう。はじめは私が読んで、その後を○○さんに読んでもらいますね。読み終わったら、どんなお話だったか話しましょう。

② テキスト選び：いっしょに読む本を選ぶ。

- ・テキストを子どもにわたす。



これは『花いっぱいになあれ』というお話です。○○さんは、ここ（37ページの最後から3行目を指して）から読みます。どうですか。読めそうですか。

- ・1ページ目（30ページ）の2文を音読させ、読み続けるかテキストを変えるかを子どもに選ばせる。



はじめだけ少し読んでみて、決めましょう。ここ（4行目）までを声に出して読んでみてください。

- ・子どもが読むのを聞く。読み終わったら、もう一度、次のように質問をする。



最後まで読めそうですか。

・「読める」と言った子ども ➡ そのままこの実践ガイドにそって進む。

「読めない」と言った子ども ➡

レベルBのテキストへ

③ 興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。

- ・次のことばの理解を確認し、知らない場合は教える。



「風船」を知っていますか。
「花のたね」を知っていますか。

④ 予測：テキストの絵を見せ、テーマについて予測させる。



絵を見ていいですよ。
これはどんなお話だと思いますか。

メモ：

このテキストは、ひらがな、カタカナの習得を終え、単語や文節で区切って読めるようになっている児童に適している。長さは、レベルC 2のテキストよりも長いが、物語文であり、時間の流れに沿ってストーリーが展開するため、低年齢の子どもにとってはレベルC 2よりも内容理解が易しい場合が多い。（テーマが認知発達レベルに適さないため、高学年以上には原則として使用しない。）

母語での話す力のほうが強い児童に対しては、最後に母語であらすじ再生を求めたり、話し合ってもかまわない。最後に子どもが「読めた」「話せた」という達成感をえられるようサポートする。

読みましょう…

① 読み聞かせ：最初は実施者が読み、子どもはテキストを見ながら聞く。

- ・テキストを子どもに見せながら、実施者が初めから37ページの7行目まで声にだして読む。



ではこれからいっしょにこの本を読みましょう。はじめは私が読みますね。後でどんなお話を聞きます。しっかり聞いていてください。

② 音読：続きを子どもが読む。

- ・37ページの8行目から最後までを子どもに読ませる。



これから○○さんに読んでもらいます。ここから最後まで声に出して読んでください。もし分からなことばがあったら聞いてください。後でどんなお話を聞きましたね。しっかり読んでください。では始めましょう。

- ・実施者は音読の区切り方やつまずいた時にどのように対処するかということに注意しながら聴く。(特に訂正や指導はしない)

- ・終わったら、声かけをする。



とても上手に／頑張って、読めましたね。

話しあいましょう…

① あらすじ再生：テキストをとじて、子どもがテキストの内容を再生する。

実施者は「それから？」などと声かけをしつつ、子どもの話を最大限に引き出す。



ではこのお話はどんなお話でしたか。はじめてこのお話を聞く人にわかるように話してください。終わったら『終わりです』と言ってください。はい、どうぞ。

- ・下の『あらすじチェック』を参考に、どのくらい理解できているかをチェックする。

重要な内容をふまえて、まとめて言ってもよい。下記のようなテキスト通りの言い方でなくともよい。

あらすじチェック

- 1. 学校の子どもたちがふうせんにお花のたねをつけてとばしました。
- 2. まっかなふうせんが下りたところに、子ぎつねのコンが、いいゆめみて、ひるねをしていました。
- 3. (目をあけると)まっかな花がさいていました。
- 4. コンはねっこをあなたにうめました。
- 5. つぎの朝、赤い花は小さくしぶんで、たおれていきました。
- 6. それから雨が毎日ふって、花のさいていたあとに、めがのびました。
- 7. ある日、大きな金色の花をさかせました。
- 8. 学校の子どもたちが、赤いふうせんにひまわりのたねをつけてとばしたのです。
- 9. 秋にはびっしりたねがみのりました。
- 10. コンはひまわりのたねを食べて、ゆめのことを思い出しました。
- 11. つぎの年、野原じゅうに、大きな金色のひまわりの花をさかせました。

② 理解を深めるやりとり：話し合いながら、理解を深める。

- 再生した内容に次のような情報が含まれていなかった場合に質問する。



たくさん／頑張って／上手にお話できましたね。今度は少し私が質問しますね。

質問

解答例

- | | |
|----------------------------------|---|
| 1. コンがみつけたまっかな花は何ですか。 | 1. ふうせん |
| 2. まっかな花がたおれた時、コンはどんな気持ちでしたか。 | 2. とても悲しかった。 |
| 3. まっかな花がたおれた後、どうして、金色の花がさきましたか。 | 3. コンが紙づつみを赤い花のたねだと思ってうめて、雨が降って、その種から花がさいた。／学校の子どもたちがふうせんにひまわりの種をつけて飛ばしたから。 |
| 4. 金色の花を見て、たねを食べたとき、コンはどう思いましたか。 | 4. あのときみたいい夢がこの金色の花がさいたゆめで、ゆめで食べた味だと思った。 |

その他の質問(自由)

③ 解釈・感想：お話を読んで、また、自分の体験と結びつけて、感じたことを話し合う。



このお話は面白かったです。 どこが一番面白かったです。
どうして(そこが一番面白かった)ですか。 思い出したことや考えたことはありますか。

読んだあとで...

① ふり返り：全体をふり返り、良いところを見つけてしっかりほめる。



はい、これで終わりです。頑張りましたね。難しかったですか、簡単でしたか。
○○さんはとても上手に／頑張って○○できましたね。○○がよくわかっていますね。

② 読書習慣：本や本を読むことについて話し合い、読書への興味・関心を高める。



本は好きですか。よく本(教科書ではない本)を読みますか。
自分で読むのと、お話を聞くのどちらが好きですか。
おうちの人によく○○語／日本語の本を読んでもらいますか。
どんな本(お話の本、絵本、クイズ、めいろ、ずかん、マンガなど)が好きですか。
好きな本の名前を教えてください。(わかれば)

・母語での読みの力が高い子どもには、次のような質問をしてもよい。



○○語ではよく本を読みますか。
○○語でどんな本を読みますか(絵本、図鑑、物語、説明、教材、インターネットなど)
一週間にどのくらい○○語で本を読みますか。



ではこれからもたくさん本を読んでください。ありがとうございました。

読むまえに...

① 手順の説明：これからすることを子どものやる気が増すように楽しく説明する。



これから本と一緒に読みましょう。はじめは私が読んで、その後を○○さんに読んでもらいますね。読み終わったら、どんなお話をしたか話しましょう。

② テキスト選び：いっしょに読む本を選ぶ。

- ・テキストを子どもにわたす。



これは『あつまれ、楽器』というお話を。どうですか。
読めそうですか。もう少しやさしい本にしますか。

- ・1ページ目(46ページ)の3文を音読させ、読み続けるかテキストを変えるかを子どもに選ばせる。



はじめだけ少し読んでみて、決めましょう。ここ(3行目)までを声に出して読んでみてください。

- ・子どもが読むのを聞く。読み終わったら、もう一度、次のように質問をする。



最後まで読めそうですか。

・「読める」と言った子ども ➡ そのままこの実践ガイドにそって進む。

・「読めない」と言った中学年以下の児童 ➡ レベルBのテキストへ

・「読めない」と言った高学年児童 ➡ DLA〈読む〉を終了する。

③ 興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。

- ・次のことばの理解を確認し、知らない場合は教える。



「楽器(がっき)」を知っていますか。どんな楽器を知っていますか。
「フライパン」「わゴム」「ストロー」を知っていますか。

④ 予測：テキストの絵を見せ、テーマについて予測させる。



絵を見ていいですよ。
これはどんなお話をだと思いますか。

メモ：

このテキストは、ひらがな、カタカナの習得を終え、単語や文節で区切って読めるようになっている児童に適している。長さは、レベルC1のテキストよりも短いが、説明文であり、構成の理解が求められるため、低年齢の子どもにとってはレベルC1よりも内容理解が難しい場合が多い。小学2年生用教材だが、滞日期間の比較的短い高学年の読書力診断にも応用可能である。このテキストを選んだ高年齢の児童の場合、母語での読む力・話す力のほうが高いケースが多い。

母語の読む力が発達している子どもは、音読の流暢度や日本語でのあらすじの再生力が不十分であっても、内容をよく理解できている場合もある。その場合、最後に母語であらすじ再生を求めたり、話し合ってもかまわない。最後に子どもが「読めた」「話せた」という達成感をえられるようサポートする。

読みましょう…

① 読み聞かせ：最初は実施者が読み、子どもはテキストを見ながら聞く。

- ・テキストを子どもに見せながら、実施者が初めから47ページの最後まで声にだして読む。



ではこれからいっしょにこの本を読みましょう。はじめは私が読みますね。後でどんなお話を聞きます。しっかり聞いていてください。

② 音読：続きを子どもが読む。

- ・48ページの初めからテキストの最後までを子どもに読ませる。



これから○○さんに読んでもらいます。ここから最後まで声に出して読んでください。もし分からぬことばがあったら聞いてください。後でどんなお話を聞きますね。しっかり読んでください。では始めましょう。

- ・実施者は音読の区切り方やつづいた時にどのように対処するかということに注意しながら聴く。
(特に訂正や指導はしない)

- ・終わったら、声かけをする。



とても上手に／頑張って、読みましたね。

話しあいましょう…

① あらすじ再生：テキストをとじて、子どもがテキストの内容を再生する。

実施者は「それから？」などと声かけをしつつ、子どもの話を最大限に引き出す。



ではこのお話はどんなお話でしたか。はじめてこのお話を聞く人にわかるように話してください。終わったら『終わりです』と言ってください。はい、どうぞ。

- ・下の『あらすじチェック』を参考に、どのくらい理解できているかをチェックする。

重要な内容をふまえて、まとめて言ってもよい。下記のようなテキスト通りの言い方でなくともよい。

あらすじチェック

- 1. フライパン、わゴム、ストローは三つとも楽器としてつかうことができます。
- 2. 楽器は音の出し方で三つのなかまに分けられます。
- 3. 一つはたたいて音を出す楽器です。
- 4. たいこや木きん、フライパンもこのなかまです。
- 5. もう一つは糸をはじいたりこすったりして音を出す楽器です。
- 6. ギターやバイオリン、わゴムもこのなかまです。
- 7. さいごは、いきをふきこんで音を出す楽器です。
- 8. ふえやラッパ、ストローもこのなかまです。
- 9. 楽器を作って、音楽会をひらいてみましょう。

② 理解を深めるやりとり：話し合いながら、理解を深める。

- 再生した内容に次のような情報が含まれていなかった場合に質問をする。



たくさん／頑張って／上手にお話できましたね。今度は少し質問しますね。

質問

解答例

1. フライパンとわゴムとストローは、同じことに使います。何に使いますか(何になりますか)。
2. 楽器は三つのなかまに分けられます。どんななかまですか。
3. この三つのなかまは、どこ(何)がちがいますか。
3. 音の出し方

その他の質問(自由)

③ 解釈・感想：お話を読んで、また、自分の体験と結びつけて、感じたことを話し合う。



このお話は面白かったですか。どこが一番面白かったですか。
どうして(そこが一番面白かった)ですか。思い出したことや考えたことはありますか。

- 高学年には、次の質問をする。



このお話を書いた人が伝えたかったのはどんなことでしょう。どうしてそう思いますか。

読んだあとで...

① ふり返り：全体をふり返り、良いところを見つけてしっかりほめる。



はい、これで終わりです。頑張りましたね。難しかったですか、簡単でしたか。
○○さんはとても上手に／頑張って○○できましたね。○○がよくわかっていますね。

- 高学年の場合は、自分がどのように読んでいるかを意識させる。



では(内容で)わかりにくいところがあったら、どうしますか。(読み返す、イメージする、具体例を考える、誰かに聞く、そのまま読み続けるなど)

わからないことばがあったときはどうしていますか。(読み返す、絵を見る、声に出して言う、推測する、絵を見る、誰かに聞く、そのまま読み進める、辞書を使うなど)

○○語を使って考えたりしましたか。(した場合は例えばどの場面でどのようにしたか)

② 読書習慣：本や本を読むことについて話し合い、読書への興味・関心を高める。



本は好きですか。よく本(教科書ではない本)を読みますか。
自分で読むのと、お話を聞くのとどちらが好きですか。
おうちの人によく本を読んでもらいますか。
どんな本(お話の本、絵本、クイズ、めいろ、ずかん、マンガなど)が好きですか。
好きな本の名前を教えてください。(わかれば)

- 母語での読みの力が高い子どもには、次のような質問をしてもよい。



○○語ではよく本を読みますか。
○○語でどんな本を読みますか(絵本、図鑑、物語、説明、教材、インターネットなど)
一週間にどのくらい○○語で本を読みますか。



ではこれからもたくさん本を読んでください。ありがとうございました。

読むまえに...

- ① 手順の説明：これからすることを子どものやる気が増すように楽しく説明する。



これから本と一緒に読みましょう。読み終わったら、どんなお話をたか話しましょう。

- ② テキスト選び：いっしょに読む本を選ぶ。

- ・テキストを子どもにわたす。



はじめは私が読んで、○○さんにはここ(56ページ)から読んでもらいます。
どうですか。読めそうですか。もう少しやさしい本にしますか。

- ・1ページ目(52ページ)冒頭5行を音読させ、読み続けるかテキストを変えるかを子どもに選ばせる。



少し読んでみて、決めましょう。

ここ(52ページの5行目)までを声に出して読んでみてください。

- ・子どもが読むのを聞く。読み終わったら、もう一度、次のように質問をする。



最後まで読めそうですか。

- ・「読める」と言った子ども ➡ そのままこの実践ガイドにそって進む。

- ・「読めない」と言った高学年児童 ➡ **レベルC2のテキストへ**

- ・「読めない」と言った中学年児童 ➡ **レベルC1もしくはレベルC2のテキストへ**

- ③ 興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。

- ・次のことばの理解を確認し、知らない場合は教える。60ページの絵を見せてよい。



これは『貝がら』というお話を。「ぼく」と「中山君」のお話を。

「貝がら」を知っていますか。見たことがありますか。

- ④ 予測：テキストを子どもに見せながら、53ページの12行目までを実施者が読んで聞かせ、その後にテキストを閉じて、話の続きを予測させる。



では、はじめから私が読みますね。よく聞いていてください。

- ・読み終わったら、次のように質問をする。



ここまで、どんなことが書いてありましたか。

では、この先、どんな話が続くと思いますか。

- ⑤ 読み聞かせ：続きを実施者が読み、子どもはテキストを見ながら聞く。

- ・テキストを子どもに見せながら、続きを55ページの最後まで実施者が声にだして読む。



ではもう少し私が読みますね。しっかり聞いていてください。

メモ：このテキストは、ある程度の長さのある文章を、句読点や意味のまとまりで区切りながら読める子どもに適している。まだ単語や文節で区切って読む子どもは、最後まで読み続けることが難しいかもしれない。そのような子どもがこのテキストを選んだ場合、疲れていないか気をつけて観察し、途中でテキストを変えてかまわない。また、最後まで読めたとしても、あらすじ再生が難しい場合は、はげましたり、待ったり、子どもの発話をつなげたりするなど、スマールステップのサポートを心がける。

また母語での読みの力が高く、日本語の理解力と産出力に大きな差がある子どもがこのテキストを選んだ場合は、最後に母語であらすじ再生を求めたり、話し合ってかまわない。最後に子どもが「読めた」「話せた」という達成感をえられるようサポートする。

読みましょう…

① 音読：続きを読む。

- ・まず、音読と默読とどちらが得意か確認する。



これから○○さんに読んでもらいます。○○さんは、声に出して読むのと、黙って心の中で読むのとどちらが好きですか。どちらのほうが、お話を内容がよくわかりますか。

* 黙読を選んだ子どもに対して☞ 56ページ1行目から57ページの12行目までを音読で、57ページ13行目からテキストの最後までを黙読で読ませる。



では、○○さんがどんなふうに読んでいるか知りたいので、ここ(56ページの1行目)からここ(57ページの12行目)までは声に出して読んでください。その後は黙って読んでください。分からぬ漢字やことばがあったら、聞いてください。後でどんなお話をされたか聞きますね。しっかり読んでください。では、お願いします。



・57ページの12行目まで読み終えたら、次のように合図する。

黙って読んでいいですよ。

* 音読を選んだ子どもに対して☞ 56ページ1行目からテキストの最後までを音読で読ませる。



では、ここ(56ページの1行目)から最後まで声に出して読んでください。分からぬ漢字やことばがあったら、聞いてください。後でどんなお話をされたか聞きますね。しっかり読んでください。では、お願いします。

- ・実施者は音読速度、区切り方、つまづいたときの対処の仕方などに注意しながら子どもの音読を聴く。

- ・終わったら、声かけをする。



とても上手に／頑張って、読めましたね。

話しあいましょう…

① あらすじ再生：テキストをとじて、子どもがテキストの内容を再生する。

実施者は声かけをしつつ、子どもの話を最大限に引き出す。



ではこのお話はどんなお話をしたか。はじめてこのお話を聞く人にわかるように話してください。終わったら『終わりです』と言ってください。

- ・下の『あらすじチェック』を参考に、どのくらい理解できているかをチェックする。

あらすじチェック

- 1. (4年生に進級して)ぼくのとなりの席に(転校してきた)中山君がすわることになった。
- 2. 中山君は自分のほうからは何も話しかけてくれなかった。
- 3. 中山君は(ぼくとだけではなく)誰とも口をきかない(だまりこんではばかりいる)。
- 4. 図工の時間、中山くんがあまりにすばらしい海辺の景色の絵をかいていた。
- 5. 中山君は「前に住んでいた所」と自分のほうから説明してくれた。
- 6. 中山君の言葉に変ななりがあり、女の子たちが笑った。
- 7. 中山君は一言もしやべらなくなってしまった。
- 8. ぼくが病気になって欠席したとき、中山君はみまいに来てくれた。
- 9. 中山君がお母さんにあづけた箱には、いろいろな色や形の美しい貝がらがぎっしり入っていた。
- 10. ぼくは、今度こそ中山君と仲良しになれると思った。

実践ガイド レベルD 『貝がら』

② 理解を深めるやりとり：話し合いながら、理解を深める。

- 再生した内容に以下のような情報が含まれていなかった場合に質問する。



たくさん／頑張って／上手にお話できましたね。今度は少し私が質問しますね。

質問

解答例

- | | |
|-------------------------------|---|
| 1.はじめの頃、ぼくは中山君のことをどう思っていましたか。 | 1.話さないことに腹が立った／誰とも話さないから不思議だった。 |
| 2.中山君は、なぜいつもだまっていますか。 | 2.自分の言葉のなまりがはずかしかったから。／笑われたくないので、しゃべらないように用心していた。 |
- その他の質問(自由)

③ 解釈・感想：お話を読んで、どう感じたかを質問をして確かめる。



- 中山君はどうして貝がらを持ってみまいに来たのだと思いますか。
- どうして「今度こそ中山君と友達になれると思った」のでしょうか。
- もし、あなたかがぼく／中山君だったら、どうしますか。どう感じますか。
- このお話をどこが面白かった／大事だと思いましたか。それはどうしてですか。



- 高学年以上には、次の質問をする。



このお話を書いた人が伝えたかったのはどんなことでしょう。どうしてそう思いますか。

読んだあとで…

① ふり返り：全体をふり返り、良いところを見つけてしっかりほめる。



はい、これで終わりです。頑張りましたね。難しかったですか、簡単でしたか。
○○さんはとても上手に／頑張って○○できましたね。○○がよくわかっていますね。



- 高学年以上の場合は、自分がどのように読んでいるかを意識させる。

では(内容で)わかりにくいところがあったら、どうしますか。
(読み返す、イメージする、具体例を考える、誰かに聞く、そのまま読み続けるなど)
わからないことばがあったときはどうしていますか。(読み返す、絵を見る、声に出して言う、推測する、絵を見る、誰かに聞く、そのまま読み進める、辞書を使うなど)
○○語を使って考えたりしましたか。(した場合は例えばどの場面でどのようにしたか)

② 読書習慣：本や本を読むことについて話し合い、読書への興味・関心を高める。



本は好きですか。よく本(教科書、マンガではない本)を読みますか。
いつ読みますか。(朝読書の時間、図書の時間、休み時間、放課後(うちで)など)
この1学期間(1年間、○休みの間など)に何冊ぐらい本を読みましたか。
どんな本(伝記、歴史小説、物語、冒険もの、こわい話、マンガなど)が好きですか。
好きな本の名前を教えてください。(わかれれば)

- 母語での読みの力が高い子どもには、次のような質問をしてもよい。



○○語ではよく本を読みますか。
○○語でどんな本を読みますか(絵本、図鑑、物語、説明、教材、インターネットなど)
一週間にどのくらい○○語で本を読みますか。



ではこれからもたくさん本を読んでください。ありがとうございました。

読むまえに...

① 手順の説明：これからすることを子どものやる気が増すように楽しく説明する。



これから本と一緒に読みましょう。読み終わったら、どんなお話をたか話しましょう。

② テキスト選び：いっしょに読む本を選ぶ。

- ・テキストを子どもにわたす。



はじめは私が読んで、○○さんにはここ(68ページ2行目)から読んでもらいます。
どうですか。読めそうですか。もう少しやさしい本にしますか。

- ・1ページ目(64ページ)冒頭の3行を音読させ、読み続けるかテキストを変えるかを子どもに選ばせる。



少し読んでみて、決めましょう。

ここ(64ページの3行目)までを声に出して読んでみてください。

- ・子どもが読むのを聞く。読み終わったら、もう一度、次のように質問をする。



最後まで読めそうですか。

- ・「読める」と言った子ども➡そのままこの実践ガイドにそって進む。

- ・「読めない」と言った子ども➡

レベルDのテキストへ

③ 興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。

- ・題名を読みながら、テーマ、作者について簡単に説明する。



これは『アニメーションとわたし』というお話を。『手塚治虫』という人を知っていますか。○○さんはマンガが好きですか。この人は「マンガの神様」と呼ばれている人です。このお話はその「マンガの神様」がマンガやアニメについて書いたものです。

④ 予測：テキストを子どもに見せながら、はじめから65ページの2行目までを実施者が読んで聞かせ、その後にテキストを閉じて、話の続きを予測させる。



では、はじめから私が読みますね。よく聞いていてください。

- ・読み終わったら、もう一度、次のように質問をする。



ここまで、どんなことが書いてありましたか。

では、この先、どんな話が続くと思いますか。

⑤ 読み聞かせ：続きを実施者が読み、子どもはテキストを見ながら聞く。

- ・テキストを子どもに見せながら、続きを読める68ページの2行目まで実施者が声にだして読む。



ではもう少し私が読みますね。しっかり聞いていてください。

メモ：このテキストは、語彙もある程度増え、一定の長さのある文章を、句読点や意味のまとまりで区切りながら読める子どもに適している。まだ単語や文節で区切って読む子どもは、最後まで読み続けることが難しいかもしれない。そのような子どもがこのテキストを選んだ場合、注意深く観察し、途中でテキストを変えてもかまわない。また、最後まで読めたとしても、あらすじ再生が難しい場合は、じっくり待って、はげましたり、子どもの発話をつなげたりするなど、スマールステップのサポートを心がける。

また語彙や漢字は習得途上であっても、意欲的にこのテキストを選ぶ子どもがいるかもしれない（比較的滞日期間が浅いが、母語での読書力が身についている子どもなど）。そのような場合は、わからない語彙や漢字について、子どもが質問しやすい雰囲気を作り、質問にはしっかり答えるようにする。

読みましょう...

① 音読：続きを読む。

- ・まず、音読と黙読どちらが得意か確認する。



これから○○さんに読んでもらいます。○○さんは、声に出して読むのと、黙って(心の中で)読むのとどちらが好きですか。どちらのほうが、お話の内容がよくわかりますか。

* 黙読を選んだ子どもに対して: 68ページ3行目から69ページの5行目までを音読で、70ページ1行目からテキストの最後までを黙読で読ませる。



では、○○さんがどんなふうに読んでいるか知りたいので、ここ(68ページの3行目)からここ(69ページの5行目)までは声に出して読んでください。その後は黙って読んでください。分からぬ漢字やことばがあったら、聞いてください。後でどんなお話だったか聞きますね。しっかり読んでください。では、お願いします。



・69ページの5行目まで読み終えたら、次のように合図する。

黙って読んでいいですよ。もし、今読んだところをもう一度、黙って読みたかったら、読み直してもいいですよ。

* 音読を選んだ子どもに対して: 68ページ3行目からテキストの最後までを音読で読ませる。



では、ここ(68ページの3行目)から最後まで声に出して読んでください。分からぬ漢字やことばがあったら、聞いてください。後でどんなお話だったか聞きますね。しっかり読んでください。では、お願いします。



・実施者は音読速度、区切り方、つまづいたときの対処の仕方などに注意しながら子どもの音読を聴く。

・終わったら、声かけをする。

とても上手に／頑張って、読めましたね。

話しあいましょう...

① 要点の再生: テキストをとじて、子どもがテキストの内容を再生する。

実施者は声かけをしつつ、子どもの話を最大限に引き出す。



ではこのお話はどんなお話でしたか。はじめてこのお話を聞く人にわかるように話してください。終わったら『終わりです』と言ってください。

・下の『要約チェック』を参考に、重要な内容・構成をどのくらい理解しているかをチェックする。

要約チェック

時間の流れとエピソード: 筆者とアニメーション

- | | |
|--------------------------------|--------------------------|
| □1. 小学生の頃 | ⇒ □ 動く漫画をノートに書いた |
| □2. 初めてのアニメーション製作 | ⇒ □ 百何十枚もの絵を撮影して、動画をつくった |
| □3. 大人になってから | ⇒ □ ディズニー作品などを覚えるほど見て、勉強 |
| □4. 本格的なアニメーション製作 | ⇒ □ 「ある街角の物語」を6人の仲間でつくった |
| □5. 日本で初めてのテレビ番組用アニメ「鉄腕アトム」の誕生 | |

まとめ: アニメーションとは

- | |
|---|
| □6. 現実にはありえない世界を作り、夢をかきたててくれる |
| □7. 見ることもだが、作ることがもっと楽しい |
| □8. 苦しさを乗りこえて新しいものを作ったり、協力するという人生の大切なことを体験できる仕事 |

② 解釈：話し合いながら、要旨について理解を深める。

- ・テキストを見せながら、次の質問をする。



たくさん／頑張って／上手にお話できましたね。今度は少し私が質問しますね。
この本を見ながら考えてもいいですよ。



アニメーションを作ることは大変なのに、どうして楽しいのでしょうか。
このお話で作者が伝えたかったことは何だと思いますか。どうしてそう思いますか。

- ・その他の質問をしてもよい。

③ 意見：内容・要旨について意見を述べる。



このお話は面白かったですか。どこが（どうして）面白かったですか。
作者が伝えたかったことに対して○○さんはどう思いますか。どうしてそう思いますか。

読んだあとで…

① ふり返り：全体をふり返り、良いところを見つけてしっかりほめる。



はい、これで終わりです。頑張りましたね。難しかったですか、簡単でしたか。
○○さんはとても上手に／頑張って○○できましたね。○○がよくわかっていますね。

② 読みへの内省：自分がどのように読んでいるかを意識させる。



では(内容で)わかりにくいところがあったら、どうしますか。
(読み返す、イメージする、具体例を考える、誰かに聞く、そのまま読み続けるなど)
わからないことばがあったときはどうしていますか。(読み返す、絵を見る、声に出して言う、推測する、絵を見る、誰かに聞く、そのまま読み進める、辞書を使うなど)
○○語を使って考えたりしましたか。(した場合は例えばどの場面でどのようにしたか)

③ 読書習慣：本や本を読むことについて話し合い、読書への興味・関心を高める。



本は好きですか。よく本（教科書、マンガではない本）を読みますか。
いつ読みますか。(朝読書・図書の時間、休み時間、放課後（うちで）など)
何のために読みますか。(楽しむ、新しい知識を得る、調べる(情報を集める)ため)
この1学期間（1年間、○休みの間など）に何冊ぐらい本を読みましたか。
どんな本（伝記、歴史小説、物語、冒険もの、科学などの説明文、マンガ、インターネットのサイトなど）をよく読みますか。題名を教えてください。(わかれば)

- ・母語での読みの力が高い子どもには、次のような質問をしてもよい。



○○語ではよく本を読みますか。
○○語でどんな本を読みますか(物語・小説、説明・情報文、教材、インターネット)
一週間にどのくらい○○語で本を読みますか。



ではこれからもたくさん本を読んでください。ありがとうございました。

読むまえに...

① 手順の説明：これからすることを子どものやる気が増すように楽しく説明する。



これから本と一緒に読みましょう。読み終わったら、どんなお話をたか話しましょう。

② テキスト選び：いっしょに読む本を選ぶ。

- ・テキストを子どもにわたす。



はじめは私が読んで、○○さんにはここ(79ページ8行目)から読んでもらいます。
どうですか。読めそうですか。もう少しやさしい本にしますか。

- ・冒頭の2文(76ページ4行目まで)を音読させ、読み続けるかテキストを変えるかを子どもに選ばせる。



少し読んでみて、決めましょう。

ここ(76ページの4行目)までを声に出して読んでみてください。

- ・子どもが読むのを聞く。読み終わったら、もう一度、次のように質問をする。



最後まで読めそうですか。

・「読める」と言った子ども ➡ そのままこの実践ガイドにそって進む。

・「読めない」と言った子ども ➡ レベルEのテキストへ

③ 興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。

- ・題名を読みながら、テーマ、作者について簡単に説明する。



これは『自然を守る』というお話です。自然や環境について考えたことがありますか。
どんなことですか。(子どもの発言内容に対して) それはいいですね。

- ・写真と言葉について、簡単に説明する。



(80ページの写真) これは何でしょうか。木を食べる虫ですね。

(81ページの写真) これは何でしょうか。火事で、木が全部焼けてしまっていますね。

(85ページの写真) これは何でしょうか。稻(米)を食べる虫(害虫)ですね。

④ 予測：テキストを子どもに見せながら、はじめから77ページの6行目までを実施者が読んで聞かせ、その後にテキストを閉じて、話の続きを予測させる。



では、はじめから私が読みますね。よく聞いていてください。

- ・読み終わったら、もう一度、次のように質問する。



ここまで、どんなことが書いてありましたか。

では、この先、どんな話が続くと思いますか。

⑤ 読み聞かせ：続きを実施者が読み、子どもはテキストを見ながら聞く。

- ・テキストを子どもに見せながら、続きから79ページの7行目まで実施者が声にだして読む。



ではもう少し私が読みますね。しっかり聞いていてください。

メモ：

このテキストは、一定の長さのある文章を、句読点や意味のまとまりで区切りながら読め、比較的語彙も豊富で、社会的なテーマにも興味を持つようになっている子どもに適している。

語彙や漢字は習得途上であっても、意欲的にこのテキストを選ぶ子どもがいるかもしれない

(比較的滞日期間が浅いが、母語での読書力が身についている子どもなど)。そのような場合は、わからない語彙や漢字について、子どもが質問しやすい雰囲気を作り、質問にはしっかり答えるようにする。

読みましょう...

① 音読：続きを読む。

・まず、音読と黙読どちらが得意か確認する。



これから○○さんに読んでもらいます。○○さんは、声に出して読むのと、黙って心の中で読むのとどちらが好きですか。どちらのほうが、お話を内容がよくわかりますか。

* 黙読を選んだ子どもに対して：79ページ8行目から81ページの9行目までを音読で、81ページ10行目からテキストの最後までを黙読で読ませる。



では、○○さんがどんなふうに読んでいるか知りたいので、ここ(79ページの8行目)からここ(81ページの9行目)までは声に出して読んでください。その後は黙って読んでください。分からぬ漢字やことばがあつたら、聞いてください。後でどんなお話をだつたか聞きますね。しっかり読んでください。では、お願ひします。



・81ページの9行目まで読み終えたら、次のように合図する。

黙って読んでいいですよ。もし、今読んだところをもう一度、黙って読みたかったら、読み直してもいいですよ。

* 音読を選んだ子どもに対して：79ページ8行目からテキストの最後までを音読で読ませる。



では、ここ(79ページの8行目)から最後まで声に出して読んでください。分からぬ漢字やことばがあつたら、聞いてください。後でどんなお話をだつたか聞きますね。しっかり読んでください。では、お願ひします。

・実施者は音読速度、区切り方、つまづいたときの対処の仕方などに注意しながら子どもの音読を聴く。

・終わったら、声かけをする。



とても上手に／頑張って、読めましたね。

話しあいましょう...

① 要点の再生：テキストをとじて、子どもがテキストの内容を再生する。

実施者は声かけをしつつ、子どもの話を最大限に引き出す。



ではこのお話をどんなお話をしたか。はじめてこのお話を聞く人にわかるように話してください。終わったら『終わりです』と言ってください。

要約チェック

現状

1. 人間は自然を資源として利用
2. 人間の都合のいいように自然を変えて生活

問い合わせ

3. この現状のままでよいのか

主張の根拠

- | | |
|--------------|---|
| 事実 | <input type="checkbox"/> 4. 自然界のさまざまな生物たちはつりあいを保って生活 |
| つりあいが破れた例 | <input type="checkbox"/> 5. 風で木が倒れた→キクイムシが大発生→森を破壊→山火事→大洪水 |
| つりあいを人間が破った例 | <input type="checkbox"/> 6. イネの害虫を殺すために農薬をまいた→害虫の天敵のクモもいなくなつた→農薬に強い別の害虫が増えた |
| 例のまとめ | <input type="checkbox"/> 7. 人間の活動が盛んになる→自然の破壊が進む→その結果、人間自身に不幸をもたらしている |

筆者の主張

- | | |
|-----|--|
| 主張① | <input type="checkbox"/> 8. 人間は自然の資源を利用し、開発を進めながらも、自然を守って行く必要がある |
| 主張② | <input type="checkbox"/> 9. そのために、自然界の生物のつながりを正しく理解しておくことが大切 |
| 主張③ | <input type="checkbox"/> 10. 自然を守ることは、人間自身のためである |

② 解釈：話し合いながら、要旨について理解を深める。

- ・テキストを見せながら、次の質問をする。



たくさん／頑張って／上手にお話できましたね。今度は少し私が質問しますね。この本を見ながら考えてもいいですよ。



人間が思いのままに自然の姿を変え、その資源を自分たちのものにしてしまっていいでしょうか。それはどうしてですか。自然を守ることがどうして、人間自身のためになるのでしょうか。このお話で作者が伝えたかったことは何だと思いますか。どうしてそう思いますか。

- ・その他の質問をしてもよい。

③ 意見：内容・要旨について意見を述べる。



○○さんは、自然の資源を利用し、開発を進めることについてどう思いますか。作者が伝えたかったことに対して○○さんはどう思いますか。どうしてそう思いますか。

読んだあとで…

① ふり返り：全体をふり返り、良いところを見つけてしっかりほめる。



はい、これで終わりです。頑張りましたね。難しかったですか、簡単でしたか。○○さんはとても上手に／頑張って○○できましたね。○○がよくわかっていますね。

② 読みへの内省：自分がどのように読んでいるかを意識させる。



では(内容で)わかりにくいところがあったら、どうしますか。
(読み返す、イメージする、具体例を考える、誰かに聞く、そのまま読み続けるなど)
わからないことばがあったときはどうしていますか。(読み返す、絵を見る、声に出して言う、推測する、絵を見る、誰かに聞く、そのまま読み進める、辞書を使うなど)
○○語を使って考えたりしましたか。(した場合は例えばどの場面でどのようにしたか)

③ 読書習慣：本や本を読むことについて話し合い、読書への興味・関心を高める。



本は好きですか。よく本(教科書、マンガではない本)を読みますか。
いつ読みますか。(朝読書・図書の時間、休み時間、放課後(うちで)など)
何のために読みますか。(楽しむ、新しい知識を得る、調べる(情報を集め)ため)
この1学期間(1年間、○休みの間など)に何冊ぐらい本を読みましたか。
どんな本(伝記、歴史小説、物語、冒険もの、科学などの説明文、マンガ、インターネットのサイトなど)をよく読みますか。題名を教えてください。(わかれば)

- ・母語での読みの力が高い子どもには、次のような質問をしてもよい。



○○語ではよく本を読みますか。
○○語でどんな本を読みますか(物語・小説、説明・情報文、教材、インターネット)
一週間にどのくらい○○語で本を読みますか。



ではこれからもたくさん本を読んでください。ありがとうございました。

名前: (男・女) 学年(所属): 年 月 日

録音データを聞きながら、当てはまる評価点(5・3・1)に○をつける。判断に揺れる場合は、中間を選択し、2点、4点をつけてもよい。

■評価基準■ 5:とてもよい 3:ふつう 1:もう少し

読解力			
1	順序・流れ (あらすじ)	重要な出来事を順序通りに再生できる	5 3 1
2	人物・場面 (様子)	登場人物や場面の様子をとらえ、再生できる	5 3 1
3	感想	テキストの内容について感想をもち、理由を示しながら、話すことができる	5 3 1
読書行動			
4	予測・推測	絵から情報を読み取り、出来事の順序を意識して予測できる	5 3 1
音読行動			
5	音読の正確さ	ひらがな文字の読み間違い、読み飛ばし、挿入などの間違いがない	5 3 1
6	文字と音の対応	文字を指すとき、いつも文字と音との一対一の対応ができる	5 3 1
7	カタカナ語の識別と読み	カタカナ文字が読める	5 3 1
8	特殊読み	ひらがなの濁音・半濁音、拗音・長音・促音、助詞の「は」「へ」などの特殊読みができる	5 3 1
語彙・漢字			
9	あらすじ再生での重要語彙の使用度	あらすじ再生で、登場人物、ものの名前を正確に再生できる	5 3 1
読書習慣・興味・態度			
10	読書嗜好	本や読書が好きである	5 3 1
11	読書の質と量	絵本などの短いまとまりのある本をよく手にとる(毎日のように読んでもらう習慣がある)	5 3 1
総合評価			
備考 (母語の状況)		総合得点	
		総合点⇒ / 11 = 平均点⇒	

診断シート レベルB『ことりと木のは』

名前: (男・女) 学年(所属): 年 月 日

録音データを聞きながら、当てはまる評価点(5・3・1)に○をつける。判断に揺れる場合は、中間を選択し、2点、4点をつけてもよい。

■評価基準■ 5:とてもよい 3:ふつう 1:もう少し

読解力			
1	順序・流れ (あらすじ)	重要な出来事を順序通りに再生できる	5 3 1
2	人物・場面 (様子)	登場人物や場面の様子をとらえ、再生できる	5 3 1
3	感想	テキストの内容について感想をもち、理由を示しながら、話すことができる	5 3 1
読書行動			
4	予測・推測	挿絵や題名から情報を読み取り、出来事の順序を意識して予測できる	5 3 1
5	音読のつまずきへの対処	読み間違いに気づき、修正できる	5 3 1
音読行動			
6	区切り方	安定して、単語か文節単位で区切る	5 3 1
7	音読の正確さ	読み間違いがない	5 3 1
8	表現・イントネーション	イントネーションをうまく調整し、句読点にもよく注意している	5 3 1
語彙・漢字			
9	あらすじ再生での重要な語彙の使用度	あらすじの重要な語彙をよく再生できる	5 3 1
10	語彙や漢字の読み	語彙や漢字を正しく読める	5 3 1
読書習慣・興味・態度			
11	読書嗜好	本や読書が好きである	5 3 1
12	読書の質と量	絵本などの短いまとまりのある本を進んでたくさん読む	5 3 1
総合評価			
備考 (母語の状況)		総合得点	
		総合点⇒ / 12 = 平均点⇒	

名前: (男・女) 学年(所属): 年 月 日

録音データを聞きながら、当てはまる評価点(5・3・1)に○をつける。判断に揺れる場合は、中間を選択し、2点、4点をつけてもよい。

■評価基準■ 5:とてもよい 3:ふつう 1:もう少し

読解力			
1	順序・流れ (あらすじ)	はじめから終わりまで順序よく、重要な出来事を再生できる	5 3 1
2	人物・場面 (様子)	細部の情報をよくとらえ、再生できる	5 3 1
3	感想	テキストの内容について感想をもち、理由を示しながら、詳しく話すことができる	5 3 1
読書行動			
4	予測・推測	挿絵や題名から情報を読み取り、出来事の順序やつながりを意識して、物語の流れを予測できる	5 3 1
5	音読のつまずきへの対処	読み間違いに気づき、修正できる	5 3 1
音読行動			
6	区切り方	たいてい文や意味のまとまりで区切る	5 3 1
7	音読の正確さ	読み間違いがない	5 3 1
8	表現・イントネーション	イントネーションをうまく調整し、句読点にもよく注意している	5 3 1
語彙・漢字			
9	あらすじ再生での重要な語彙の使用度	あらすじの重要な語彙をよく再生できる	5 3 1
10	語彙や漢字の読み	語彙や漢字を正しく読める	5 3 1
読書習慣・興味・態度			
11	読書嗜好	本や読書が好きである	5 3 1
12	読書の質と量	挿絵や写真付きの短い物語や説明の本などを進んでたくさん読む	5 3 1
総合評価			
備考 (母語の状況)		総合得点	
		総合点⇒ /12=平均点⇒	

診断シート レベルC 2 『あつまれ、楽器』

低学年・中学年用

名前: _____ (男・女) 学年(所属): _____ 年 月 日

録音データを聞きながら、当てはまる評価点(5・3・1)に○をつける。判断に揺れる場合は、中間を選択し、2点、4点をつけてもよい。

■評価基準 ■ 5:とてもよい 3:ふつう 1:もう少し

読解力			
1	順序・構成 (あらすじ)	話の構成を意識し、重要な内容を再生できる	5 3 1
2	描写・説明	細部の情報をよくとらえ、再生できる	5 3 1
3	感想	テキストの内容について感想をもち、理由を示しながら、詳しく話すことができる	5 3 1
読書行動			
4	予測・推測	題名や挿絵から、テキストのテーマ・内容を推測する	5 3 1
5	音読のつまずきへの対処	読み間違いに気づき、修正できる	5 3 1
音読行動			
6	区切り方	たいてい文や意味のまとまりで区切る	5 3 1
7	音読の正確さ	読み間違いがない	5 3 1
8	表現・イントネーション	イントネーションをうまく調整し、句読点にもよく注意している	5 3 1
語彙・漢字			
9	あらすじ再生での重要な語彙の使用度	あらすじの重要な語彙をよく再生できる	5 3 1
10	語彙や漢字の読み	語彙や漢字を正しく読める	5 3 1
読書習慣・興味・態度			
11	読書嗜好	本や読書が好きである	5 3 1
12	読書の質と量	挿絵や写真付きの短い物語や説明の本などを進んでたくさん読む	5 3 1
総合評価			
備考 (母語の状況)		総合得点	
		総合点⇒ / 12 = 平均点⇒	

名前: (男・女) 学年(所属): 年 月 日

録音データを聞きながら、当てはまる評価点(5・3・1)に○をつける。判断に揺れる場合は、中間を選択し、2点、4点をつけてもよい。

■評価基準■ 5:とてもよい 3:ふつう 1:もう少し

読解力			
1	内容理解と要約	内容構成をよく理解し、重要な点をまとめて再生できる	5 3 1
2	要旨・主題の解釈	要旨・主題を理解し、根拠を示しながら、説明できる	5 3 1
3	要旨・主題に対する意見	自分の意見を、根拠を示しながら、詳しく説明できる	5 3 1
読書行動			
4	予測・推測	題名や挿絵から、テキストのテーマ・内容を推測する	5 3 1
5	音読のつまずきへの対処	読み間違いに気づき、修正できる	5 3 1
6	自分の読みへの内省	内容をよりよく理解するために、自分自身がどのように読んでいるか意識できる	5 3 1
音読行動			
7	区切り方	たいてい文や意味のまとまりで区切る	5 3 1
8	音読の正確さ	読み間違いがない	5 3 1
9	表現・イントネーション	イントネーションをうまく調整し、句読点にもよく注意している	5 3 1
語彙・漢字			
10	あらすじ再生での重要語彙の使用度	あらすじの重要な語彙をよく再生できる	5 3 1
11	語彙や漢字の読み	語彙や漢字を正しく読める	5 3 1
読書習慣・興味・態度			
12	読書嗜好	本や読書が好きである	5 3 1
13	読書の質と量	母語で年齢相応レベルの本を読み、日本語でも辞書などを使いながらこのレベルのテキストを進んでたくさん読む	5 3 1
総合評価			
備考 (母語の状況)		総合得点	
		総合点⇒ / 13 = 平均点⇒	

診断シート レベルD『貝がら』

中学年用

名前: _____ (男・女) 学年(所属): _____ 年 月 日

録音データを聞きながら、当てはまる評価点(5・3・1)に○をつける。判断に揺れる場合は、中間を選択し、2点、4点をつけてもよい。

■評価基準■ 5:とてもよい 3:ふつう 1:もう少し

読解力			
1	順序・構成 (あらすじ)	話の構成を意識し、重要な内容を再生できる	5 3 1
2	描写・説明	細部の情報をよくとらえ、再生できる	5 3 1
3	感想	テキストの内容について感想をもち、理由を示しながら、詳しく話すことができる	5 3 1
読書行動			
4	予測・推測	題名や挿絵から、テキストのテーマ・内容を推測する	5 3 1
5	音読のつまずきへの対処	読み間違いに気づき、修正できる	5 3 1
音読行動			
6	区切り方	たいてい文や意味のまとまりで区切る	5 3 1
7	音読の正確さ	読み間違いがない	5 3 1
8	表現・イントネーション	イントネーションをうまく調整し、句読点にもよく注意している	5 3 1
語彙・漢字			
9	あらすじ再生での重要な語彙の使用度	あらすじの重要な語彙をよく再生できる	5 3 1
10	語彙や漢字の読み	語彙や漢字を正しく読める	5 3 1
読書習慣・興味・態度			
11	読書嗜好	本や読書が好きである	5 3 1
12	読書の質と量	中学年向けのまとまりのある物語や説明の本などを進んでたくさん読む	5 3 1
総合評価			
備考 (母語の状況)		総合得点	
		総合点⇒ / 12 = 平均点⇒	

名前: (男・女) 学年(所属): 年 月 日

録音データを聞きながら、当てはまる評価点(5・3・1)に○をつける。判断に揺れる場合は、中間を選択し、2点、4点をつけてもよい。

■評価基準■ 5:とてもよい 3:ふつう 1:もう少し

読解力			
1	内容理解と要約	内容構成をよく理解し、重要な点をまとめて再生できる	5 3 1
2	要旨・主題の解釈	要旨・主題を理解し、根拠を示しながら、説明できる	5 3 1
3	要旨・主題に対する意見	自分の意見を、根拠を示しながら、詳しく説明できる	5 3 1
読書行動			
4	予測・推測	読んだ初めの部分の内容をふまえ、複数の出来事のつながりや展開を予測する	5 3 1
5	音読のつまずきへの対処	読み間違いに気づき、修正できる	5 3 1
6	自分の読みへの内省	内容をよりよく理解するために、自分自身がどのように読んでいるか意識できる	5 3 1
音読行動			
7	区切り方	たいてい文や意味のまとまりで区切る	5 3 1
8	音読の正確さ	読み間違いがない	5 3 1
9	表現・イントネーション	イントネーションをうまく調整し、句読点にもよく注意している	5 3 1
語彙・漢字			
10	あらすじ再生での重要語彙の使用度	あらすじの重要な語彙をよく再生できる	5 3 1
11	語彙や漢字の読み	語彙や漢字を正しく読める	5 3 1
読書習慣・興味・態度			
12	読書嗜好	本や読書が好きである	5 3 1
13	読書の質と量	母語で年齢相応レベルの本を読み、日本語でも、このレベルのテキストを、辞書などを使いながら進んでたくさん読む	5 3 1
総合評価			
備考 (母語の状況)		総合得点	
		総合点⇒ / 13 = 平均点 ⇒	

診断シート レベルE『アニメーションとわたし』

名前: (男・女) 学年(所属): 年 月 日

録音データを聞きながら、当てはまる評価点(5・3・1)に○をつける。判断に揺れる場合は、中間を選択し、2点、4点をつけてよい。

■評価基準 ■ 5:とてもよい 3:ふつう 1:もう少し

読解力			
1	内容理解と要約	内容構成をよく理解し、重要な点をまとめて再生できる	5 3 1
2	要旨・主題の解釈	要旨・主題を理解し、根拠を示しながら、説明できる	5 3 1
3	要旨・主題に対する意見	自分の意見を、根拠を示しながら、詳しく説明できる	5 3 1
読書行動			
4	予測・推測	読んだ初めの部分の内容をふまえ、複数の出来事のつながりや展開を予測する	5 3 1
5	音読のつまずきへの対処	読み間違いに気づき、修正できる	5 3 1
6	自分の読みへの内省	内容をよりよく理解するために、自分自身がどのように読んでいるか意識できる	5 3 1
音読行動			
7	区切り方	たいてい文や意味のまとまりで区切る	5 3 1
8	音読の正確さ	読み間違いがない	5 3 1
9	表現・イントネーション	イントネーションをうまく調整し、句読点にもよく注意している	5 3 1
語彙・漢字			
10	あらすじ再生での重要な語彙の使用度	あらすじの重要な語彙をよく再生できる	5 3 1
11	語彙や漢字の読み	語彙や漢字を正しく読める	5 3 1
読書習慣・興味・態度			
12	読書嗜好	本や読書が好きである	5 3 1
13	読書の質と量	高学年向けの様々なジャンルの本や文章を進んでたくさん読む	5 3 1
総合評価			
備考 (母語の状況)		総合得点	
		総合点⇒ / 13 = 平均点⇒	

名前: (男・女) 学年(所属): 年 月 日

録音データを聞きながら、当てはまる評価点(5・3・1)に○をつける。判断に揺れる場合は、中間を選択し、2点、4点をつけてもよい。

■評価基準■ 5:とてもよい 3:ふつう 1:もう少し

読解力			
1	内容理解と要約	内容構成をよく理解し、重要な点をまとめて再生できる	5 3 1
2	要旨・主題の解釈	要旨・主題を理解し、根拠を示しながら、説明できる	5 3 1
3	要旨・主題に対する意見	自分の意見を、根拠を示しながら、詳しく説明できる	5 3 1
読書行動			
4	予測・推測	読んだ初めの部分の内容をふまえ、複数の出来事のつながりや展開を予測する	5 3 1
5	音読のつまずきへの対処	読み間違いに気づき、修正できる	5 3 1
6	自分の読みへの内省	内容をよりよく理解するために、自分自身がどのように読んでいるか意識できる	5 3 1
音読行動			
7	区切り方	たいてい文や意味のまとまりで区切る	5 3 1
8	音読の正確さ	読み間違いがない	5 3 1
9	表現・イントネーション	イントネーションをうまく調整し、句読点にもよく注意している	5 3 1
語彙・漢字			
10	あらすじ再生での重要な語彙の使用度	あらすじの重要な語彙をよく再生できる	5 3 1
11	語彙や漢字の読み	語彙や漢字を正しく読める	5 3 1
読書習慣・興味・態度			
12	読書嗜好	本や読書が好きである	5 3 1
13	読書の質と量	中学生向けの様々なジャンルの本や文章を進んでたくさん読む	5 3 1
総合評価			
備考 (母語の状況)		総合得点	
		総合点⇒ / 13 = 平均点⇒	

ステージ	読み力	読書行動	音読行動	語彙・漢字	読書習慣・興味・態度
6	<input type="checkbox"/> 年齢枠相応の読み物を読んでよく理解できる	<input type="checkbox"/> より深く理解するために必要な様々な読み解き方略（予測・推測、関連づけ、読み返し等）を効果的に使うことができる	<input type="checkbox"/> 文や意味のまとまりに区切りながら、流暢に読める	<input type="checkbox"/> 年齢枠相応の語彙や漢字がよく理解できる	<input type="checkbox"/> 年齢枠相応の本や読み物を進んでたくさん読む習慣がある
5	<input type="checkbox"/> 年齢枠相応の読み物を読んで、大まかに理解できる	<input type="checkbox"/> 理解するために必要な読み解き方略をある程度使うことができる	<input type="checkbox"/> ややゆっくりではあるが、だいたい文や意味のまとまりに区切って、読める	<input type="checkbox"/> 年齢枠相応の語彙や漢字がある程度理解できる	<input type="checkbox"/> 年齢枠相応の本や読み物をある程度読む習慣がある
4	<input type="checkbox"/> 1つ下の年齢枠の読み物を読んで、大まかに理解できる。	<input type="checkbox"/> 支援を得て、理解するために必要な読み解き方略をある程度使うことができる	<input type="checkbox"/> 安定して、文節や単語に区切って読める	<input type="checkbox"/> 1つ下の年齢枠の語彙や漢字が理解できる	<input type="checkbox"/> 1つ下の年齢枠の本や読み物を読む習慣がある
3	<input type="checkbox"/> 2つ（または3つ）下の年齢枠の読み物を読んで、大まかに理解できる	<input type="checkbox"/> 支援を得て、理解するために必要な読み解き方略を使いはじめる	<input type="checkbox"/> ゆっくりではあるが、だいたい文節や単語に区切って読める	<input type="checkbox"/> 支援を得て、2つ（または3つ）下の年齢枠の語彙や漢字がある程度理解できる	<input type="checkbox"/> 支援を得て、2つ（または3つ）下の年齢枠の本や読み物を読む
2	<input type="checkbox"/> 普段よく目にする身の回りの簡単な単文が理解できる	<input type="checkbox"/> 文字の読み間違いに気づく	<input type="checkbox"/> 文字習得が進む	<input type="checkbox"/> 身の回りの語彙を聞く、または、読んで、理解できる	<input type="checkbox"/> 支援を得て、興味のある読み物や身の回りの書かれたものを読もうとする
1	<input type="checkbox"/> 身の回りのよく知っている語彙を読んで、理解できる	<input type="checkbox"/> 文字と音との対応ができる	<input type="checkbox"/> 文字習得がはじまる	<input type="checkbox"/> 身の回りのよく知っている語彙を聞く、または、読んで、理解できる	<input type="checkbox"/> ごく短い読み物や書かれたものに興味を示す

* 年齢枠と読み物のレベルとの関係は、本章5節の【テキストの対象年齢】を参照してください。

第5章 「DLA〈書く〉」

DLA〈書く〉概要

(1) 目的

- ・DLA〈書く〉では、まとまった文(章)を書く力を測ります。
- ・書く力は教科学習言語能力の大きな部分を占めるもので、考える力と文字にする力の両方が必要です。文字・文法の習得はもちろん基礎作文力の大切な要素ですが、文字化する前の考える力にも焦点をあてます。
- ・DLA〈書く〉では、書きたいことがあっても文字化に至らない段階の子どもから考えたことを引き出すため、また、書いたことを振り返り次につなげるために対話を行います。

(2) 対象

- ・DLA〈書く〉は、文字習得が一定程度進み文を書くことの指導が始まっている児童生徒、話をすることを文字化することができる児童生徒を対象とします。DLA〈読む〉と同様、日本語の文字を十分に習得できていない児童生徒に対しては使用できません。

(3) 方法

- ・課題を与えて考える経験をさせ、書くことへの興味を喚起します。
低学年・中学年には口頭で課題を与え、高学年・中学生にはプリントで課題を提示します。
- ・書くことの習熟度や得意不得意により、二つのやり方があります。

〈自分から進んで書くことができる場合〉

自分から進んで書くことができる場合には、書き上げた後の対話により、書く姿勢や内容を振り返り、書こうとしたことが何だったのか確認します。

〈なかなか書き始められない場合〉

書くことを見つけるのに苦労したり、どう書いていいかわからずなかなか書き始められなかつたりという場合には、まず、書くことを見つけるために対話を行ないます。書き終わった後にも、振り返りのための対話を行ないます。

- ・詳しくはp76の実施手順と留意点、〈書く〉「実践ガイド」をご覧ください。

(4) 構成

- ・DLA〈書く〉は、次の5つからなっています。

① 「課題例 W1～W8」

子どもに合わせて課題を選んでください。

選ぶ際には

「年齢枠別作文テーマ」 (p74)

「テーマごとの課題例」 (p75)

を参照してください。

W1～W4は口頭で与える課題で、W5～W8は課題プリントが巻末資料にあります。

② 「実践ガイド W1～W8」(「書くまえに」「書きましょう」「書いたあとで」) (p80～95)
課題例に沿って手順や発問例を用意しました。
事前に読んでおき、また、実施の際に必要に応じて参照します。

③ 卷末資料

- ・低・中学年の場合は、作文用紙 (p.165-167)
- ・高学年の場合は作文課題 (p.163-164 課題番号W5~W8)
必要に応じて拡大コピーしてお使いください。
- ★高学年以上は原稿用紙を用意してください。

④ 「診断シート W1~W8 (p96-103)」

課題に対応したシートをコピーしてお使いください。

⑤ 「JSL評価参考枠 (p104)」

診断シートに記入した結果を、JSL評価参考枠「書く」に照らし合わせて、ステージを決定します。

⑥ 「DLA実施レポート」・「DLA採点表〈全体評価〉」(p. 139-140)

「診断シート」で得られた結果を記入します。

(5) 実施の前に

事前準備

- ・概要・実践ガイドを読み、手順や留意点を頭に入れる
- ・対象となる児童生徒に合わせて課題の目星をつける
⇒ p. 74 「年齢枠別作文テーマ」 p. 75 「テーマごとの課題例」を参照してください。
- ・下記の「用意するもの」がそろっているか確認する

用意するもの

- ・卷末資料作文用紙のコピー(低・中学年)または原稿用紙(高学年以上)
- ・卷末資料課題プリントのコピー(高学年以上)
- ・メモ用紙(白紙)(書くことを考える際、必要に応じて使用)
- ・DLA〈書く〉実践ガイド
- ・その他 日頃の学習環境や必要に応じて、児童生徒用の辞書・単語カードなどの参考資料

【年齢枠別作文テーマ】

作文テーマ	年齢枠	低学年		中学年 (3,4年生) 8-10歳	高学年 (5,6年生) 10-12歳	中学生	
		1年生 6-7歳	2年生 7-8歳			1,2年生 12-14歳	3年生 14-15歳+
W1 動物	◎	○					
W2 日記		○	○				
W3 大切なもの		○	○	○			
W4 遊び			○	○	○		
W5 学校				○	○	○	
W6 日本の○○				○	○	○	
W7 メールと手紙					○	○	
W8 電子書籍と本					○	○	

◎印がテーマ選択の目安ですが、子どもに応じて○印のテーマを与えて構いません。

【テーマごとの課題例】

テーマ	課題例	*番号
動物	「好きな動物は何ですか。どんな動物ですか。知っていることをたくさん書いてください。まず絵を描いてもいいですよ。」	W1
日記	「楽しかった日を教えてください。何をしましたか。見たこと、聞いたこともたくさん書いてください。」	W2
大切なもの	「大切なものは何ですか。どうして大切ですか。たくさん書いてください。」	W3
遊び	「遊びを一つ選んでください。小さい子にやり方を教えましょう。わかりやすく書いてください。」	W4
学校	『あなたの学校について紹介してください。今の学校でも、前の学校でもいいです。 (400字以内・30分)』	W5
日本の○○	『日本と外の国を比べて違うところを説明してください。テーマ（○○）は自由に決めてください。 (400字以内・30分)』	W6
メールと手紙	『気持ちを伝えるのにメールと手紙、どちらがいいと思うか、500字以内であなたの考えを書きなさい。 (30分)』	W7
電子書籍と本	『携帯で読める本（電子書籍）があれば、紙の本はいらないという意見についてどう思うか。理由とともに600字以内で述べよ。 (30分)』	W8

- 実施時間は子どもによって異なりますが、指示する目安としては低学年では10分～20分、中学年では20分～30分としてください。書いた後の対話時間を確保するため、終了の時間を指示してください。

(6) 実施手順

①書く前に

意欲・経験

- まずははじめに、意欲や作文を書いた経験について聞き、なるべくたくさん書くように励みます。母語で書いた経験についてもききましょう。

課題・用紙

- 課題の選択と確認、用紙の選択と使い方の確認を行います。課題や作文用紙を選ばせることで、書く意欲を高めることをねらっています。
- 低・中学年では、口頭で課題を与えます。まず「テーマ」を与え、何を書くか話し合って書くことを決めます。
- 例えば、1年生で「動物」というテーマを与える場合、実践ガイドでは「好きな動物は何ですか」という問い合わせから始まっていますが、好きな動物がなければ、「学校にいる動物は何ですか」のように質問を変えてみるといいでしょう。「好きな」という言葉から自分の好きなもの（車など）について話し始める子がいたら、そのままそれをテーマとしてもかまいません。喜んで書くものをテーマとしてください。
- 2年生に「日記」というテーマを与える場合も、「昨日何をしましたか」や「日曜日に何をしましたか」というような問い合わせが可能です。子どもが書けそうだと思うような課題設定をしてください。
- ただし、何を書くかが明確になっていないと正確な測定ができませんので、課題がわかったかどうか、これから何を書くのかについて、書き始める前に確認してください。
- 質問があれば、その子の年齢・認知レベルに合わせてわかりやすく説明してください。
- 高学年・中学生には主にプリントで課題を与えて選ばせ、原稿用紙に書かせます。

②書きましょう

- 「書きましょう」では、二通りのやり方があります。

- (1) 自力で取り組める場合には、取り組む姿勢を観察し、質問などがあれば答えます。
書く前に絵を描いたりメモを作ったりしたか、詰まった時にどうしたかなど、書く作業を観察することで、伸ばすためのヒントにつながります。
- (2) 書き始めるのに支援が必要な子どもの場合には、まず、書く内容を引き出す対話を行い、書きへの誘導・励ましを与えます。必要に応じて、絵を書かせる・手近な資料を参照させるなどの補助手段を用いても良いでしょう。
どのような支援があれば書けるのかということが見えてきます。

③書いた後で

内容について

- まず、書いた内容について話させます。情報の足りないところについては質問し、追加情報を引き出します。特に、少しありがなかった場合には、関連する質問をしてたくさん話させましょう。この時、子どもから出てきた答えを、実施者が文の形で繰り返して、より適切な表現や文法構造をさりげなく示します。**★その場で書かせる必要はありません。**
- まとめた内容の文(章)を書く経験、話す経験を重視し、**★文字や文法の間違いをその場で直すことはしません。**

取り組みに対する評価

- 姿勢や取り組みについての対話をを行い、やろうとしたこと、できたことに対して肯定的な評価を与えます。子ども自身が、できたことを確認し、達成感を持つことが大切です。

振り返り

- 書くという課題を達成できたことを確認して終わります。

(7) 実施上の留意点

＜課題の選択について＞

- 74-75ページに、年齢別作文テーマおよびテーマごとの課題例を一覧表にして示しました。テーマの選び方、課題の与え方によって、測りたい力がしばられます。測りたい力の上限は児童生徒の年齢によって異なります。また、学習の進み具合によっても測りたい力が異なりますので、子どもにあった適切な課題を選ぶことが大切です。
- 79ページの表「評価の観点と年齢枠一覧」もあわせてご参照ください。
- 課題例W1～W8には、それぞれ対応する「実践ガイド」と「診断シート」がありますので、選んだ課題に合わせてお使いください。
- 低学年・中学年の中には無理のない課題を与えるようにし、高学年以上の子どもには、課題を二つ示して本人に選ばせるのが望ましいと思われます。

＜書く前の対話について＞

- 書く前の対話の際に書くことを先生が先回りして言ってしまったり、口述しながら書き取らせたりすると、子どもの作文力を測ることにはなりません。対話は、あくまでも子どもから「引き出す」ための問いかけ・促しの形で行います。
- 考える力を伸ばすためには考える経験が必要です。具体的な質問を重ねることで、考えさせ、子どもの中から答えを引き出すように心がけましょう。

＜書いた後の対話について＞

- 書いたことや書きたかったことを振り返ることが目的なので、その場で書き直せることはしません。質問し情報を引き出すことで、より詳しく書くにはどうすればよかつたのか、どう書けばわかりやすかったのかなどに自然に気付くことができるようになります。

＜ほめて終わる＞

- DLA〈書く〉では、対話を通して児童生徒の最高のパフォーマンスを引き出します。子どもに自信や達成感を持たせるために、書く姿勢についての対話でも書いた内容についての対話でも、ほめるところをたくさん見つけてほめましょう。
- 先生がじっくり向き合ってくれることだけでも、子どもにとっての達成感は大きいものです。子どもの「できること」をたくさん発見する気構えで臨んで下さい。

備考

- DLA〈書く〉では、子どもの書き行動の観察を大切にし、いつでも支援ができるように、実施者はそばについていることが理想ですが、支援なしに書けるレベルの子どもが対象の場合には、10分～30分の間、完全に密着している必要はありません。しかし、支援を求められたときには対応ができるようにしてください。
- 自由度を上げることで書く意欲が高まるようであれば、「○○について書きましょう」のようにテーマだけを与えて、書けそうな内容を自由に探させることもできます。また、子どもの学習状況に合わせて同じような課題を設定していただいても結構です。この場合、実践ガイドの発問例をそのまま使う必要はありませんので、課題に合わせて調整してください。

（8）評価の方法

- ・**DLA**（書く）が終了したら、採点・評価にうつります。

用意するもの

- ・**DLA**（書く）の採点・評価には以下のものを使用します。
- ・子どもの書いた作文
- ・課題に対応した**DLA**（書く）診断シート
- ・JSL評価参照枠「書く」

診断シートの評価項目とJSL評価参照枠との関係

- ・診断シートには、課題と年齢枠に応じた評価項目が記載されています。
- ・**DLA**（書く）のJSL評価参照枠と診断シートの評価項目および年齢枠の対応関係を、次ページの「評価の観点と年齢枠一覧」に示します。

評価手順

- ・子どもの作文を見ながら、課題に対応する診断シートに示された評価項目について5点（とてもよい）、3点（ふつう）、1点（もう少し）で採点します。4点、2点をつけてもかまいません。
- ・総合得点を出し、項目数で割って平均点を算出します。
- ・診断シートの評価をJSL評価参照枠「書く」（p104）と照らし合わせ、また、ふだんの学習活動の様子もふまえて、総合的にステージを判定します。
- ・備考欄には母語の状況（家で使用、話せるが書けない、書ける、書く練習をしている、など）を記入しておきましょう。

備考

- ・カタカナ語の表記に関する項目が入っていますが、題材によってはカタカナを使わずに書く場合があります。その場合には採点項目から外してかまいません。平均点を出す際も、分母を減らしてください。
- ・まだ漢字の指導が始まっていないことがわかっている場合、診断シート「漢字使用」の項目について採点対象から外してかまいません。平均点を出す場合も分母の数を1つ減らしてください。

【評価の観点と年齢枠 一覧】

参照枠 〈書く〉	診断シートの評価項目	年齢枠	6-7歳 (1年生)	7-8歳 (2年生)	8-10歳 (中学年)	10-15+歳 (高学年 中学生)
内容	作文の長さ（文字数）			○	○	○
	内容の豊かさ（情報の豊かさ、独創性、気持ち、意見など）	○	○	○	○	
	表現の工夫（書き出し、会話文、擬態語/擬音語、比喩、副詞、結びなど）		○	○	○	
構成	全体のまとめ				○	○
	段落				○	○
	文と文のつながり		○	○	○	
文の質・ 正確度	文の複雑さ（複文、従属節など）				○	○
	文の正確度（語順や活用など）		○	○	○	
	文末の統一（常体とです・ます体を混ぜずに書く）		○	○	○	
語彙・ 漢字力	語彙の多様性	○	○	○	○	
	語彙の適切性（テーマに合った語彙が使える）			○	○	
	漢字語彙の使用（年齢枠相応の漢字や漢字語彙が使える）		○	○	○	
書字力・ 表記ルール	ひらがな（特殊音節を含む）	○	○	○	○	
	カタカナ語	○	○	○	○	
	表記ルール（句読点、一字下げ、縦書き/横書き、「」など）		○	○	○	
	送り仮名		○	○	○	
書く態度	意欲と取り組み方（積極的に取り組める、自力で取り組める～支援を得て取り組める）	○	○	○	○	
	書く前の準備（絵、メモなど）	○	○	○	○	
	書いた後（読み返したり修正したりしようとする）			○	○	

書くまえに...

① 書くことに対する意欲や経験について聞く。



書くのは好きですか。

○○語(母語)でも書いたことがありますか。

今日は日本語でたくさん書きましょう。いいですか。がんばりましょう。

- ・好き/嫌いの理由やどんなものを書いたかなど、自然な流れでやりとりをし、リラックスして書くことに取り組めるようにする。

② 課題について話し合う。



今日は、「動物」について作文を書きましょう。

好きな動物はなんですか。どうして好きか教えてください。

- ・特に好きな動物がなければ、(1) 学校にいる動物・触ったことのある動物
- (2) 好きな食べ物・好きな車などに変えてても良い。



好きな○○のことを書きましょう。たくさん書いてください。いいですか。

③ 用紙の選択・用紙の使い方がわかっているかどうか確認する。



まず、紙を選びましょう。どの紙に書きますか。

- ・巻末資料の用紙から2, 3枚示して選ばせる。



どこに名前を書きますか。どこから書き始めますか。

- ・選んだ用紙の使い方を確認し、わからない場合は教える。



絵を描いてもいいですよ。

書きましょう...

① 書く様子を見守り、助けを求められたときはこたえる。

- ・なかなか書き出せないで困っている場合は、つぎのような対話（1または2）をして励ます。

(例) <1. 課題について詳しく話し合う>



○○が好きなんですね。○○はどんな動物ですか。何色ですか。大きいですか。
何をたべますか。どんなところにいますか。どこで見ましたか。

<誘導・はげまし>



○○のことを、良く知っていますね。それを書いてください。

<2. 子どもが描いた絵を手がかりにして話し合う>



先に絵を描いてみましょうか。

(絵について) これは何をしているところですか。これは何ですか。

<誘導・はげまし>



じゃあ今度は字を書いてみましょう。がんばってください。

書いたあとで…

① 作文を提出させ、ねぎらう。



がんばってたくさん書きましたね。
では、見せてください。

② 書いた内容について話させる。



では、書いたことを話してください。

- ・読み上げさせるのではなく子どもの頭の中に残っていることを話させる。
しっかりとあいづちをうち、肯定的に聞く。
- わかりにくい点、情報不足と思われるところについて質問し追加情報を引き出す。
- 特に少ししか書けなかった場合はなるべくたくさん話させる。(★書き直せる必要はない)

③ 書いたときの姿勢や取り組み方について質問する。



書くとき、一番考えたのはどこですか。
この作文の面白いところはどこですか。

- ・何も出なかったら→「×××というところが面白いと思いました。」のようにコメントする。

④ 振り返りを行う。



よくがんばりましたね。○○さんは△△が好きなんですね。
とても上手に書けました。話も上手でした。良かったです。
これでおわりです。

- ・子どもが達成感を持って終わるようにはめる。



書くのは大変でしたか？楽しかったですか？



今日の作文、とても上手でしたね。これからもたくさん書きましょうね。

メモ:

この課題は、書くことに慣れていない子どもを想定している。絵を手掛かりに書く内容をいっしょに探し、文字にしていく活動が主となる。この時、書くことを先回りして言ってしまはず、子どもの口から出たことを受け止め、書くことがまとまるように仕向けるとよい。

1年生が対象の場合、時間設定の必要性は低いが、DLA<話す>や<読む>とセットで実施する場合など、書いたあととの対話時間が確保できるように配慮する。

書くまえに...

① 書くことに対する意欲や経験について聞く。



書くのは好きですか。

○○語(母語)でも書いたことがありますか。

今日は日本語でたくさん書きましょう。いいですか。がんばりましょう。

- ・好き/嫌いの理由やどんなものを書いたかなど、自然な流れでやりとりをし、リラックスして書くことに取り組めるようにする。

② 課題について話し合い、わかったかどうかを確認する。



日記を書いたことがありますか。

- ・「日記を書いたことがある」と答えた子には「毎日書きますか」と聞く。



「楽しかった日」のことを教えてください。何をしましたか。

見たこと、聞いたこともたくさん書いてください。いいですか。

③ 用紙の選択・用紙の使い方がわかっているかどうか確認する。



紙を選びましょう。どの紙に書きますか。

- ・巻末資料の用紙から2, 3枚示して選ばせる。



どこに名前を書きますか。どこから書き始めますか。はじめに絵を描いてもいいですよ。

- ・選んだ用紙の使い方を確認し、わからない場合は教える。

書きましょう...

① 書く様子を見守り、助けを求められたときはこたえる。

- ・なかなか書き出せないで困っている場合は、つぎのような対話(1または2)をして励ます。

(例) <1. 課題について詳しく話し合う>



何をしましたか。どこでしましたか。だれとしましたか。楽しかったですか
そこで、何を見ましたか。どうでしたか。
だれが、何と言いましたか。

<誘導・はげまし>



書くことがたくさん見つかりましたね。それを書いてください。

<2. 子どもが描いた絵を手がかりにして話し合う>



先に絵を描いてみましょう。

(絵について) これは何をしているところですか。これは何ですか。

<誘導・はげまし>



じゃあ今度は文を書いてみましょう。がんばってください。

書いたあとで …

① 作文を提出させ、ねぎらう。



がんばってたくさん書きましたね。
では、見せてください。

② 書いた内容について話させる。



では、書いたことを話してください。

- ・読み上げさせるのではなく子どもの頭の中に残っていることを話させる。
しっかりとあいづちをうち、肯定的に聞く。
わかりにくい点、情報不足と思われるところについて質問し追加情報を引き出す。
また、関連質問をして話題を膨らませる。★書き直させる必要はない。

③ 書く姿勢・取り組みについて質問する。



書くとき、一番考えたのはどこですか。
この作文の面白いところはどこですか。

- ・しっかりとあいづちを打って聞き、肯定的に聞く。工夫した点をほめる。

④ 振り返りを行う。



よくがんばりましたね。「楽しかった日」のことがよくわかりました。
とても上手に書けました。話も上手でした。良かったです。
これでおわりです。

- ・子どもが達成感を持って終わるようほめる。
「～というところが特に面白かったです。」等、具体的にほめるとよい。



書くのは大変でしたか？楽しかったですか？



今日の作文、とても上手でしたね。これからもたくさん書きましょうね。

メモ:

日記を書く習慣のある子、日記の指導を受けている子にとっては、単なる日記だと日常的な課題になってしまうので、「明日したいこと」を書くように仕向けてもよい。
低学年を対象に行う場合、時間設定の必要性は低いが、DLA<話す>や<読む>とセットで実施する場合など、書いたあととの対話時間が確保できるよう配慮する。

書くまえに...

① 書くことに対する意欲や経験について聞く。



書くのは好きですか。○○語(母語)でも書いたことがありますか。
今日は日本語でたくさん書きましょう。いいですか。がんばりましょう。

- ・好き/嫌いの理由やどんなものを書いたかなど、自然な流れでやりとりをし、リラックスして書くことに取り組めるようにする。

② 課題について話し合い、わかったかどうか確認する。



大切なものは何ですか。どうして大切ですか。教えてください。

- ・聞きながら、「そうですか。いいですね。」など、相槌をうち、興味を示す。



では、今から、○○さんの大切なものについて書きましょう。
たくさん書いてください。いいですか。

③ 用紙の選択・用紙の使い方がわかっているかどうか確認する。



まず紙を選びましょう。どの紙に書きますか。

- ・巻末資料の用紙から2, 3枚示して選ばせる。



どこに名前を書きますか。どこから書き始めますか。
はじめに絵を描いてもいいですよ。

- ・選んだ用紙の使い方を確認し、わからない場合は教える。

④ 時間の指示（目安は20分）



それでは書いてください。時間は□□までです。いいですか。

書きましょう...

① 書く様子を見守り、助けを求められたときはこたえる。

- ・なかなか書き出せないで困っている場合は、声かけ(1または2)をしてはげます。

(例) <1. 課題について詳しく話し合う>



○○さんの大切なものは○○なんですね。

- ・「どうして大切ですか。」など、関連する質問をして答えを引き出す。

<誘導・はげまし>



大切なものを友達にわかるように、書きましょう。

<2. 子どもが描いた絵を手がかりにして話し合う>



先に絵を描いてみましょうか。

(絵について) これは何ですか。どんな～ですか。

<誘導・はげまし>



なるほど、じゃあ今度は文を書いてみましょう。がんばってください。

書いたあとで …

① 作文を提出させ、ねぎらう。



がんばってたくさん書きましたね。
では、見せてください。

② 書いた内容について話させる。



では、書いたことを話してください。

- ・読み上げさせるのではなく子どもの頭の中に残っていることを話させる。
- ・しっかりとあいづちをうち、肯定的に聞く。
- ・わかりにくい点、情報不足と思われるところについて質問し追加情報を引き出す。
- ・また、関連質問をして話題を膨らませる。★書き直させる必要はない。

③ 書く姿勢・取り組みについて質問する。



書くとき、一番考えたのはどこですか。
この作文の面白いところはどこですか。

- ・しっかりとあいづちを打って聞き、肯定的に聞く。工夫した点をほめる。

④ 振り返りを行う。



よくがんばりましたね。○○さんの大切なものがよくわかりました。
とても上手に書けました。話も上手でした。良かったです。
これでおわりです。

- ・子どもが達成感を持って終わるようほめる。
- ・「～というところが特に面白かったです。」等、具体的にほめるとよい。



書くのは大変でしたか？楽しかったですか？



今日の作文、とても上手でしたね。これからもたくさん書きましょうね。

メモ:

この課題は「理由を書く」ことに焦点がある。大切な理由がしっかりと書けるように声掛けをし、子どもから答えを引き出す。また、それがどんなものなのか詳しく描写できるよう、大きさや色、形など、具体的な質問を重ね、説明のしかたを考えさせる。

書くまえに...

① 書くことに対する意欲や経験について聞く。



書くのは好きですか。○○語(母語)でも書いたことがありますか。
今日は日本語でたくさん書きましょう。いいですか。がんばりましょう。

- ・好き/嫌いの理由やどんなものを書いたかなど、自然な流れでやりとりをし、リラックスして書くことに取り組めるようにする。

② 課題について話し合い、わかったかどうか確認する。



遊びを一つ選んでください。小さい子にやり方を教えます。どんな遊びですか。

- ・質問して具体的な答えをたくさん引き出す。

③ 用紙の選択・用紙の使い方がわかっているかどうか確認する。



では、今から、○○のやり方を書きましょう。
小さい子によくわかるように、わかりやすく書いてください。いいですか。



まず紙を選びましょう。どの紙に書きますか。

- ・巻末資料から2, 3枚示して選ばせる。



どこに名前を書きますか。どこから書き始めますか。
はじめに絵を描いてもいいですよ。

- ・選んだ用紙の使い方を確認し、わからない場合は教える。

④ 時間の指示（目安は20分）



では、書いてください。時間は□□までです。いいですか。

書きましょう...

① 書く様子を見守り、助けを求められたときはこたえる。

- ・なかなか書き出せないで困っている場合は、声かけ(1または2)をしてはげます。

(例) <1. 課題について詳しく話し合う>



一年生にやりかたを教えましょう。まず何をしますか。それから何をしますか。
難しいのは何ですか。面白いところは何ですか。

<誘導・はげまし>



今の話を書きましょう。わかりやすく書いてください。

<2. 絵を手がかりにして話し合う>



先に絵を描いてみましょうか。
(絵について) これは何をしているところですか。これはなんですか。

<誘導・はげまし>



じゃあ今度は文を書いてみましょう。がんばってください。

書いたあとで …

① 作文を提出させ、ねぎらう。



がんばってたくさん書きましたね。
では、見せてください。

② 書いた内容について話させる。



では、書いたことを話してください。

- ・読み上げさせるのではなく子どもの頭の中に残っていることを話させる。
しっかりとあいづちをうち、肯定的に聞く。
わかりにくい点、情報不足と思われるところについて質問し追加情報を引き出す。
★書き直せる必要はない。

③ 書く姿勢・取り組みについて質問する。



書くとき、一番考えたのはどこですか。
この作文の面白いところはどこですか。

- ・しっかりとあいづちを打って聞き、肯定的に聞く。工夫した点をほめる。

④ 振り返りを行う。



よくがんばりましたね。遊び方がよくわかりました。
とても上手に書けました。話も上手でした。良かったです。
これでおわりです。

- ・子どもが達成感を持って終わるようほめる。
「～というところが特に面白かったです。」等、具体的にほめるとよい。



書くのは大変でしたか？楽しかったですか？



今日の作文、とても上手でしたね。これからもたくさん書きましょうね。

メモ:

この課題は「手順の説明」に焦点がある。読めばやり方がわかるように書けるかがポイントである。自分がよく知っていることを説明するのは意外に難しいので、順番を意識させるような質問をし、子どもから答えを引き出す。説明できそうな遊びの名前が挙がらなかつたら、「じゃんけん(日本式でも外国式でもよい)」のやりかたを説明させててもよい。

書くまえに...

① 書くことに対する意欲や経験について聞く。



書くのは好きですか。○○語(母語)でも書いたことがありますか。
今日は日本語でたくさん書きましょう。いいですか。がんばりましょう。

- ・好き/嫌いの理由やどんなものを書くかなど、自然な流れでやりとりをし、リラックスして書くことに取り組めるようにする。

② 課題の紙を見せて、わかったかどうか確認する。



問題を見てください。何を書くかわかりましたか。

- ・質問があれば答える。

③ 原稿用紙の使い方がわかっているかどうか確認し、書く前のメモを勧める。



では、学校紹介を書いてください。原稿用紙1枚に書いてください。
時間は□□までです。いいですか。

- ・原稿用紙の使い方がわからない場合は教える。



どこに名前を書きますか。どこから書き始めますか。



書き始める前に書くことをメモするといいですよ。このメモ用紙を使ってください。
絵を描いてもかまいません。

書きましょう...

① 書く様子を見守り、助けを求められたときはこたえる。

- ・なかなか書き出せないで困っている場合は、声かけをしてはげます。

(例) <課題について詳しく話し合う>



では、まず書くことのメモを作りましょう。どの学校について書きますか。
学校では、どんなことをしますか。…それから何がありますか。

- ・まず、作文を書いたことのある行事などについて思い出させたり、毎日の日課のことなど、思いつくものを挙げていって、メモさせる。
- ・次に、その中から何を書くか、どんな順番で書くかなど、構成を考えさせる。



一番はじめに何を書いたらいいと思いますか。

この学校のいいところは何だと思いますか。

他に書きたいことがありますか。順番はいいですか。

最後はどう書くか考えましたか。

<誘導・はげまし>



書く順番が決まったら、どうぞ書いてください。

- ・言葉がわからなかつたり、表現で困って質問してきたときは答える。
- ・内容について相談してきたときは、答えを与えるのではなく、「一番知らせたいことは何ですか」「読んだ人が面白いと思うことは何ですか」などの声かけで答えを引き出す。

書いたあとで …

① 作文を提出させ、ねぎらう。



がんばってたくさん書きましたね。
では、見せてください。

② 書いた内容について話させる。



では、書いたことを話してください。

- ・読み上げさせるのではなく子どもの頭の中に残っていることを話させる。
しっかりとあいづちをうち、肯定的に聞く。
- わかりにくいくらい、情報不足と思われるところについて質問し追加情報を引き出す。

★書き直せる必要はない。

③ 書く姿勢・取り組みについて質問する。



書くとき、一番考えたのはどこですか。
読んだ人が一番面白いと思うのはどこだと思いますか。
読んだ人は、この学校のことをどう思うと思いますか。

- ・しっかりとあいづちを打って聞き、肯定的に聞く。工夫した点をほめる。

④ 振り返りを行う。



よくがんばりましたね。これを読んだら学校のことがよくわかるでしょう。
とても上手に書けました。
これでおわりです。

- ・子どもが達成感を持って終わるようにはめる。
「～というところが特に面白かったです。」等、具体的にはめるとよい。
対話でたくさん話せた場合は、「話も上手でした。」のようにはめるとよい。



書くのは大変でしたか？楽しかったですか？



今日の作文、とても上手でしたね。これからもたくさん書きましょうね。

メモ:

この課題は持っている情報を整理して必要なことを抜き出し、構成を考えて書くことが要求される。いっしょにメモを作ったり、書くことを選んで構成を考えるなどの段階を踏んで書けるとよい。また、書いた後の対話で、読み手を意識したり、よりわかりやすい伝え方を考えたりといった点を、次回以降の課題として意識させる。

書くまえに...

① 書くことに対する意欲や経験について聞く。



書くのは好きですか。○○語(母語)でも書いたことがありますか。
今日は日本語でたくさん書きましょう。いいですか。がんばりましょう。

- 好き/嫌いの理由やどんなものをどれぐらい書いたかなど、自然な流れでやりとりをし、リラックスして書くことに取り組めるようにする。

② 課題を二つ(「学校紹介」「日本の○○」)提示して、子どもに選ばせる。



どちらを書きますか。好きな方を選んでください。

- 質問があれば答える。(外の国とはどこかと聞かれたら、子どもに応じて適宜設定して応える。母国での学習経験がある子どもに対しては子どもの母国を答えとしてよい。)
- 「学校紹介」→p88-89へ 「日本の○○」→以下へ続く

③ 課題文を読ませ、書くことがわかったかどうか確認する。



書くことがわかりましたか。
では書いてください。時間は□□までです。いいですか。

④ 原稿用紙の使い方を確認し、書く前にメモを作ることを勧める。



どこに名前を書きますか。どこから書き始めますか。
書き始める前に書くことをメモするといいですよ。このメモ用紙を使ってください。

- 原稿用紙の使い方がわからない場合は教える。

書きましょう...

① 書く様子を見守り、助けを求められたときはこたえる。

- なかなか書き出せないで困っている場合は、声かけをしてはげます。

(例) <課題について詳しく話し合う>



ではまず書くことのメモを作りましょう。
日本の何について書きますか。
日本の○○と外国(○○)の○○で、違うのはどこでしょうか。

- 何も出てこなければ、「(トピックに学校を選んだ場合は)教室の様子は?一番面白い行事は?」など、手がかりを与えて考えさせる。
- 次に、その中から何を書くか、どんな順番で書くかなど、構成を考えさせる。



一番はじめに何を書きますか。
それから、何を書きますか。
他に書きたいことがありますか。順番はいいですか。
最後はどう書くか考えましたか。

<誘導・はげまし>



書く順番が決まったら、どうぞ書いてください。

- 言葉がわからなかつたり、表現で困って質問してきたときは答える。
- 内容について相談してきたときは、答えを与えるのではなく、「一番知らせたいことは何ですか」「面白いところは何ですか」などの声かけを繰り返して答えを引き出す。

書いたあとで ...

① 作文を提出させ、ねぎらう。



がんばってたくさん書きましたね。
では、見せてください。

② 書いた内容について話させる。



では、書いたことを話してください。

- ・読み上げさせるのではなく子どもの頭の中に残っていることを話させる。
- ・しっかりとあいづちをうち、肯定的に聞く。
- ・わかりにくい点、情報不足と思われるところについて質問し追加情報を引き出す。
- ★書き直せる必要はない。

③ 書く姿勢・取り組みについて質問する。



書くとき、一番考えたのはどこですか。
読んだ人が一番面白いと思うのはどこだと思いますか。
読んだ人は、日本の○○のことをどう思うと思いますか。

- ・しっかりとあいづちを打って聞き、肯定的に聞く。工夫した点をほめる



書いた後で読み返しましたか。

④ 振り返りを行う。



よくがんばりました。これを読んだら日本の○○のことや、○○との違いがよくわかります。
とても上手に書けました。良かったです。
これでおわりです。

- ・子どもが達成感を持って終わるようにはめる。
- 「～というところが特に面白かったです。」等、具体的にはめるといい。
- 対話でたくさん話せた場合は「話も上手でした。」のようにほめるとよい。



書くのは大変でしたか？楽しかったですか？



今日の作文、とても上手でしたね。これからもたくさん書きましょうね。

メモ:

「学校紹介」と同じく、情報を整理して必要なことを抜き出し、順序や構成を考えて書くことが要求される。母国で学校に行ったことがある子どもの場合には、学校の比較にぜひ取り組ませたい。無論、学校以外のトピックでもかまわない。
日本生まれの子どもの場合は、人から聞いたことや本で読んだことなどの比較でよい。

書くまえに...

① 書くことに対する意欲や経験について聞く。



書くのは好きですか。○○語(母語)でも書きますか。
今日は日本語でたくさん書きましょう。いいですか。がんばりましょう。

- ・好き/嫌いの理由やどんなものを書くかなど、自然な流れでやりとりをし、リラックスして書くことに取り組めるようにする。

② 課題を二つ(「日本の○○」「メールと手紙」)提示し、子どもに選ばせる。



どちらを書きますか。好きな方を選んでください。

- ・質問があれば答える。
- ・「日本の○○」→p90-91へ 「メールと手紙」→以下へ続く

③ 課題文を読ませ、書くことがわかったかどうか確認する。



書くことがわかりましたか。
ではどうぞあなたの考えを書いてください。時間は□□までです。いいですか。

④ 原稿用紙の使い方を確認し、書く前にメモを作ることを勧める。



どこに名前を書きますか。どこから書き始めますか。
書き始める前に書くことをメモするといいですよ。このメモ用紙を使ってください。

- ・原稿用紙の使い方がわからない場合は教える。

書きましょう...

① 書く様子を見守り、助けを求められたときはこたえる。

- ・なかなか書き出せないで困っている場合は、声かけをしてはげます。

(例) <課題について詳しく話し合う>



では、まず書くことのメモを作りましょう。
どんな時に手紙を書きますか。どんな時にメールを書きますか。
どんな手紙(メール)をもらうと嬉しいですか。

- ・その他、手紙を書かなければならない状況(例:けんかの後あやまるなど)を設定するなど、考える手がかりを適宜与えて考えさせる。
- ・次に、その中から何を書くか、どんな順番で書くかなど、構成を考えさせる。



一番はじめに何を書きますか。それから、何を書きますか。
他に書きたいことがありますか。順番はいいですか。
最後はどう書くか考えましたか。

<誘導・はげまし>



書く順番が決まったら、どうぞ書いてください。

- ・言葉がわからなかつたり、表現で困って質問してきたときは答える。
- ・内容について相談してきたときは、「○○さんの考えを書いてください」「その考えはいいと思いますよ」などの声かけをして励ます。

書いたあとで....

① 作文を提出させ、ねぎらう。



がんばりましたね。

では、見せてください。

② 書いた内容について話させる。



では、書いたことを話してください。

- ・読み上げさせるのではなく子どもの頭の中に残っていることを話させる。
- ・しっかりとあいづちをうち、肯定的に聞く。
- ・わかりにくい点、情報不足と思われるところについて質問し追加情報を引き出す。
- ★書き直せる必要はない。

③ 書く姿勢・取り組みについて質問する。



書くとき、一番考えたのはどこですか。

ほかの人は、どう考えると思いますか。

違う意見の人いたら、どうしますか。

- ・しっかりとあいづちを打って聞き、肯定的に聞く。工夫した点をほめる。



最後のまとめはうまく書けましたか。

工夫したところがありますか。

- ・このような観点で自分の作文を振り返らせる。



書いた後で読み返しましたか。

④ 振り返りを行う。



よくがんばりました。

とても上手に書けました。良かったです。

これでおわりです。

- ・子どもが達成感を持って終わるようほめる。
- 「～というところが特にいいですね。」等、具体的にほめるとよい。
- 対話でたくさん話せた場合には、「最後に意見がしっかりと言えましたね。」のようほめる。

メモ:

「意見・考え」を述べる課題。正解があるわけではないので、なぜそう考えるのかについて上手に伝えられるように、また、違う意見もあることを考えに入れて書くように誘導する。

書くまえに...

① 書くことに対する意欲や経験について聞く。



書くのは好きですか。○○語(母語)でも書きますか。

今日は日本語でたくさん書きましょう。いいですか。がんばりましょう。

- ・好き/嫌いの理由やどんなものを書くかなど、自然な流れでやりとりをし、リラックスして書くことに取り組めるようにする。

② 課題を二つ(「メールと手紙」「電子書籍~」)提示し、子どもに選ばせる。



どちらを書きますか。好きな方を選んでください。

- ・「メールと手紙」を選んだ場合 → p92-93へ
- ・「電子書籍と本」を選んだ場合 → 以下へ続く

③ 課題文を読ませ、書くことがわかったかどうか確認する。



書くことがわかりましたか。

- ・「電子書籍」がわからなかったら説明する。

④ 原稿用紙の使い方を確認し、書く前にメモを作ることを勧める。



どこに名前を書きますか。どこから書き始めますか。

書き始める前に書くことをメモするといいですよ。このメモ用紙を使ってください。

- ・原稿用紙の使い方がわからない場合は教える。

書きましょう....

① 書く様子を見守り、助けを求められたときはこたえる。

- ・なかなか書き出せないで困っている場合は、声かけをしてはげます。

(例) <課題について詳しく話し合う>



では、まず書くことのメモを作りましょう。

○○さんは、電子書籍があれば本はいらないという意見に賛成ですか、反対ですか。

どうしてですか。電子書籍の良い点は何でしょう。本の方が良い点がありますか。

- ・携帯小説などを読んだことがあるかどうか聞くのもよい。出てきた答えに「いいですね」などのあいづちを打って興味を示し、たくさん話させるとよい。
- ・次に、その中から何を書くか、どんな順番で書くかなど、構成を考えさせる。



一番はじめに何を書きますか。

それから、何を書きますか。

他に書きたいことがありますか。順番はいいですか。

最後はどう書くか考えましたか。

<誘導・はげまし>



書く順番が決まったら、どうぞ書いてください。

- ・言葉がわからなかったり、表現で困って質問してきたときは答える。

- ・内容について相談してきたときは、「○○さんの考えを書いてください」「その考えはいいと思いますよ」などの声かけをして励ます。

書いたあとで ...

① 作文を提出させ、ねぎらう。



がんばって書きましたね。
では、見せてください。

② 書いた内容について話させる。



では、書いたことを話してください。

- ・読み上げさせるのではなく子どもの頭の中に残っていることを話させる。
- ・しっかりとあいづちをうち、肯定的に聞く。
- ・わかりにくい点、情報不足と思われるところについて質問し追加情報を引き出す。
- ★書き直せる必要はない。

③ 書く姿勢・取り組みについて質問する。



書くとき、一番考えたのはどこですか。
この作文のいいところはどこですか。どうしてそう思いますか。
これを読んだら本を書く人はどう思うでしょうね。

- ・しっかりとあいづちを打って聞き、肯定的に聞く。工夫した点をほめる。



工夫したところはどこですか。
最後のまとめはうまく書けましたか。

- ・表現の工夫や構成といった観点で自分の作文を振り返らせる。



書いた後で読み返しましたか。

- ・「読み返した。」と答えた場合は「それはいいですね。」と言うなど、推敲につながるよう読み返す習慣づけを促す。

④ 振り返りを行う。



よくがんばりました。
これでおわりです。

- ・子どもが達成感を持って終われるようにほめる。
「意見や理由がしっかりと書け（言え）ましたね。」「～というところが特にいいですね。」等、具体的にほめるとよい。

メモ:

課題は「根拠を示して意見を述べることと、「適切な文体が選べる」ととの二つである。
課題文の文体を参考に同様の書き言葉らしい文体を選び、「～だ。」や「～である。」という文体が使えていれば特にとりあげてほめる。「です・ます体」で書いた場合も減点にはならないので、その場合は文体には触れず、内容に集中して対話をする。

診断シート W1 「動物」

名前： (男・女) 学年(所属)： 年 月 日

字数： 時間： 分

・子どもの作文を見て、あてはまる評価点(5・3・1)に○をつける。

中間を選択し、2点、4点をつけてよい。

■評価基準■ 5：とてもよい 3：ふつう 1：もう少し

内容			
1	内容の豊かさ	くわしく書ける	5 3 1
語彙・漢字力			
2	語彙の多様性	いろいろな語彙を使って書ける	5 3 1
書字力・表記ルール			
3	ひらがな	拗音,促音,長音などが正しく書ける	5 3 1
4	カタカナ語	カタカナ語が書ける	5 3 1
書く態度			
5	意欲と取り組み方	積極的に取り組める	5 3 1
6	書く前の準備	絵を描いたり、書くことを考えたり相談したりしてから書き始める	5 3 1
総合評価			
備考(母語の状況)		総合得点	点
		平均点	点
		/6 ⇒	点

(注)カタカナ表記の必要な語が出てこない場合は、4は該当しないので、採点せず、平均点を出す際の分母もへらして計算してください。

名前： (男・女) 学年(所属)： 年 月 日

字数： 時間： 分

・子どもの作文を見て、あてはまる評価点(5・3・1)に○をつける。

中間を選択し、2点、4点をつけてよい。

■評価基準■ 5：とてもよい 3：ふつう 1：もう少し

内容			
1	内容の豊かさ	くわしく書ける	5 3 1
構成			
2	文と文のつながり	つながりがよい	5 3 1
文の質・正確度			
3	文の正確度	文が正しく書ける	5 3 1
4	文末の統一	常体とです・ます体を混ぜずに書ける	5 3 1
語彙・漢字力			
5	語彙の多様性	たくさんの語彙を使って書ける	5 3 1
6	漢字語彙の使用	漢字を使って書ける	5 3 1
書字力・表記ルール			
7	ひらがな	拗音,促音,長音などが正しく書ける	5 3 1
8	カタカナ語	カタカナ語が書ける	5 3 1
9	表記ルール	表記ルールを守って書ける	5 3 1
10	送り仮名	送り仮名が正しく書ける	5 3 1
書く態度			
11	意欲と取り組み方	積極的に取り組める	5 3 1
12	書く前の準備	絵を描いたり、書くことを考えたり相談したりしてから書き始める	5 3 1
総合評価			
備考(母語の状況)		総合得点	点
		平均点	点
		/12	点

(注)カタカナ表記の必要な語が出てこない場合は、8は該当しないので、採点せず、平均点を出す際の分母もへらして計算してください。送り仮名不要の場合も同様。

診断シート W 3 「大切なものの」

名前： (男・女) 学年(所属)： 年 月 日

字数： 時間： 分

・子どもの作文を見て、あてはまる評価点(5・3・1)に○をつける。

中間を選択し、2点、4点をつけてよい。

■評価基準 ■ 5：とてもよい 3：ふつう 1：もう少し

内容				
1	内容の豊かさ	くわしく書ける	5	3 1
2	表現の工夫	順序や様子を表す表現が使える	5	3 1
構成				
3	文と文のつながり	つながりがよい	5	3 1
文の質・正確度				
4	文の複雑さ	「～て」、「～から」などを使って複文も書ける	5	3 1
5	文の正確度	文法的に正しい文が書ける	5	3 1
6	文末の統一	常体とです・ます体を混ぜずに書ける	5	3 1
語彙・漢字力				
7	語彙の多様性	たくさんの語彙を使って書ける	5	3 1
8	語彙の適切性	テーマに合った語彙が使える	5	3 1
9	漢字語彙の使用	漢字を使って書ける	5	3 1
書字力・表記ルール				
10	ひらがな	正しく書ける(特殊拍や助詞を含む)	5	3 1
11	カタカナ語	カタカナ語が書ける	5	3 1
12	表記ルール	表記ルールを守って書ける	5	3 1
13	送り仮名	送り仮名が正しく書ける	5	3 1
書く態度				
14	意欲と取り組み方	積極的に取り組める	5	3 1
15	書く前の準備	絵を描く、または内容を考えてから書き始める	5	3 1
総合評価				
備考(母語の状況)			総合得点 点	
			平均点 ／15 点	

(注)カタカナ表記の必要な語が出てこない場合は、11は該当しないので、採点せず、平均点を出す際の分母もへらして計算してください。送り仮名不要の場合も同様。

名前： (男・女) 学年(所属)： 年 月 日

字数： 時間： 分

・子どもの作文を見て、あてはまる評価点(5・3・1)に○をつける。

中間を選択し、2点、4点をつけてよい。

■評価基準 ■ 5：とてもよい 3：ふつう 1：もう少し

内容				
1	作文の長さ	内容に見合った量が書ける	5	3 1
2	内容の豊かさ	手順をわかりやすく書ける	5	3 1
3	表現の工夫	順序や様子を表す表現が使える	5	3 1
構成				
4	全体のまとめ	構成を考えて書ける	5	3 1
5	段落	段落が作れる	5	3 1
6	文と文のつながり	つながりが良い	5	3 1
文の質・正確度				
7	文の複雑さ	「～て」、「～から」などを使って複文も書ける	5	3 1
8	文の正確度	文法的に正しい文が書ける	5	3 1
9	文末の統一	常体とです・ます体を混ぜずに書ける	5	3 1
語彙・漢字力				
10	語彙の多様性	語彙が豊か	5	3 1
11	語彙の適切性	テーマに見合った適切な語彙を使って書ける	5	3 1
12	漢字語彙の使用	漢字語彙を使って書ける	5	3 1
書字力・表記ルール				
13	ひらがな	正しく書ける	5	3 1
14	カタカナ語	カタカナ語が正しく書ける	5	3 1
15	表記ルール	表記ルールを守って書ける	5	3 1
16	送り仮名	送り仮名が正しく書ける	5	3 1
書く態度				
17	意欲と取り組み方	積極的に自力で取り組める	5	3 1
18	書く前の準備	よく考えてから書き始める	5	3 1
19	書いた後	読み返して間違いに気付く	5	3 1
総合評価				
備考(母語の状況)			総合得点 点	
			平均点 / 19 ⇒ 点	

診断シート W 5 「学校」

名前： _____ (男・女) 学年(所属)： _____ 年 月 日

・子どもの作文を見て、あてはまる評価点(5・3・1)に○をつける。

中間を選択し、2点、4点をつけてよい。

■評価基準 ■ 5：とてもよい 3：ふつう 1：もう少し

内容					
1	作文の長さ	課題に添った字数で書ける	5	3	1
2	内容の豊かさ	興味深い内容が書ける	5	3	1
3	表現の工夫	効果的な表現が使える	5	3	1
構成					
4	全体のまとめ	構成を考えて書ける	5	3	1
5	段落	段落が作れる	5	3	1
6	文と文のつながり	適切な接続詞が使える	5	3	1
文の質・正確度					
7	文の複雑さ	「～て」、「～から」などを使って複文も書ける	5	3	1
8	文の正確度	文法的に正しい文が書ける	5	3	1
9	文末の統一	です・ます体で統一して書ける	5	3	1
語彙・漢字力					
10	語彙の多様性	語彙が豊か	5	3	1
11	語彙の適切性	テーマに見合った適切な語彙を使って書ける	5	3	1
12	漢字語彙の使用	漢字語彙を使って書ける	5	3	1
書字力・表記ルール					
13	ひらがな	正しく書ける	5	3	1
14	カタカナ語	カタカナ語が正しく書ける	5	3	1
15	表記ルール	表記ルールを守って書ける	5	3	1
16	送り仮名	送り仮名が正しく書ける	5	3	1
書く態度					
17	意欲と取り組み方	積極的に自力で取り組める	5	3	1
18	書く前の準備	メモを作って内容や構成を考える	5	3	1
19	書いた後	読み返して間違いに気付く	5	3	1
総合評価					
備考(母語の状況)				総合得点	
				点	
				平均点	
				／19⇒	
				点	

名前： (男・女) 学年(所属)： 年 月 日

・子どもの作文を見て、あてはまる評価点(5・3・1)に○をつける。

中間を選択し、2点、4点をつけてよい。

■評価基準 ■ 5：とてもよい 3：ふつう 1：もう少し

内容			
1	作文の長さ	課題に添った字数で書ける	5 3 1
2	内容の豊かさ	興味深い内容が書ける	5 3 1
3	表現の工夫	効果的な表現が使える	5 3 1
構成			
4	全体のまとめ	構成を考えて書ける	5 3 1
5	段落	段落が作れる	5 3 1
6	文と文のつながり	適切な接続詞が使える	5 3 1
文の質・正確度			
7	文の複雑さ	「～て」、「～から」などを使って複文も書ける	5 3 1
8	文の正確度	文法的に正しい文が書ける	5 3 1
9	文末の統一	です・ます体で統一して書ける	5 3 1
語彙・漢字力			
10	語彙の多様性	語彙が豊か	5 3 1
11	語彙の適切性	テーマに見合った適切な語彙を使って書ける	5 3 1
12	漢字語彙の使用	漢字語彙を使って書ける	5 3 1
書字力・表記ルール			
13	ひらがな	正しく書ける	5 3 1
14	カタカナ語	カタカナ語が正しく書ける	5 3 1
15	表記ルール	表記ルールを守って書ける	5 3 1
16	送り仮名	送り仮名が正しく書ける	5 3 1
書く態度			
17	意欲と取り組み方	積極的に自力で取り組める	5 3 1
18	書く前の準備	メモを作って内容や構成を考える	5 3 1
19	書いた後	読み返して修正しようとする	5 3 1
総合評価			
備考 (母語の状況)		総合得点	
		点	
		平均点	
/ 19 ⇒		点	

診断シート W7 「メールと手紙」

名前： (男・女) 学年(所属)： 年 月 日

・子どもの作文を見て、あてはまる評価点(5・3・1)に○をつける。

中間を選択し、2点、4点をつけてよい。

■評価基準 ■ 5：とてもよい 3：ふつう 1：もう少し

内容				
1	作文の長さ	課題に添った字数で書ける	5	3 1
2	内容の豊かさ	意見と根拠がしっかり書ける	5	3 1
3	表現の工夫	効果的な表現が使える	5	3 1
構成				
4	全体のまとめ	構成を考えて書ける	5	3 1
5	段落	段落が作れる	5	3 1
6	文と文のつながり	適切な接続詞が使える	5	3 1
文の質・正確度				
7	文の複雑さ	「～て」、「～から」などを使って複文も書ける	5	3 1
8	文の正確度	文法的に正しい文が書ける	5	3 1
9	文末の統一	「だ・である体」で統一して書けるまたは「です・ます体」で統一して書ける	5	3 1
語彙・漢字力				
10	語彙の多様性	語彙が豊か	5	3 1
11	語彙の適切性	テーマに見合った適切な語彙を使って書ける	5	3 1
12	漢字語彙の使用	漢字語彙を使って書ける	5	3 1
書字力・表記ルール				
13	ひらがな	正しく書ける	5	3 1
14	カタカナ語	カタカナ語が正しく書ける	5	3 1
15	表記ルール	表記ルールを守って書ける	5	3 1
16	送り仮名	送り仮名が正しく書ける	5	3 1
書く態度				
17	意欲と取り組み方	積極的に自力で取り組める	5	3 1
18	書く前の準備	メモを作って内容や構成を考える	5	3 1
19	書いた後	読み返して修正しようとする	5	3 1
総合評価				
備考(母語の状況)			総合得点 点	
			平均点 /19⇒ 点	

名前： (男・女) 学年(所属)： 年 月 日

・子どもの作文を見て、あてはまる評価点(5・3・1)に○をつける。

中間を選択し、2点、4点をつけてよい。

■評価基準■ 5：とてもよい 3：ふつう 1：もう少し

内容			
1	作文の長さ	課題に添った字数で書ける	5 3 1
2	内容の豊かさ	説得力のある意見と根拠が書ける	5 3 1
3	表現の工夫	効果的な表現が使える	5 3 1
構成			
4	全体のまとめ	構成を考えて書ける	5 3 1
5	段落	段落が作れる	5 3 1
6	文と文のつながり	適切な接続詞が使える	5 3 1
文の質・正確度			
7	文の複雑さ	「～て」、「～から」などを使って複文も書ける	5 3 1
8	文の正確度	文法的に正しい文が書ける	5 3 1
9	文末の統一	「だ・である体」で統一して書けるまたは「です・ます体」で統一して書ける	5 3 1
語彙・漢字力			
10	語彙の多様性	語彙が豊か	5 3 1
11	語彙の適切性	テーマに見合った適切な語彙を使って書ける	5 3 1
12	漢字語彙の使用	漢字語彙を使って書ける	5 3 1
書字力・表記ルール			
13	ひらがな	正しく書ける	5 3 1
14	カタカナ語	カタカナ語が正しく書ける	5 3 1
15	表記ルール	表記ルールを守って書ける	5 3 1
16	送り仮名	送り仮名が正しく書ける	5 3 1
書く態度			
17	意欲と取り組み方	積極的に自力で取り組める	5 3 1
18	書く前の準備	メモを作って内容や構成を考える	5 3 1
19	書いた後	読み返して修正しようとする	5 3 1
総合評価			
備考(母語の状況)		総合得点	
		点	
		平均点	
		／19⇒	点

ステージ	内容	構成	文の質・正確度	語彙・漢字力	書字力・表記ルール	書く態度
6	□内容に見合った長さの作文が書ける □内容が豊か □年齢相応の表現技術が使える	□まとまりのある作文が書ける □効果的な段落が作れる	□複雑な文が書ける □正しい文が書ける □文末の統一ができる	□テーマに見合った適切な語彙を使って書ける □年齢相応のさまざまな語彙や漢字が使える	□表記上、正確度の高い文章が書ける	□書くことに意欲的に取り組む □書く前に準備をする □書いた後読み返して修正しようとする
5	□内容がある程度豊か □表現上の工夫がある	□ある程度まとまりのある作文が書ける □段落が作れる	□複雑な文もある程度書ける □大体正確な文が書ける □ある程度文末の統一がとれる	□テーマに見合った語彙がある程度使える □年齢相応の語彙や漢字が使える	□表記上、誤用が少ない文章が書ける	□課題作文に積極的に取り組む □書く前の準備をある程度する □書いた後読み返しをする
4	□テーマに添つた作文が書ける	□文と文をつなげて、流れのある作文が書ける	□誤用はあるが意味の通じる文が書ける	□日常語彙を使って作文が書ける □少し下の年齢枠の語彙や漢字が使える	□表記上の誤用はあるが、意味は通じる文が書ける	□課題作文に自分で取り組む
3	□テーマと関連がある文がいくつか書ける	□テーマと関連がある複数の文が書ける	□誤用が多いが、連文が書ける	□日常語彙をある程度使って文が書ける □少し下の年齢枠の語彙や漢字がある程度使える	□文字・表記上の誤用が多い	□支援を得て課題作文に取り組む
2	□使い慣れた表現を使つて書こうとする	□文を書こうとする	□ひらがなとカタカナを使つて文を書こうとする	□既習語彙や漢字を使つて文を書こうとする	□表記ルールをある程度理解して文を書こうとする	□支援者といつしょに考え、支援を受けるながら書くことに取り組もうとする
1	□テーマに関連する単語が書ける	□いくつかの関連する単語を並べることができる	□ひらがなが書ける	□よく知っている単語が書ける	□表記ルールについての理解が始める	□作文を書く指導を受け始める

DLA〈聴く〉概要

(1) 目的

- ・**DLA**〈聴く〉で測る「聴く力」とは、教科学習に必要な聴く力、つまり学習の場での教師の説明等まとめた内容の話を聴いて理解でき、聴いた内容を整理し活用できる言語能力と考えます。日々の学習の場面では聴くことが多くの時間を占めていることからも、聴く力は教科学習に不可欠な言語能力と言えます。
- ・**DLA**〈聴く〉では、対話を通して児童生徒の聴く力の現状を把握し、そこから、児童生徒の授業参加への可能性を探ることを目指しています。

(2) 対象

- ・**DLA**〈聴く〉は、会話力があるが、授業内容の理解が難しい児童生徒を対象とします。次のような場合に有効です。
 - 1) 入学・転入時に、まとめた内容の話をどの程度聴けるか確かめたい場合。
 - 2) 取り出し指導をしているが、まとめた内容の話をどの程度聴けるか確かめたい場合。
 - 3) クラスに在籍しているが、授業を聴いてどの程度理解しているか判断しかねる場合。
- ・**DLA**〈聴く〉の測定は、JSL評価参照枠のステージ3から始まります。そのため、〈はじめの一歩〉でほとんど受け答えが成立しなかった子どもには実施できません。

(3) 方法

- ・児童生徒は、ふだん教室の中で音声言語だけでなく教師の表情や声の調子、教師とのやり取り、図表・絵・写真、教師の板書等のさまざまなヒントを得て、また児童生徒自身の体験、既存知識等を活性化させることにより内容を聴き取り理解しています。そこで、**DLA**〈聴く〉では、教室活動や教科のテーマに関わるまとめた内容の話を**DLA**〈聴く〉映像（以下、聴解用DVD）を作成しました（別添資料）。
- ・まず概要を読んで、児童生徒の年齢枠やその他の状況を踏まえて、使用可能なテーマの聴解用DVDを選びます。その際、p107の内容の説明や巻末資料のスクリプト（p168-171）を参照してください。それから視覚補助教材（巻末資料p172-177）を選びます。
- ・次に、**DLA**〈聴く〉実践ガイド（p111-126）にそって聴解用DVDを聴かせ、評価者と一对一での対話を通して、話の大筋をどの程度理解しているか測ります。
- ・児童生徒はまだ未熟な会話力を使って話すので、測定に当たっては、評価者は児童生徒の表現する内容を推測する必要があります。

(4) 構成

- ・**DLA**〈聴く〉は、次の4つからなっています。
 - ① 「**DLA**〈聴く〉 聽解用DVD」
8本の映像を収録した聴解用DVDがあります。児童生徒の年齢、滞日年数、日本語のレベル等を考慮し選びます。
 - ② 「**DLA**〈聴く〉 実践ガイド」（p111-126）
聴解用DVDに対応した**DLA**〈聴く〉の実践の手引きです。評価者は、ここに書かれている手順、声かけ、発問例に従って進めます。
 - ③ 「**DLA**〈聴く〉 診断シート」（p127-134）
DLA〈聴く〉を実施したあと、採点・評価に使用します。
 - ④ 「JSL評価参照枠〈聴く〉」（p135）
採点・評価で診断シートに記入した結果を、JSL評価参照枠「聴く」に照らし合わせて、ステージを決定します。

（5）実施の前に

用意するもの

- ・ **DLA** 〈聴く〉の実施には以下のものを用意します。

・ 選択した聴解用DVD	・ 聽解用DVD のための視覚補助教材
・ 映像を映し出すコンピュータ	・ 録音機器
・ 聽解用DVDに対応したDLA 〈聴く〉実践ガイド（p111-126）	
・ メモ用紙と筆記具（高学年以上）	

使用する聴解用DVDの選択方法

- ・ **DLA** 〈聴く〉では、以下の計8本の映像を収録した聴解用DVDを別添資料として用意しました。下の【聴解用DVDの対象年齢】の表を参考にし、児童生徒の年齢、滞日期間、入国年齢、日本語レベル等を考慮して選びます。

【聴解用DVDの対象年齢】

映像の種類	映像の番号	内容	対象の年齢枠				
			6・7歳 (1年生)	7・8歳 (2年生)	8・10歳 (中学年)	10・12歳 (高学年)	12・15歳+ (中学生)
A	1	「えんそく」	◎	○	○		
	2	「うんどうかい」		◎	◎	○	○
	3	「工場見学」				◎	◎
B	4	「えんそくの おしらせ」	◎	○	○		
	5	「トマトの さいばい」		◎	○	○	○
	6	「ごみの ゆくえ」			◎	○	○
	7	「エネルギー」				◎	○
	8	「地震」					◎

- ・表中の◎印は年齢に基づいたテーマ選択の目安ですが、子どもに応じて○印のテーマを選んでもかまいません。
- ・聴解用DVDは、JSL児童生徒に対する授業のモデルとして作成されたものではありません。JSL児童生徒を意識した授業の一端を示した授業例とお考えください。

【聴解用DVDの内容】

- ・聴解用DVDは、A、Bの2種類あります。

A 初歩レベルのまとめのある話を聴く力を測るための聴解用DVD（上記表の映像の番号1～3）

- ・聴解用DVDの1～3は、取り出し教室での行事の連絡の場面を映しています（各1分）。
- ・年齢枠によりトピックが変わります。

B 教科の授業を聴く力を測るための聴解用DVD（上記表の映像の番号4～8）

- ・聴解用DVD4は、朝の会、帰りの会等、教室活動の一部を、聴解用DVDの5～8は、教科のテーマに関連した授業の一部を映しています（各3～5分）。
- ・聴解用DVDの5～8は、次のような教科の中のテーマに基づいてリライトしたものです。

5 「トマトの さいばい」（小2「せいかつ」） 6 「ごみの ゆくえ」（小4「社会」）

7 「エネルギー」（小6「国語」） 8 「地震」（中2「科学」）

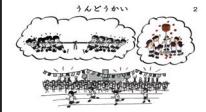
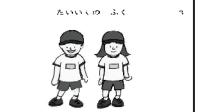
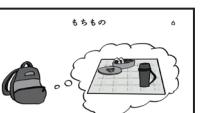
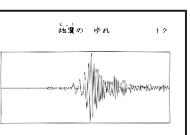
- ・児童生徒の聴く力をより適正に測るために、基本的には、A、Bの2種類のDVDを聴かせることをお勧めします。しかし、ふだんの観察から判断してBから始めてもかまいません。
- ・Bの聴解用DVDを使用する場合は、まず、年齢より一段、または二段下のDVDを聴かせた方がよいでしょう。それらが理解できるようであれば、段階を上げて聴かせてみましょう。
- ・聴解用DVDのスクリプトは巻末を参照してください。

テーマ	内容
1「えんそく」	小学校低学年の児童向け。教師が遠足について、いつ行くか、どこへ行くか、どのように行くか、絵を見せながら話しています。
2「うんどうかい」	小学校低・中学年の児童向け。教師が運動会について、運動会の日、参加する種目、服装、当日の給食のことを絵を見せながら話しています。
3「工場見学」	小学校高学年以上の児童生徒向け。教師が工場の見学について、いつ行くか、何の工場へ見学に行くか、何を持っていくか絵を見せながら説明しています。
4「えんそくの おしらせ」	小学校の低学年児童向け。学校での朝の会、帰りの会での遠足の連絡がテーマとなっています。教師が児童に5月10日に予定されている遠足について、行く日、行き先、持ち物を説明しています。
5「トマトの さいばい」	小学校低・中学年の児童向け。まず、今日の授業でやること（外に出てトマトの栽培をする）について、教師が手順を説明しています。また、トマトがこれからどう育っていくのか、育てるときの注意事項についても説明しています。
6「ごみの ゆくえ」	小学校中学年・高学年の児童向け。「ごみのゆくえ」の授業の導入の部分を扱っています。教師は、清掃車の人の服装の特徴から話を始め、次に、1週間かけて調べてきたそれぞれの家庭のごみ調べの結果を子どもたちに言わせ、要点を黒板にまとめています。これから、ごみがごみ処理センターでどう処理されるのか見ていくというところで授業は終わっています。
7「エネルギー」	小学校高学年以上の児童生徒向け。教師は、過去、現在の日本のエネルギーを示す2枚のグラフを示して比べながら、エネルギー源が変わってきてることを説明しています。さらに、2011年3月の東北大震災により日本のエネルギー状況がまた変わるかもしれないと述べています。最後に、アイスランドのエネルギーのグラフを示し、将来の日本のエネルギー源がどうなるか児童生徒に考えさせています。
8「地震」	中学生向け。地震についての授業の導入部分を取り上げています。教師は、昨日の地震から話を始めています。震度とマグニチュードの違い、震度表に示された地震の揺れの程度、また、地震計により測定された地震のデータから地震のゆれの特徴について、板書、図表、データを示しながら、生徒とやり取りをしながら説明しています。

視覚補助教材

- ・聴解用DVDの内容の理解を助けるために、視覚補助教材が用意されています。
- ・聴解用DVDを視聴する前に、必要に応じて、視覚補助教材を使ってそれぞれのテーマのキーワードを確認します。
- ・視覚補助教材は、子どもの状況に応じて必要なものだけをご使用ください。全部使うと、時間がかかりすぎるおそれがあります。
- ・次に、視覚補助教材とキーワードの例を示します。ご使用の際の参考としてください。
- ・なお、キーワードの例の中には、「体育の服」「ごみ処理センター」等、各地で呼び方の異なるものが含まれています。それぞれのところで使われている名称を使ってください。

【視覚補助教材】

テーマ	視覚補助教材と教材番号	キーワード例
1 「えんそく」	(1) 	遠足（に行く）、あした、さくら山、バス（で行く）…
2 「うんどうかい」	(2)  (3) 	運動会、走る、体育の服（体操服）、給食…
3 「工場見学」	(4) 	自動車工場、工場見学（に行く）、来週、お弁当、ノート…
4 「えんそくの おしらせ」	(5)  (6) 	遠足、（大山）公園、山に登る、水筒、お弁当…
5 「トマトの さいばい」	(7) 	トマトのさいばい、土（を入れる）、植木鉢、トマトの苗、つる（がのびる）、棒（を立て）る…
6 「ごみの ゆくえ」	(8) 	ごみ収集車、燃やすごみ、生ごみ、ペットボトル、ごみ処理センター…
7 「エネルギー」	(9)  (10) 	エネルギー、エネルギー源、石油、原子力、アイスランド、太陽…
8 「地震」	(11)  (12) 	地震、震度、マグニチュード、地震の揺れ、地震計、地震の特徴…

(6) 実施手順

- ・実践ガイドにしたがって、「聴くまえに」「聴きましょう」「聴いたあとで」の順に進めます。

① 聴くまえに

- ・聴解用DVDを視聴する前に、必要に応じて視覚補助教材を示して、話のテーマ、キーワードの理解を深めます。
- ・また、テーマについて質問し、児童生徒の関心を引き出します。

② 聴きましょう

- ・映像は原則として1回見せます。周辺がうるさかったり、メモ取りに集中しそぎたり等、何らかの事情で途中、問題が生じた場合は、初めから聴かせてください。
- ・聴解用DVD視聴中にわからない言葉があったら、聴き終った後で質問するように指示します。
- ・聴解用DVDを視聴している間、評価者は児童生徒がどのように聴いているか観察してください。

③ 聴いたあとで

【話の大筋再生】

- ・児童生徒が、聴解用DVDの話を聴いてどのぐらい話の内容が理解できたか、話の大筋を児童生徒に言わせます。「DLA〈聴く〉実践ガイド」(p111-126)にある「大筋再生チェックリスト」を参考に、どのぐらい再生できたかチェックします。リストにあるもので、触れなかったものは、質問して答えを引き出します。
- ・文で答えられなくても、「大筋再生チェックリスト」にある下線の語が再生できれば、内容が理解できていると考えます。
- ・暗記チェックではないので、話の大筋が大体言えればよいとします。

【感想・意見】

- ・聴解用DVDの話を聴いて、どう感じ、思ったか児童生徒に言わせます。評価者は、児童生徒の発話を最大限引き出すようにしてください。

【母語の聴く力】

- ・母語力の高い児童生徒には、母国の学校での様子を聴き、母語での聴く力を探ります。

(7) 実施上の留意点

- ・児童生徒の質問に対しては、短い単文でわかりやすく説明します。
- ・児童生徒が答えに詰まる時は、答えを引き出すように努めましょう。
- ・児童生徒が答える時、うろ覚えの言葉を繰り返したら正解を与えてください。
- ・小学校高学年以上の児童生徒で希望する場合、聴いている時にメモを取らせてもいいですが、メモを取ることに集中しそぎないようにしましょう。
- ・児童生徒の日本語レベルに関わらず、最後には、まとめた内容の日本語を「聴いた」ということを高く評価して終わってください。

(8) 評価の方法

- ・DLA〈聴く〉が終了したら、採点・評価にうつります。
- ・DLA〈聴く〉の測定で予想できるのは、ステージ(3~5)までと考えます。
- ・児童生徒の学習参加への可能性は、DLA〈聴く〉の測定結果だけでなく、他のDLAの技能の結果やふだんの学習活動の状況ともあわせて総合的に判断します(p140)。

用意するもの

- ・聴解用DVDに対応した**DLA**（聴く）診断シート（p127～134）
- ・JSL評価参照枠「聴く」

評価手順

- ・**DLA**（聴く）診断シートに示された評価項目について、5点（とてもよい）、3点（ふつう）、1点（もう少し）で採点します。判断に揺れる場合は、2点、4点をつけてもかまいません。
- ・総合得点の平均点を算出します。
- ・それぞれの診断シートに記された評価点を、JSL参照枠「聴く」（p135）に照らし合わせて、また、ふだんの学習活動の様子も踏まえて、総合的にステージ（3～6）を判定します。

評価の項目とJSL評価参照枠との関係

- ・**DLA**（聴く）では、JSL評価参照枠（聴く）に沿って、下の表の「聴解力」、「聴解行動」、「語彙・表現」を評価基準とします。
- ・測定の時、基本的には聴解用DVDのAとBの両方を聴かせますが、Aの聴解に問題なければ、Aについての評価は必要ありません。Bについて評価してください。

	評価項目	測定の内容
聴解力	教師の話の内容の大筋と流れ	教師の話の大筋と流れが大体理解できたか
	感想・意見	聴いた内容について感想や意見が言えたか
聴解行動	集中	集中して最後まで聴けたか
	関心	関心をもって聴けたか
	未習語	未習語があっても推測して聴こうとしたか
語彙・表現	テーマに関わる語彙・表現	テーマに関わる語彙・表現が大体理解できたか
	大事な語彙・表現	教師の話の中の大事な語彙・表現が理解でき、使おうとしたか

聴くまえに....

- ① テーマの紹介と確認：これからすることを児童のやる気が増すように楽しく説明する。

（）これから「えんそく」のビデオを見ます。「遠足」って知っていますか。

- ② キーワードの確認：必要があったら、視覚補助教材(1)を示して、キーワードを確認する。

（）これは「遠足」の絵です。この絵を見てください。

・例えば、次のような応答をする。「これは何ですか。」「これはバスですね。」／「バスでどこへ行きますか。」「さくら山へ行きますよ。さくら山へ遠足に行きます。」…

- ③ 興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。

（）遠足に行ったことがありますか。遠足は好きですか/楽しかったですか。

・話が広がらないように注意する。

聴きましょう....

- ① 聴解用DVDを聴かせる。

（）では、これからビデオを見ましょう。
ビデオの中で、先生が遠足の話をしています。いつ行きますか。どこに行きますか。
先生のお話をよく聴いてくださいね。後で、質問しますよ。

・聴解用DVD視聴中にわからない言葉があったら、後で質問するように指示する。

（）わからない言葉があったら、後で聴いてくださいね。では、始めます。

・DVDが終わったら、声かけをする。

（）ビデオはこれで終わりです。よく聴けましたね。

聴いたあとで....

- ① 話の大筋再生：DVDを聴いて、子どもが話の内容を再生する。

（）さあ、先生はどんなお話をしましたか。話してください。

- ・下の話の大筋再生チェックリストを参考に、どのぐらい理解できているかチェックする。リストの通りでなくともよい。



さあ、先生はどんなお話をしましたか。話してください。

話の大筋再生チェックリスト

- | | |
|-------------------------|----------|
| □ 1. <u>遠足</u> の話をしました。 | [内容] |
| □ 2. <u>明日</u> 、行きます。 | [予定・行く日] |
| □ 3. <u>さくら山</u> へ行きます。 | [行き先] |
| □ 4. <u>バス</u> で行きます。 | [交通手段] |

- ・リストの中の内容で、触れられなかったものは、次のように質問し、子どもの発話を引き出す。

質問例

- | |
|---|
| □ 1. 先生は、何の話をしましたか。 |
| □ 2. いつ遠足に行きますか。 |
| □ 3. どこへ行きますか。 |
| □ 4. 遠足に何で行きますか。電車で行きますか。 |
| □ 5. 先生は、どうして遠足の話をしましたか。 解答例:「明日遠足に行くからです。」 |

② 感想・意見：聞いた内容について感想や意見が言えるか。



このビデオは、面白かったですか。

- ・何が面白かったか、どうして面白かったのか、聴いてみる。面白くなかった場合も同様に聴く。

③ 聴解用DVDの言葉：ビデオの中の言葉が理解できたか。



ビデオの中にわからない言葉がありましたか。どんな言葉がわかりませんでしたか。

④ 母語の状況：母語力の高い児童には次のような質問をして母語での聴く力をさぐる。



- ・○さんは、(国の名前)で学校に行っていましたか。
- ・日本へ来る前、(国の名前)では何年生でしたか。
- ・(国の名前)の学校で、遠足がありましたか。



ビデオの話がよく聴けましたね。では、これで終わります。

聴くまえに....

- ① テーマの紹介と確認：これからすることを児童のやる気が増すように楽しく説明する。

（）これから「うんどうかい」のビデオを見ます。「運動会」って知っていますか。

- ② キーワードの確認：必要があったら、視覚補助教材(2)(3)を示して、キーワードを確認する。

（）これは「運動会」の絵です。この絵を見てください。

・例えば、次のような応答をする。「ここはどこですか。」「学校ですね。」/「この人たちは何をしていますか。」「走っていますね。今日は運動会ですね。」…

- ③ 興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。

（）運動会に出たことがありますか。運動会は好きですか/楽しかったですか。

・話が広がらないように注意する。

聴きましょう....

- ① 聴解用DVDを聴かせる。

（）では、これからビデオを見ましょう。
ビデオの中で、先生が運動会の話をしています。運動会はいつありますか。
運動会で何をしますか。先生のお話をよく聴いてくださいね。後で、質問しますよ。

・聴解用DVD視聴中にわからない言葉があったら、後で質問するように指示する。

（）わからない言葉があったら、後で聴いてくださいね。では、始めます。

・DVDが終わったら、声かけをする。

（）ビデオはこれで終わりです。よく聴けましたね。

聴いたあとで....

- ① 話の大筋再生：DVDを聴いて、子どもが話の内容を再生する。

（）さあ、先生はどんなお話をしましたか。話してください。

聴いたあとで....

- 下の話の大筋再生チェックリストを参考に、どのくらい理解できているかチェックする。リストの通りでなくともよい。

話の大筋再生チェックリスト

- | | |
|--|--------|
| <input type="checkbox"/> 1. <u>運動会</u> の話をしました。 | [内容] |
| <input type="checkbox"/> 2. <u>明日</u> 、運動会があります。 | [予定] |
| <input type="checkbox"/> 3. (80メートル) <u>走ります</u> 。 | [種目] |
| <input type="checkbox"/> 4. <u>体育の服</u> で学校へ来ます。 | [注意事項] |
| <input type="checkbox"/> 5. <u>給食</u> があります。 | [注意事項] |

- リストの中の内容で、触れられなかったものは、次のように質問し、子どもの発話を引き出す。

質問例

- 1. 先生は、何の話をしましたか。
- 2. いつ運動会がありますか。明日何がありますか。
- 3. 運動会で何をしますか。運動会でどのくらい走りますか。
- 4. どんな服を着てきますか。
- 5. 運動会の日は給食がありますか。
- 6. 先生はどうして運動会の話をしましたか。 解答例:明日運動会があるからです。

② 感想・意見：聞いた内容について感想や意見が言えるか。

このビデオは、面白かったですか。

- 何が面白かったか、どうして面白かったのか、聴いてみる。面白くなかった場合も同様に聴く。

③ 聴解用DVDの言葉：ビデオの中の言葉が理解できたか。

ビデオの中にわからない言葉がありましたか。どんな言葉がわかりませんでしたか。

④ 母語の状況：母語力の高い児童には次のような質問をして母語での聴く力をさぐる。

○さんは、(国名)で学校に行っていましたか。
日本へ来る前、(国名)では何年生でしたか。
(国名)の学校で、運動会がありましたか。

ビデオの話がよく聴けましたね。では、これで終わります。

聴くまえに....

- ① テーマの紹介と確認：これからすることを児童のやる気が増すように楽しく説明する。



これから「工場見学」のビデオを見ます。「工場見学」って知っていますか。

- ② キーワードの確認：必要があったら、視覚補助教(4)を示して、キーワードを確認する。



これは「工場見学」の絵です。この絵を見てください。

・例えば、次のような応答をする。「ここはどこですか。」「工場ですね。」/「何の工場ですか。」「自動車工場ですね。」/「自動車工場で何をしますか。」「工場見学をしますね。」…

- ③ 興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。



工場見学に行ったことがありますか。工場見学は楽しかったですか。

・話が広がらないように注意する。

聴きましょう....

- ① 聴解用DVDを聴かせる。



では、これからビデオを見ましょう。

ビデオの中で、先生が工場見学の話をしています。工場見学はいつありますか。何の工場へ行きますか。先生のお話をよく聴いてくださいね。後で、質問しますよ。

・聴解用DVD観聴中にわからない言葉があったら、後で質問するように指示する。



わからない言葉があったら、後で聴いてくださいね。では、始めます。

・DVDが終わったら、声かけをする。



ビデオはこれで終わりです。よく聴けましたね。

聴いたあとで....

- ① 話の大筋再生：DVDを聴いて、子どもが話の内容を再生する。



さあ、先生はどんなお話をしましたか。話してください。

- 下の話の大筋再生チェックリストを参考に、どのくらい理解できているかチェックする。リストの通りでなくともよい。

話の大筋再生チェックリスト

- | | |
|--|-------|
| <input type="checkbox"/> 1. <u>工場見学</u> の話をしました。 | [内容] |
| <input type="checkbox"/> 2. <u>来週</u> 、行きます。 | [行く日] |
| <input type="checkbox"/> 3. <u>自動車の工場</u> に行きます。 | [行き先] |
| <input type="checkbox"/> 4. <u>お弁当、水筒、鉛筆とノート</u> を持っていきます。 | [持ち物] |

- リストの中の内容で、触れられなかったものは、次のように質問し、子どもの発話を引き出す。

質問例

- | |
|---|
| <input type="checkbox"/> 1. 何の話をしましたか。 |
| <input type="checkbox"/> 2. いつ工場見学に行きますか。 来週どこへ行きますか。 |
| <input type="checkbox"/> 3. 何の工場見学に行きますか。 |
| <input type="checkbox"/> 4. 何を持っていきますか。 |
| <input type="checkbox"/> 5. 先生は、どうして工場見学の話をしましたか。 解答例: 来週工場見学に行くからです。 |

- ② 感想・意見：聞いた内容について感想や意見が言えるか。

☺ このビデオは、面白かったですか。

- 何が面白かったか、どうして面白かったのか、聴いてみる。面白くなかった場合も同様に聴く。

- ③ 聴解用DVDの言葉：ビデオの中の言葉が理解できたか。

☺ ビデオの中にわからない言葉がありましたか。どんな言葉がわかりませんでしたか。

- ④ 母語の状況：母語力の高い児童には次のような質問をして母語での聴く力をさぐる。

☺

- さんは、（国名）で学校に行っていましたか。
- 日本へ来る前、（国名）では何年生でしたか。
- （国名）の学校で、工場見学がありましたか。

☺ ビデオの話がよく聴けましたね。では、これで終わります。

聴くまえに....

- ① テーマの紹介と確認：これからすることを児童のやる気が増すように楽しく説明する。



これから「えんそくの おしらせ」のビデオを見ます。「遠足」ってわかりますか。

- ② キーワードの確認：必要があったら、視覚補助教材(5)(6)を示して、キーワードを確認する。



これは「遠足」の絵です。この絵を見てください。

・例えば、次のような応答をする。「これは何ですか。」「これはバスですね。」/「バスでどこへ行きますか。」「大山公園へ行きますよ。」/「今日は遠足です。大山公園で何をしますか。」…

- ③ 興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。



遠足に行ったことがありますか。遠足は好きですか/楽しかったですか。

・話が広がらないように注意する。

聴きましょう....

- ① 聴解用DVDを聴かせる。



では、これからビデオを見ましょう。

ビデオの中で、先生が遠足の話をしています。どこに行きますか。いつ行きますか。先生のお話をよく聴いてくださいね。後で、質問しますよ。

・聴解用DVD視聴中にわからない言葉があったら、後で質問するように指示する。



わからない言葉があったら、後で聴いてくださいね。では、始めます。

・DVDが終わったら、声かけをする。



ビデオはこれで終わりです。よく聴けましたね。

聴いたあとで....

- ① 話の大筋再生：DVDを聴いて、子どもが話の内容を再生する。



さあ、先生はどんなお話をしましたか。話してください。

- 下の話の大筋再生チェックリストを参考に、どのぐらい理解できているかチェックする。リストの通りでなくともよい。

大意再生チェックリスト

- | | |
|---|--------|
| <input type="checkbox"/> 1. <u>遠足</u> の話をしました。 | [内容] |
| <input type="checkbox"/> 2. <u>5月10日(木)</u> に、遠足に行きます。 | [行く日] |
| <input type="checkbox"/> 3. <u>大山公園</u> に行きます。 | [行き先] |
| <input type="checkbox"/> 4. <u>大山</u> に登ります。 | [すること] |
| <input type="checkbox"/> 5. <u>お弁当・水筒・(レジャー)</u> シートを持っていきます。 | [持ち物] |

- リストの中の内容で、触れられなかったものは、次のように質問し、子どもの発話を引き出す。

質問例

- | |
|---|
| <input type="checkbox"/> 1. 何の話をしましたか。 |
| <input type="checkbox"/> 2. 5月10日に何をしますか。 いつ遠足に行きますか。 |
| <input type="checkbox"/> 3. どこへ行きますか。 |
| <input type="checkbox"/> 4. 大山公園で何をしますか。 |
| <input type="checkbox"/> 5. どんなものを持っていきますか。 |
| <input type="checkbox"/> 6. 先生はどうして遠足の話をしましたか。 解答例:5月10日に遠足に行くからです。 |
| <input type="checkbox"/> 7. レジャーシートはいつ使いますか。 解答例:山でお昼ご飯を食べる時、使います。 |

② 感想・意見：聞いた内容について感想や意見が言えるか。



このビデオは、面白かったですか。

- 何が面白かったか、どうして面白かったのか、聴いてみる。面白くなかった場合も同様に聴く。

③ 聴解用DVDの言葉：ビデオの中の言葉が理解できたか。



ビデオの中にわからない言葉がありましたか。どんな言葉がわかりませんでしたか。

④ 母語の状況：母語力の高い児童には次のような質問をして母語での聴く力をさぐる。



- さんは、(国の名前)で学校に行っていましたか。
- 日本へ来る前、(国の名前)では何年生でしたか。
- (国の名前)の学校で、遠足に行ったことがありますか。



ビデオの話がよく聴けましたね。では、これで終わります。

聴くまえに....

- ① テーマの紹介と確認：これからすることを児童のやる気が増すように楽しく説明する。

（）これから「トマトの さいばい」のビデオを見ます。「トマトの栽培」ってわかりますか。

- ② キーワードの確認：必要があったら、視覚補助教材(7)を示して、キーワードを確認する。

（）これは「トマトの さいばい」の絵です。この絵を見てください。

・例えば、次のような応答をする。「これは何ですか。」「植木鉢ですね。」／「植木鉢に何を入れますか。」「土を入れますね。」／「植木鉢で何を育てますか。」「トマトを育てます。栽培します」…

- ③ 興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。

（）トマトを栽培したことがありますか。トマトや花の栽培は好きですか。

・話が広がらないように注意する。

聴きましょう....

- ① 聴解用DVDを聴かせる。

（）では、これからビデオを見ましょう。ビデオの中で、先生がトマトの栽培の話をしています。先生のお話をよく聴いてくださいね。皆はこれからどんなことをやりますか。どのようにトマトを育てますか。後で、質問しますよ。

・聴解用DVD視聴中にわからない言葉があったら、後で質問するように指示する。

（）わからない言葉があったら、後で聴いてくださいね。では、始めます。

・DVDが終わったら、声かけをする。

（）ビデオはこれで終わりです。よく聴けましたね。

聴いたあとで....

- ① 話の大筋再生：DVDを聴いて、子どもが話の内容を再生する。

（）さあ、先生はどんなお話をしましたか。話してください。

- 下の話の大筋再生チェックリストを参考に、どのくらい理解できているかチェックする。リストの通りでなくともよい。

大意再生チェックリスト

- | | |
|----------------------------------|--------|
| □ 1. <u>トマトの苗を植えます。</u> | [作業内容] |
| □ 2. 先生から <u>植木鉢をもらいます。</u> | [手順] |
| □ 3. <u>植木鉢に土を入れます。</u> | [手順] |
| □ 4. <u>苗を植木鉢のまん中に置きます。</u> | [手順] |
| □ 5. 次に <u>土を入れます。</u> | [手順] |
| □ 6. トマトが大きくなったら、 <u>棒を立てます。</u> | [注意事項] |
| □ 7. <u>水をあげます。</u> | [注意事項] |

- リストの中の内容で、触れられなかったものは、次のように質問し、子どもの発話を引き出す。

質問例

- | |
|---|
| □ 1. 何の話をしましたか。 |
| □ 2. 先生から何をもらいますか。 |
| □ 3. どこに土を入れますか。 植木鉢に何を入れますか。 どのくらい入れますか。 |
| □ 4. トマトの苗を植木鉢のどこに置きますか。 |
| □ 5. 次に何をしますか。 |
| □ 6. トマトが大きくなったら何をしますか。 |
| □ 7. 毎日、何をあげますか。 |
| □ 8. どうして棒を立てますか。 解答例:「つるが倒れないようにするためです。」 |

② 感想・意見：聞いた内容について感想や意見が言えるか。

このビデオは、面白かったですか。

- 何が面白かったか、どうして面白かったのか、聴いてみる。面白くなかった場合も同様に聴く。

③ 聴解用DVDの言葉：ビデオの中の言葉が理解できたか。

ビデオの中にわからない言葉がありましたか。どんな言葉がわかりませんでしたか。

④ 母語の状況：母語力の高い児童には次のような質問をして母語での聴く力をさぐる。

○さんは、(国の名前)で学校に行っていましたか。
 日本へ来る前、(国の名前)では何年生でしたか。
 (国の名前)の学校で、トマトの栽培をしたことがありますか。

ビデオの話がよく聴けましたね。では、これで終わります。

聴くまえに....

- ① テーマの紹介と確認：これからすることを児童のやる気が増すように楽しく説明する。



これから「ごみの ゆくえ」のビデオを見ます。「ごみの行方」ってわかりますか。

- ② キーワードの確認：必要があったら、視覚補助教材(8)を示して、キーワードを確認する。



これは「ごみの ゆくえ」の絵です。この絵を見てください。

・例えば、次のような応答をする。「これは皆ごみです。どんなごみですか」「これは生ごみ、古新聞…ですね。」/「生ごみは燃やしますか。」…/「生ごみはどこへ行きますか。生ごみの行方がわかりますか。」「そうですね。ごみ処理センターへ行きますね。」…

- ③ 興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。



ごみについて勉強したことがありますか。面白かったですか。

・話が広がらないように注意する。

聴きましょう....

- ① 聴解用DVDを聴かせる。



では、これからビデオを見ましょう。先生がごみの話をしています。ごみ収集車の人はどんな服を着ていますか。家庭から出るゴミにはどんなゴミがありますか。先生のお話をよく聴いてくださいね。後で、質問しますよ。

・聴解用DVD視聴中にわからない言葉があったら、後で質問するように指示する。



わからない言葉があったら、後で聴いてくださいね。では、始めます。

・DVDが終わったら、声かけをする。



ビデオはこれで終わりです。よく聴けましたね。

聴いたあとで....

- ① 話の大筋再生：DVDを聴いて、子どもが話の内容を再生する。



さあ、先生はどんなお話をしましたか。話してください。

- 下の話の大筋再生チェックリストを参考に、どのぐらい理解できているかチェックする。リストの通りでなくともよい。

話の大筋再生チェックリスト

- | | |
|---|-------|
| □ 1. <u>ごみを集める人はヘルメットをかぶります。</u> | |
| □ 2. 家からで出るごみは、 <u>生ごみ</u> 、紙屑、古新聞、 <u>ペットボトル</u> などです。 | [結果] |
| □ 3. <u>生ごみと紙屑は燃やします。</u> | [処理法] |
| □ 4. 古新聞とペットボトルは燃やしません。 | [処理法] |
| □ 5. <u>ごみはごみ収集車でごみ処理センターに運ばれます。</u> | [処理法] |

- リストの中の内容で、触れられなかつたものは、次のように質問し、子どもの発話を引き出す。

質問例

- | |
|---|
| □ 1. ごみを集める人はどんな服を着ていますか。どうして長袖、長ズボンの服を着ていますか。
どうしてヘルメットをかぶっていますか。 |
| □ 2. うちで出るごみにはどんなごみがありますか。 |
| □ 3. 生ごみは燃やしますか、燃やしませんか。
古新聞とペットボトルは燃やしますか、燃やしませんか。 |
| □ 4. 1週間うちで何を調べましたか。 |
| □ 5. ごみはごみ収集車でどこへ運ばれますか。 |
| □ 6. 今日の授業の初めにどんな車の話をしましたか。 解答例:「ごみ収集車の話をしました。」 |

② 感想・意見：聞いた内容について感想や意見が言えるか。

このビデオは、面白かったですか。どんなところが面白かったですか。

- 何が面白かったか、どうして面白かったのか、聴いてみる。面白くなかった場合も同様に聴く。

このビデオは、面白かったですか。どんなところが面白かったですか。

- 自分の体験と結び付けてどう感じた/思ったか話させる。

③ 聴解用DVDの言葉：ビデオの中の言葉が理解できたか。

ビデオの中にわからない言葉がありましたか。どんな言葉がわかりませんでしたか。

④ 母語の状況：母語力の高い児童には次のような質問をして母語での聴く力をさぐる。

○さんは、(国の名前)で学校に行っていましたか。
日本へ来る前、(国の名前)では何年生でしたか。
(国の名前)の学校で、ごみの勉強をしたことがありますか。

ビデオの話がよく聴けましたね。では、これで終わります。

聴くまえに....

① テーマの紹介と確認：これからすることを児童のやる気が増すように楽しく説明する。



これから「エネルギー」のビデオを見ます。「エネルギー」ってわかりますか。

② キーワードの確認：必要があったら、視覚補助教材(9)(10)を示して、キーワードを確認する。



これは「エネルギー」の絵です。この絵を見てください。

・例えば、次のような応答をする。「テレビはどんなエネルギーで動きますか。」「電気で動きますね。」…「ガソリンはどこで作りますか。ガソリンのエネルギー源は何ですか。」「そうですね。石油ですね。」…

③ 興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。



エネルギーについて勉強したことがありますか。面白かったですか。

・話が広がらないように注意する。

聴きましょう....

① 聽解用DVDを聴かせる。



では、これからビデオを見ましょう。先生がエネルギーの話をしています。昔はどんなエネルギーをたくさん使っていましたか。今はどうですか。先生の話をよく聴いてくださいね。後で、質問しますよ。

・聴解用DVD視聴中にわからない言葉があったら、後で質問するように指示する。



わからない言葉があったら、後で聴いてくださいね。では、始めます。

・DVDが終わったら、声かけをする。



ビデオはこれで終わりです。よく聴けましたね。

聴いたあとで....

① 話の大筋再生：DVDを聴いて、子どもが話の内容を再生する。



さあ、先生はどんなお話をしましたか。話してください。

- 下の話の大筋再生チェックリストを参考に、どのぐらい理解できているかチェックする。リストの通りでなくともよい。

話の大筋再生チェックリスト

- | | |
|---|-------------|
| □ 1. 今から35年以前(1975年)は、日本では、 <u>石油</u> が一番多く使われていた。 | [過去のエネルギー源] |
| □ 2. 今から5,6年前(2006年)に、 <u>原子力</u> が一番多く使われるようになった(30.5%)。 | [現在のエネルギー源] |
| □ 3. 東日本大震災で、 <u>原子力発電所の事故</u> があった。それで、 <u>原子力は使えなくなってしまうかもしかなくなつた</u> 。 | [転機] |
| □ 4. アイスランドでは、(2006年に) <u>地熱・太陽・風力</u> が多く使われている(60.7%)。 | [外国の状況] |

- リストの中の内容で、触れられなかつたものは、次のように質問し、子どもの発話を引き出す。

質問例

- | |
|---|
| □ 1. 35年以前は、何が一番多く使われていましたか。 いつ石油が一番多く使われていましたか。 |
| □ 2. 今から5,6年前は、何が一番多く使われていましたか。 |
| □ 3. どうして原子力は使えなくなってしまうかもしかねないですか。 |
| □ 4. アイスランドではどんなエネルギー源が多く使われていますか。 |
| □ 5. どうして日本のエネルギーは石油から原子力に変わってきましたか。
解答例:オイルショックの後、石油が日本に来なくなつたら大変なことになるということになったからです。 |
| □ 6. 先生はみんなにどんなことを考えるように言いましたか。
解答例:日本の将来のエネルギーがどうなるかについて考えるよう言いました。 |

② 感想・意見：聞いた内容について感想や意見が言えるか。



このビデオは、面白かったですか。どんなところが面白かったですか。

- 何が面白かったか、どうして面白かったのか、聴いてみる。面白くなかった場合も同様に聴く。



ビデオを見て、日本の将来のエネルギー源はどうなると思いますか。意見を言ってください。

- 自分の体験と結び付けてどう感じた/思ったか話させる。

③ 聴解用DVDの言葉：ビデオの中の言葉が理解できたか。



ビデオの中にわからない言葉がありましたか。どんな言葉がわかりませんでしたか。

④ 母語の状況：母語力の高い児童には次のような質問をして母語での聴く力をさぐる。



- さんは、(国の名前)で学校に行っていましたか。
- 日本へ来る前、(国の名前)では何年生でしたか。
- (国の名前)の学校で、エネルギーの勉強をしたことがありますか。



ビデオの話がよく聴けましたね。では、これで終わります。

聴くまえに....

- ① テーマの紹介と確認：これからすることを児童のやる気が増すように楽しく説明する。



これから「地震」のビデオを見ます。「地震」ってわかりますか。

- ② キーワードの確認：必要があったら、視覚補助教材(11)(12)を示して、キーワードを確認する。



これは「地震」の絵です。この絵を見てください。

- ・例えば、次のような応答をする。「これは震度表です。これはどんな地震ですか。」「強い地震ですね。震度4の地震です。」…/「震度4の時、何が揺れますか。」「本棚が揺れますね。」…

- ③ 興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。



地震について勉強したことがありますか。/大きい地震にあったことがありますか。

- ・話が広がらないように注意する。

聴きましょう....

- ① 聴解用DVDを聴かせる。



では、これからビデオを見ましょう。
先生が、地震の揺れの程度や特徴について説明しています。
先生の話をよく聴いてください。後で、質問しますよ。

- ・聴解用DVD視聴中にわからない言葉があったら、後で質問するように指示する。



わからない言葉があったら、後で聴いてくださいね。では、始めます。

- ・DVDが終わったら、声かけをする。



ビデオはこれで終わりです。よく聴けましたね。

聴いたあとで....

- ① 話の大筋再生：DVDを聴いて、子どもが話の内容を再生する。



さあ、先生はどんなお話をしましたか。話してください。

- 下の話の大筋再生チェックリストを参考に、どのぐらい理解できているかチェックする。
リストの通りでなくともよい。

話の大筋再生チェックリスト

<input type="checkbox"/> 1. 地震の話をした。	[テーマ]
<input type="checkbox"/> 2. 地震の強さを表すのに震度とマグニチュードという二つの言葉が使われている。	[用語]
<input type="checkbox"/> 3. 震度は、地震の揺れの大きさを表している。	[震度の定義]
<input type="checkbox"/> 4. 震度は10に分かれている。	[震度表]
<input type="checkbox"/> 5. 地震は、最初は弱く後から強い揺れがくるという特徴がある。	[特徴]

- リストの中の内容で、触れられなかったものは、次のように質問し、子どもの発話を引き出す。

質問例

- 1. 先生はどんな話をしましたか。
- 2. 地震の強さを言う時、どんな言葉を使いますか。震度とマグニチュードは同じですか。
- 3. 震度は何ですか。
- 4. 震度表はいくつに分かれていますか。震度1はどんな地震ですか。
- 5. 地震のゆれの特徴は何ですか。

② 感想・意見：聞いた内容について感想や意見が言えるか。

（） ← このビデオは、面白かったですか。どんなところが面白かったですか。

・何が面白かったか、どうして面白かったのか、聴いてみる。面白くなかった場合も同様に聴く。

（） ← このビデオの授業の話は、役に立つと思いますか。どうしてそう思いますか。

・自分の体験と結び付けてどう感じた/思ったか話させる。

③ 聴解用DVDの言葉：ビデオの中の言葉が理解できたか。

（） ← ビデオの中にわからない言葉がありましたか。どんな言葉がわかりませんでしたか。

④ 母語の状況：母語力の高い児童には次のような質問をして母語での聴く力をさぐる。

（） ←

- さんは、（国の名前）で学校に行っていましたか。
- 日本へ来る前、（国の名前）では何年生でしたか。
- （国の名前）の学校で、地震の勉強をしたことがありますか。

（） ← ビデオの話がよく聴けましたね。では、これで終わります。

名前： (男・女) 学年(所属)： 年 月 日

・次の項目を評価し、得点(5・3・1点)に○をつける。判断に揺れる場合は中間を選択し、4点、2点をつけてよい。

■評価基準 ■ 5:とてもよくできる 3:ふつう 1:もう少し

聴解力			
1	教師の話の内容と大筋	教師の話の内容と大筋が大体理解できる	5 3 1
2	感想	感想や意見が言える	5 3 1
聴解行動			
3	集中	集中して最後まで聴ける	5 3 1
4	関心	関心を持って聴ける	5 3 1
5	未習語	未習語があっても推測して聴こうとする	5 3 1
語彙・表現			
6	テーマにかかわる語彙・表現が大体理解できる	5 3 1	
7	話の中の大事な語彙が大体理解でき、使おうとする	5 3 1	
総合評価			
備考（母語の状況）		総合得点	
		総合点⇒ /7=平均点⇒	

診断シート【A】聴解用 DVD2 『うんどうかい』

名前： (男・女) 学年(所属)： 年 月 日

・次の項目を評価し、得点(5・3・1点)に○をつける。判断に揺れる場合は中間を選択し、4点、2点をつけてよい。

■評価基準■ 5:とてもよくできる 3:ふつう 1:もう少し

聴解力			
1	教師の話の内容と大筋	教師の話の内容と大筋が大体理解できる	5 3 1
2	感想	感想や意見が言える	5 3 1
聴解行動			
3	集中	集中して最後まで聴ける	5 3 1
4	関心	関心を持って聴ける	5 3 1
5	未習語	未習語があっても推測して聴こうとする	5 3 1
語彙・表現			
6	テーマにかかわる語彙・表現が大体理解できる		5 3 1
7	話の中の大事な語彙が大体理解でき、使おうとする		5 3 1
総合評価			
備考 (母語の状況)		総合得点	
		総合点⇒ /7=平均点⇒	

名前： (男・女) 学年(所属)： 年 月 日

・次の項目を評価し、得点(5・3・1点)に○をつける。判断に揺れる場合は中間を選択し、4点、2点をつけてよい。

■評価基準■ 5:とてもよくできる 3:ふつう 1:もう少し

聴解力			
1	教師の話の内容と大筋	教師の話の内容と大筋が大体理解できる	5 3 1
2	感想	感想や意見が言える	5 3 1
聴解行動			
3	集中	集中して最後まで聴ける	5 3 1
4	関心	関心を持って聴ける	5 3 1
5	未習語	未習語があっても推測して聴こうとする	5 3 1
語彙・表現			
6	テーマにかかわる語彙・表現が大体理解できる	5 3 1	
7	話の中の大事な語彙が大体理解でき、使おうとする	5 3 1	
総合評価			
備考（母語の状況）		総合得点	
		総合点⇒ /7=平均点⇒	

診断シート【B】聴解用 DVD4 『えんそくの おしらせ』

名前 : _____ (男・女) 学年(所属) : _____ 年 月 日

・次の項目を評価し、得点(5・3・1点)に○をつける。判断に揺れる場合は中間を選択し、4点、2点をつけてよい。

■評価基準 ■ 5:とてもよくできる 3:ふつう 1:もう少し

聴解力			
1	教師の話の内容と大筋	教師の話の内容と大筋が大体理解できる	5 3 1
2	感想	感想や意見が言える	5 3 1
聴解行動			
3	集中	集中して最後まで聴ける	5 3 1
4	関心	関心を持って聴ける	5 3 1
5	未習語	未習語があっても推測して聴こうとする	5 3 1
語彙・表現			
6	テーマにかかわる語彙・表現が大体理解できる	5 3 1	
7	話の中の大事な語彙が大体理解でき、使おうとする	5 3 1	
総合評価			
備考(母語の状況)		総合得点	
		総合点⇒ /7=平均点⇒	

名前： (男・女) 学年(所属)： 年 月 日

・次の項目を評価し、得点(5・3・1点)に○をつける。判断に揺れる場合は中間を選択し、4点、2点をつけてよい。

■評価基準■ 5:とてもよくできる 3:ふつう 1:もう少し

聴解力			
1	教師の話の内容と大筋	教師の話の内容と大筋が大体理解できる	5 3 1
2	感想	感想や意見が言える	5 3 1
聴解行動			
3	集中	集中して最後まで聴ける	5 3 1
4	関心	関心を持って聴ける	5 3 1
5	未習語	未習語があっても推測して聴こうとする	5 3 1
語彙・表現			
6	テーマにかかわる語彙・表現が大体理解できる	5 3 1	
7	話の中の大事な語彙が大体理解でき、使おうとする	5 3 1	
総合評価			
備考（母語の状況）		総合得点	
		総合点⇒ /7=平均点⇒	

診断シート【B】聴解用 DVD6 『ごみの ゆくえ』

名前：_____ (男・女) 学年(所属)：_____ 年 月 日

・次の項目を評価し、得点(5・3・1点)に○をつける。判断に揺れる場合は中間を選択し、4点、2点をつけてよい。

■評価基準■ 5:とてもよくできる 3:ふつう 1:もう少し

聴解力			
1	教師の話の内容と大筋	教師の話の内容と大筋が大体理解できる	5 3 1
2	感想	感想や意見が言える	5 3 1
聴解行動			
3	集中	集中して最後まで聴ける	5 3 1
4	関心	関心を持って聴ける	5 3 1
5	未習語	未習語があっても推測して聴こうとする	5 3 1
語彙・表現			
6	テーマにかかわる語彙・表現が大体理解できる		5 3 1
7	話の中の大事な語彙が大体理解でき、使おうとする		5 3 1
総合評価			
備考(母語の状況)		総合得点	
		総合点⇒ /7=平均点⇒	

名前：_____ (男・女) 学年(所属)：_____ 年 月 日

・次の項目を評価し、得点(5・3・1点)に○をつける。判断に揺れる場合は中間を選択し、4点、2点をつけてよい。

■評価基準 ■ 5:とてもよくできる 3:ふつう 1:もう少し

聴解力			
1	教師の話の内容と大筋	教師の話の内容と大筋が大体理解できる	5 3 1
2	感想	感想や意見が言える	5 3 1
聴解行動			
3	集中	集中して最後まで聴ける	5 3 1
4	関心	関心を持って聴ける	5 3 1
5	未習語	未習語があっても推測して聴こうとする	5 3 1
語彙・表現			
6	テーマにかかわる語彙・表現が大体理解できる	5 3 1	
7	話の中の大事な語彙が大体理解でき、使おうとする	5 3 1	
総合評価			
備考（母語の状況）		総合得点	
		総合点⇒ /7=平均点⇒	

診断シート【B】聴解用 DVD8『地震』

名前： (男・女) 学年(所属)： 年 月 日

・次の項目を評価し、得点(5・3・1点)に○をつける。判断に揺れる場合は中間を選択し、4点、2点をつけてよい。

■評価基準 ■ 5:とてもよくできる 3:ふつう 1:もう少し

聴解力			
1	教師の話の内容と大筋	教師の話の内容と大筋が大体理解できる	5 3 1
2	感想	感想や意見が言える	5 3 1
聴解行動			
3	集中	集中して最後まで聴ける	5 3 1
4	関心	関心を持って聴ける	5 3 1
5	未習語	未習語があっても推測して聴こうとする	5 3 1
語彙・表現			
6	テーマにかかわる語彙・表現が大体理解できる	5 3 1	
7	話の中の大事な語彙が大体理解でき、使おうとする	5 3 1	
総合評価			
備考 (母語の状況)		総合得点	
		総合点⇒ /7=平均点⇒	

ステージ	聴解力	聴解行動	語彙・表現
6	□教師の話の内容の大筋と流れがよく理解できる	□教師の話の内容に関心を持ち、集中して最後まで聴け、それを基に積極的に授業に参加できる	□授業のテーマに関連した語彙・表現がよく理解できる
5	□教師の話の内容の大筋と流れがある程度理解できる	□教師の話の内容に関心を持ち集中して最後まで聴け、それを基に授業にある程度参加できる	□授業のテーマに関連した語彙・表現がある程度理解できる
4	□教師の話の内容の大筋と流れが部分的に理解できる □身近な内容の話を聴いて大体理解できる	□教師の話の内容に関心を持ち集中して最後まで聴け、それを基に授業に部分的に参加できる □身近な内容の話を、最後まで聴こうとする	□授業のテーマに関連した語彙・表現が部分的に理解できる □身近な内容の話を語彙・表現が大体理解できる
3	□ごく短い身近な内容の話を聴いて支援を得てある程度理解できる	□ごく短い身近な内容の話を、支援を得て最後まで聴ける	□ごく短い身近な内容の話を語彙・表現がある程度支援を得て理解できる
2			
1			

評価対象外

第7章 測定の記録と評価・個人指導記録

この章では、**DLA**で測定した日本語能力の結果の記録及び評価の仕方について詳述します。あわせて、児童生徒の個人データの記録の事例を紹介します。

【測定の記録と評価】

(1) 測定の目的

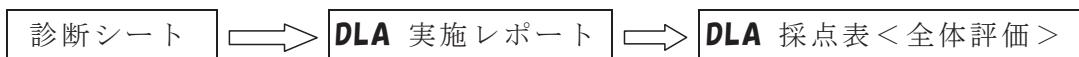
- ・**DLA**は、外国人児童生徒の日本語能力を3つの側面（CF／会話の流暢度、DLS／弁別的言語能力、ALP／教科学習言語能力）から把握し、記録するものです。

測定能力 テスト名	①CF (会話の流暢度)	②DLS (弁別的 言語能力)	③ALP (教科学習 言語能力)
●DLA（話す）	○	○	○
●DLA（読む）		○	○
●DLA（書く）		○	○
●DLA（聴く）			○

- ・記録にあたっては、児童生徒の母語、年齢、入国年齢、滞在年数を記載し、日本語能力を把握するための基礎情報として活用します。
- ・評価の結果については関係者間で共有し、児童生徒に対する日本語指導の内容や方法、支援体制の在り方を検討するための基礎資料として活用します。

(2) 測定後の記録の方法

- ・**DLA**実施後の記録は、以下の3段階で行います。



- ・測定後の記録は、まず技能別（話す・読む・書く・聴く）の「診断シート」に記録します。
- ・次に、「診断シート」で得られた結果を「**DLA**実施レポート」（p.139）に記録します。
- ・その後、「**DLA**採点表<全体評価>」（p.140）に記録します。その際に、「JSL評価参照枠<技能別（話す・読む・書く・聴く）>」で示されている各技能の下位能力の特徴を参照して、ステージを特定します。
- ・下位能力は同一ステージになることは希で、でこぼこになることが一般的です。

(3) 「JSL評価参照枠<全体>」の判定方法

- ・「**DLA**採点表<全体評価>」表の右側にある「JSL評価参照枠<全体>」は、各技能のステージを参考にして判定します。
- ・その際に、左側に記録した下位能力がでこぼこであるために、全体的な能力のステージを判定することがむずかしくなります。そのような場合には、「JSL評価参照枠<全体>」（p.8）の「子どもの在籍学級参加との関係」から支援の段階を検討し、ステージを判定します。

(4) 記入例

「JSL評価参考枠」の＜技能別＞のステージと＜全体＞のステージはその解釈において同一ではありません。子どもの言語能力は個人差が大きく画一的な判定が困難であるために、技能別の下位能力毎の能力記述文が必ずしも全体の能力ステージと一致させられないからです。

後続するページでは、2人の児童生徒の測定結果について、「DLA実施レポート」と「DLA採点表＜全体評価＞」への記入例を提示した上で、＜総評＞として結果の解釈を記述してみます。これらを参考に、結果を有効に活用してください。

【個人指導記録】

子どもの日本語能力は、母語、年齢、入国年齢、滞日年数（四大要因）によって影響を受けるので、子どものステージ判定には、これらの要因にかかわるデータを収集し、参考にすることが大切です。ここでは、ステージ判定や指導に活用する「日本語指導が必要な児童生徒の指導記録」フォーム（後続頁）を紹介します。指導記録には、「基礎データ」と「学習データ」のページがあります。

(1) 基礎データシート

子どもたちを理解するために必要な情報です。毎年加筆修正を加えて残していきます。家庭内の使用言語、生育歴、学習歴、1年間の累積指導時間数など、母語や日本語の習得に影響がある情報を記載します。

特に移動の多い子どもの場合、生育歴や学習歴の把握は非常に大切です。幼児期に文化や言語間を移動している子どもも多く、幼児期の状況や、不就学期間の有無なども、聞き取りをしておきたいことです。

こうした個人情報に関わる事項を聞くためには、子どもや保護者の母語が分かる通訳や支援者の助けが不可欠で、子どもの指導に必要な情報であるという共通認識が求められます。同時に、取扱いには注意が必要です。

(2) 学習データシート

DLAのどの部分をいつ実施したかという情報を「DLA実施記録」の欄に記録します。その他に、児童生徒の日本語や教科の理解の状況や、それに対応する日本語指導の内容や評価、次年度への申し送り等、学習に関わる情報を年度毎に記録します。

日本語指導担当者が変わったり、児童生徒が転校したりすると、それまでの情報が引き継がれず、指導が分断されてしまうことも少なくありません。こうした状況は、児童生徒にとって望ましいことではありません。指導を継続して行うためには、記録を残し、情報を共有することが大切です。小学校から中学校への進学時や、転校時に、指導記録も引き継がれることが望ましいでしょう。

「日本語指導が必要な児童生徒の指導記録」の参考フォームに合わせて、中学校版の記入例を掲載しましたので、参考にご覧ください。

名前：_____ (男・女) 年齢 (学年) : _____ 母語 : _____
 入国年齢 : _____ 滞在年数 : _____ 記録日 : _____ 年 月 日 記録者 : _____

DLA実施レポート

実施したものに○をつけ、得点 (平均点) を記入してください。

語彙力チェック	日本語	% (/55)	母語	% (/55)
DLA 〈話す〉	実施タスク	基礎タスク () 対話タスク ()	認知タスク ()	
DLA 〈読む〉	実施テキスト	A · B · C1 · C2 · D · E · F		
DLA 〈書く〉	実施課題	W1 · W2 · W3 · W4 · W5 · W6 · W7 · W8		
DLA 〈聴く〉	実施DVD	A1 · A2 · A3 · B4 · B5 · B6 · B7 · B8		
	得点	1	3	5

DLA 採点表 〈全体評価〉

下の表に該当するステージに○を記入して下さい。

ステージ	DLA〈話す〉	DLA〈読む〉	DLA〈書く〉	DLA〈聴く〉	J-SL評価参考枠〈全体〉		支援の段階		支援付き自習段階	個別学習支援段階	初期支援段階
					総合	語彙・表現	聴解行動	聴解力			
6					総合	書く態度	書字力・表記ルール	語彙・漢字力	文の質・正確度	構成	内容
5					読書習慣・興味・態度	語彙・漢字	音読行動	読書行動	読解力	総合	話す態度
4					発音・流暢度	語彙	文法的正確度	文・段落の質	話の内容とまとめ	話す態度	話す態度
3											
2											
1											

事例1：9歳（小学3年生）の男子児童（日本生まれ）の評価結果

名前：ロドリゴ（男・女） 年齢（学年）：9歳（小3） 母語：ポルトガル語（家庭での会話は主に母語、読み書き不可）
 入国年齢：日本生まれ 滞在年数：9年2ヶ月 記録日：2012年9月30日 記録者：佐藤（日本語担当）

DLA実施レポート

語彙力チェック	日本語	87.2 % (48/55)	母語	85.5 % (47/55)
DLA（話す）	実施タスク	基礎タスク（○）対話タスク（○）認知タスク（○）		
DLA（話す）	得点	1 3 3.2 5		
DLA（読む）	実施テキスト	A - B - C1 - C2 - D - E - F		
DLA（読む）	得点	1 3.0 5		
DLA（書く）	実施課題	W1 W2 - W3 - W4 - W5 - W6 - W7 - W8		
DLA（書く）	得点	1 1.8 3 5		
DLA（聴く）	実施DVD	A1 - A2 - A3 - B4 - B5 - B6 - B7 - B8		
DLA（聴く）	得点	1 3 4.0 5		

DLA採点表（全体評価）

ステージ	DLA（話す）						DLA（読む）						DLA（書く）						DLA（聴く）			JSL評価参照枠（全体）	支援の段階			
	話の内容とまとまり	文・段落の質	文法的正確度	語彙	発音・流暢度	話す態度	総合	読解力	読書行動	音読行動	語彙・漢字	読書習慣・興味・態度	総合	内容	構成	文の質・正確度	語彙・漢字力	書字力・表記ルール	書く態度	総合	聽解力	聽解行動	語彙・表現	総合		
6																										
5																										
4	○	○	○	○	○	○	●		○												○	○	○	●		個別学習支援段階
3								○	○	○		●	○	○	○	○	○	○	○	●					●	
2										○				○	○	○	○	○								初期支援段階
1																										

<総評>

- 二言語ともに、日常よく耳にする語彙はできていましたが、少し低頻度の語彙はまだ身についていないようです。
- 会話の場面で話したり、聞いたりすることには問題がないですが、教科の知識を必要とする会話では十分な受け答えができませんでした。教科に関する語彙が不足しているようです。
- <読む>では年齢相応レベルの読み物には抵抗を示しましたが、小学1年生前半レベルの短い読み物であれば、楽しんで読み、大筋を理解し、感想を言うことができました。音読の力はまだ十分ではありませんが、想像力は大変豊かです。
- <書く>では、書くことへの強い抵抗がみられました。支援を得て、文をいくつか書くことはできますが、段落を作り、まとまった文章を書くのはまだ難しいようです。助詞や表記ルールの間違いも目立ちました。
- <聴く>で測定した授業を聴く力は、少し易しい内容で、映像などの視覚的な助けがあれば、よく理解できるようです。短い時間でしたが、集中して最後まで聴くことができました。
- <話す>、<聴く>は大体ステージ4、<読む>、<書く>はステージ3で、総合的には、まだ個別学習支援が必要なステージ3であると言えるでしょう。
- 学年で期待されているレベルより少し下の教材であれば、視覚的な助けや誰かの支援を得て、想像を働かせながら、学習を進めることができそうです。読む、書くことへの抵抗感をなくせるよう、単調な音読練習や書き取り練習ばかりではなく、絵本などの読み聞かせとその後の話し合いや、物語の創作など、励まし楽しみながらできる活動も取り入れるとよいでしょう。JSLカリキュラムを用いた支援も効果的だと思われます。
- 母語での語彙力チェックや母語話者の支援者の話によれば、母語の日常会話力もある程度保持できているようですので、母語でも読み書きを育て、二つのことばから語彙や知識を増やしていくようにするとよいでしょう。

事例2：13歳（中学1年生）の女子生徒（滞在年数2年6ヶ月）の評価結果

名前：リーリン（男・女） 年齢（学年）：13歳（中1） 母語：中国語（家庭では母語、年齢レベルに近い読み書き可能）
 入国年齢：11歳（小5） 滞在年数：2年6ヶ月 記録日：2012年3月15日 記録者：佐藤（日本語担当）

DLA実施レポート

語彙力チェック	日本語	92.7 % (51/55)	母語	100 % (55/55)
DLA（話す）	実施タスク	基礎タスク（○）対話タスク（○）認知タスク（○）		
	得点	1	3 3.8	5
DLA（読む）	実施テキスト	A · B · C1 · C2 · D · E · F		
	得点	1	3 3.6	5
DLA（書く）	実施課題	W1 · W2 · W3 · W4 · W5 · W6 · W7 · W8		
	得点	1	3	5
DLA（聴く）	実施DVD	A1 · A2 · A3 · B4 · B5 · B6 · B7 · B8		
	得点	1	3	5

DLA採点表（全体評価）

ステージ	DLA（話す）					DLA（読む）					DLA（書く）					DLA（聴く）					JSL評価参照枠（全体）	支援の段階				
	話の内容とまとまり	文・段落の質	文法的正確度	語彙	発音・流暢度	話す態度	総合	読解力	読書行動	音読行動	語彙・漢字	読書習慣・興味・態度	総合	内容	構成	文の質・正確度	書字力・表記ルール	語彙・漢字力	書く態度	総合	聴解力	聴解行動	語彙表現	総合		
6								○																		
5	○	○		○	○	●		○	○	○	○	○	●											●		
4		○	○						○																	
3																										
2																										
1																										

＜総評＞

- ・＜はじめの一歩＞、＜話す＞、＜読む＞を実施しました。時間の都合により、＜書く＞、＜聴く＞は実施していません。
- ・滞在年数が2年半と比較的短いにも関わらず、＜話す＞では認知タスク、＜読む＞では年齢枠相応のテキストを読むことができ、学習言語の力を含め、大変順調に伸びていると言えます。
- ・＜話す＞では、教科用語でわからない語彙があったり、若干の文法的な間違いがみられましたが、説明力が高かったです。
- ・＜読む＞では、わからない語彙や漢字、表現はありましたかが、その都度、自分から積極的に質問することができましたし、新しく知った語彙をすぐに説明の中で使うことができていました。大意を掴む力、口頭で要約する力に優れています。音読ではわからない語彙や漢字でつまずくと流暢度は落ちますが、間違いに気づき修正できますし、黙読もできます。黙読のほうはよく理解できるようです。また、自分がどのように読んでいるかをよく意識できていました。書いてある内容を母語でイメージしたり、確認したりしながら読み進めていることで、母語で得た知識が役立ったり、内容をまとめるのに母語を活用している様子がみられました。
- ・語彙や漢字の不足、若干の文法的な不正確さはありますが、＜話す＞＜読む＞とともにステージ5と判定されました。特に、学習に対する意欲が高い点が評価できます。在籍学級での学習を進めながら、新しく学習する語彙や知識をさらに強化できるよう、個別の支援を行ななどの対応が効果的でしょう。二言語での読書を通して得る知識や語彙が多いので、よりよい読書環境を作れるようサポートできるといででしょう。インターネットの活用も有効です。
- ・家庭での会話は全て母語で行い、母語での教科学習も続けているとのことで、そのことが日本語での教科内容の理解や学習意欲、自信にもつながっているようです。これから受験に向けて日本語での教科学習の内容が益々増え、時間の確保が難しいですが、本人が母語での学習を続けられるように周囲も母語の価値を共有し、サポートしていく必要があるでしょう。

日本語指導が必要な児童生徒の指導記録

取扱い注意

基礎データシート（毎年、加筆修正をする）

フリガナ				性別		国籍	
氏名				生年月日	年 月 日		
住所				連絡先			
家族構成	続柄	氏名		国籍	本人との言語		日本語理解の状況・備考
家庭への連絡	<input type="checkbox"/> 日常的な連絡が日本語で可能 <input type="checkbox"/> 猛談会や行事の説明会に通訳が必要			<input type="checkbox"/> 猛談会や行事の説明会が日本語で可能 <input type="checkbox"/> 大切な連絡に翻訳文書が必要			

就学状況		月											特記事項	
学年	年齢	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	就学前の状況や本国の学校・外国人学校での就学状況など分かる範囲で記入する。
	0歳～													
	1～													
	2～													
	3～													
	4～													
	5～													
小1	6～													
2	7～													
3	8～													
4	9～													
5	10～													
6	11～													
中1	12～													
2	13～													
3	14～													

	小学校1年	小学校2年	小学校3年	小学校4年	小学校5年	小学校6年	中学校1年	中学校2年	中学校3年
学級担任名									
日本語指導担当名									
取り出し指導時間 合計									

学習データシート（年度ごとに記入する）

平成（ ）年度 指導記録		記入者：																																				
指導場所		指導者																																				
<年間の指導状況・指導内容・指導の手立てに対する評価など>																																						
<p>◆母語の様子</p> <table border="1"> <tr> <td>・母語での教育を受けたことがある。</td> <td><input type="checkbox"/>ある <input type="checkbox"/>ない</td> <td><input type="checkbox"/>本人からの聞き取り</td> </tr> <tr> <td>・母語で日常の会話ができる。</td> <td><input type="checkbox"/>できる <input type="checkbox"/>できない</td> <td><input type="checkbox"/>家族からの聞き取り</td> </tr> <tr> <td>・母語で書かれた学年相応の文章を読むことができる。</td> <td><input type="checkbox"/>できる <input type="checkbox"/>できない</td> <td><input type="checkbox"/>母語話者の支援者からの聞き取り</td> </tr> <tr> <td>・母語を使って学年相応の文章を書くことができる。</td> <td><input type="checkbox"/>できる <input type="checkbox"/>できない</td> <td><input type="checkbox"/>母国の学校の成績表（成績表 <input type="checkbox"/>有 <input type="checkbox"/>無）</td> </tr> <tr> <td>・母語は現在全く使っていない。</td> <td></td> <td><input type="checkbox"/>母語対応テストの結果（テスト名）</td> </tr> </table> <p>◆DLA 実施記録</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>実施日（月・日）</th> <th>実施内容</th> <th>結果（詳細は資料を添付）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>DLA 〈話す〉</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>DLA 〈読む〉</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>DLA 〈書く〉</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>DLA 〈聴く〉</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>◆来年度に申し送りたいこと</p>				・母語での教育を受けたことがある。	<input type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない	<input type="checkbox"/> 本人からの聞き取り	・母語で日常の会話ができる。	<input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> できない	<input type="checkbox"/> 家族からの聞き取り	・母語で書かれた学年相応の文章を読むことができる。	<input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> できない	<input type="checkbox"/> 母語話者の支援者からの聞き取り	・母語を使って学年相応の文章を書くことができる。	<input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> できない	<input type="checkbox"/> 母国の学校の成績表（成績表 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無）	・母語は現在全く使っていない。		<input type="checkbox"/> 母語対応テストの結果（テスト名）		実施日（月・日）	実施内容	結果（詳細は資料を添付）	DLA 〈話す〉				DLA 〈読む〉				DLA 〈書く〉				DLA 〈聴く〉			
・母語での教育を受けたことがある。	<input type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない	<input type="checkbox"/> 本人からの聞き取り																																				
・母語で日常の会話ができる。	<input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> できない	<input type="checkbox"/> 家族からの聞き取り																																				
・母語で書かれた学年相応の文章を読むことができる。	<input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> できない	<input type="checkbox"/> 母語話者の支援者からの聞き取り																																				
・母語を使って学年相応の文章を書くことができる。	<input type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> できない	<input type="checkbox"/> 母国の学校の成績表（成績表 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無）																																				
・母語は現在全く使っていない。		<input type="checkbox"/> 母語対応テストの結果（テスト名）																																				
	実施日（月・日）	実施内容	結果（詳細は資料を添付）																																			
DLA 〈話す〉																																						
DLA 〈読む〉																																						
DLA 〈書く〉																																						
DLA 〈聴く〉																																						

記入例

日本語指導が必要な児童生徒の指導記録

取扱い注意

フリガナ	フリガナは、保護者に読み方を確認して記入する。										性別	男	国籍	ブラジル			
氏名	指導要録に記載する正式名を記入する。										生年月日	# # # # 年 # 月 # 日					
住所	# # 市 # # 町 1 丁目 1 番 1 号 コーポ # # 1 号										連絡先	# # # # - # # - # # # #					
家族構成	続柄	氏名										国籍	本人との言語	日本語理解の状況・備考			
	父	# # # # # # # #										ブラジル	ポルトガル語				
	母	# # # # # # # #										ブラジル	ポルトガル語	日常会話が可能			
	兄	# # # # # # # #										ブラジル	ポルトガル語	ブラジル在住			
家庭への連絡		<input checked="" type="checkbox"/> 日常的な連絡が日本語で可能 <input type="checkbox"/> 懇談会や行事の説明会が日本語で可能 <input checked="" type="checkbox"/> 懇談会や行事の説明会に通訳が必要 <input checked="" type="checkbox"/> 大切な連絡に翻訳文書が必要															
就学状況		月												特記事項			
学年	年齢	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	就学前の状況や本国の学校・外国人学校での就学状況など分かる範囲で記入する。			
	0歳～			ブラジル											ブラジル、サンパウロ生まれ		
	1～	「就学状況」については、就学前状況や不就学期間の把握も必要である。しかし、詳しい状況が分からぬ場合も多いので、分かる範囲で記入に努める。												ブラジル			
	2～	「就学状況」については、就学前状況や不就学期間の把握も必要である。しかし、詳しい状況が分からぬ場合も多いので、分かる範囲で記入に努める。												ブラジル			
	3～	「就学状況」については、就学前状況や不就学期間の把握も必要である。しかし、詳しい状況が分からぬ場合も多いので、分かる範囲で記入に努める。												ブラジル			
	4～	日本の公立保育所												4月に来日し、公立保育所に入所			
	5～	日本の公立保育所												公立保育所			
小1	6～	##市立##小学校												4月1日 ##市立##小学校入学			
2	7～	##市立##小学校												##市立##小学校 2年			
3	8～	##市立##小学校			ブラジルの小学校									##市立##小学校 3年 7月帰国			
4	9～	ブラジルの小学校												ブラジル			
5	10～	ブラジルの小学校												ブラジル			
6	11～	ブラジルの小学校									来日不就学			ブラジル *** 小学校卒業 1月来日不就学（～3月）			
中1	12～	▲市立▲中学校												4月 ▲市立▲中学校第1学年編入学			
2	13～	▲市立▲中学校												▲市立▲中学校			
3	14～																

	小学校1年	小学校2年	小学校3年	小学校4年	小学校5年	小学校6年	中学校1年	中学校2年	中学校3年
学級担任名	不明	不明	不明				# # #	# # #	
日本語指導担当名	不明	不明	不明				***	***	
日本語指導累積指導時間	不明	不明	不明				週 6 時間 150 時間	週 5 時間 120 時間	

指導場所	本校での取り出し指導				指導者	日本語指導＊＊＊ ポルトガル語支援@@@								
1年間の指導状況	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
技能別日本語	漢字の学習 作文 →													
日本語と教科の統合学習	年間を通じて週5時間の取り出し指導。教科によって、「個別指導」と「同学年の少人数の取り出し指導」と「日本語レベルを揃えた異学年の少人数指導」の3パターンでの指導。													
指導時間	日本語や教科の理解の状況など				指導内容や評価など									
数学 週2時間 同学年の少人数指導	<ul style="list-style-type: none"> ・分数、小数を含む基礎計算はできる。 ・数学用語や内容を在籍学級の授業だけでは理解することが難しい。 ・図形については小学校での未習箇所が多く、全く理解できない。 				<ul style="list-style-type: none"> ・在籍学級の進度に合わせて、特に文字式や方程式の文章題の理解に重点を置いて指導。複雑な文でなければ理解が可能になった。2月の計算コンクールでは、1回目49点、2回目85点で、合格。 ・図形は小学校の学習内容まで戻り、「単位、面積、体積」を集中的に補習指導した。学年相応の問題を解くまでには至っていない。 									
社会 週1時間 個別指導	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を一人で読むことができない。社会用語の理解は難しく、初めから学習しない教科と考えている様子。 				<ul style="list-style-type: none"> ・在籍学級の授業に先行し「地理」を中心に教えた。グラフや地形図、分布図、主題図、写真の読み取りなど、資料を読み取る学習活動に参加することが可能になった。 									
理科 週1時間 個別指導	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を一人で読むことができない。 ・「日本語ポルトガル語辞書」を使って理科用語の意味を調べ、ポルトガル語で理解ができる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・在籍学級の進度に合わせて1分野の内容を中心に教えた。特に「生命」の領域では、ポルトガル語対応で用語を理解し、「課題把握をして予想を立て、観察し、考察する」という理科の学習活動に参加することが可能になった。重要語句もよく覚えた。 									
国語 週1時間 日本語が同程度の異学年少人数	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の読み書きは小学校4年生レベル。 ・生活日誌に100字程度の日記を毎日書くことができる。(主述が整っている) ・接続語や助詞、指示語の示す意味が正確に把握できていない。 				<ul style="list-style-type: none"> ・読む活動が重点になっている単元では、要約リライトを使い、場面をとらえ登場人物の心情を読み取る学習を行った。 ・日本語能力試験N2レベルの文法や表現の学習を行った。 ・漢字の宿題を毎日提出することを、習慣付けることができた。12月の漢字コンクールは小4レベルで実施し、90点で合格。 									
英語	<ul style="list-style-type: none"> ・英語はよく理解できている。指導なし。 				<ul style="list-style-type: none"> ・実用英語検定の3級を受験し、合格。 									

・母親の仕事がない時期があり、経済的に困難な状況が伺われる。就学援助を受けている。

・部活動はバスケット部。練習には熱心に参加している。

◆母語の様子

・母語での教育を受けたことがある。	<input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない	<input checked="" type="checkbox"/> 本人からの聞き取り
・母語で日常の会話ができる。	<input checked="" type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> できない	<input checked="" type="checkbox"/> 家族からの聞き取り
・母語で書かれた学年相応の文章を読むことができる。	<input checked="" type="checkbox"/> できる <input type="checkbox"/> できない	<input checked="" type="checkbox"/> 母語話者の支援者からの聞き取り
・母語を使って学年相応の文章を書くことができる。	<input type="checkbox"/> できる <input checked="" type="checkbox"/> できない	<input checked="" type="checkbox"/> 母国の学校の成績表 (成績表 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無)
・母語は現在全く使っていない。		<input type="checkbox"/> 母語対応テストの結果 (テスト名)

◆DLA 実施記録

	実施日（月・日）	実施内容	結果 (詳細は資料を添付)
DLA 〈話す〉	4月23日	基礎会話～認知会話まで	
DLA 〈読む〉	4月23日	『貝がら』	「JSL評価参照枠<技能別>」のステージを記入。診断シートを資料として添付。
	1月10日	『アニメーションとわたし』	
DLA 〈書く〉	7月15日	『学校紹介』	
	3月5日	『学校と地域』	
DLA 〈聴く〉	3月5日	『エネルギー』	

◆来年度に申し送りたいこと

・教科の学習内容を理解するのは難しく、自分ひとりでは課題提出ができないことが多い。教科担当者からは「さぼっている」と見られて叱られ、登校を渋ることがある（12月の保護者会での母親の話）。教科の課題の調整が必要である。

・親子共、高校進学を希望。3月の懇談会では、経済的に私立高校は厳しいとのこと。高校でかかる費用を伝える必要あり。

評価キット

別冊資料

1. **DLA**〈読む〉レベル別テキスト
2. **DLA**〈聴く〉映像(DVD)

巻末資料

1. **DLA**〈はじめの一歩〉語彙カード
2. **DLA**〈話す〉基礎カード(ピンク)
タスクカード(イエロー)
認知カード(ブルー)
3. **DLA**〈書く〉作文課題
4. **DLA**〈書く〉作文用紙
5. **DLA**〈聴く〉映像(DVD)スクリプト
6. **DLA**〈聴く〉視覚補助教材(キーワード)

巻末資料の使い方

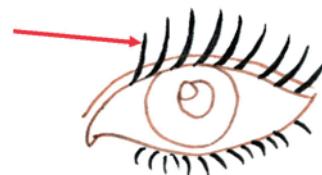
1, 2, 6はカラーコピーをして切り分け、台紙に貼るなどして繰り返しお使いいただけます。
3, 4は必要枚数を拡大コピーしてお使いください。
また、文科省のHPからプリントアウトもできます。

1. DLA <はじめの一歩> 語彙カード

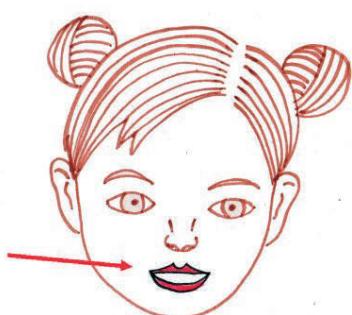
1



2



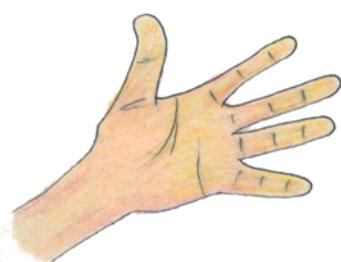
3



4



5



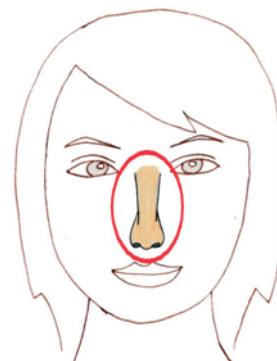
6

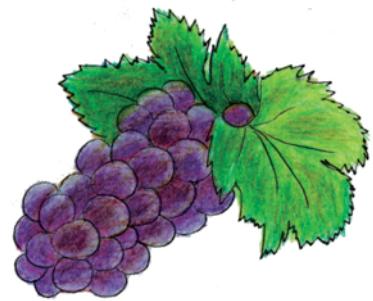


7

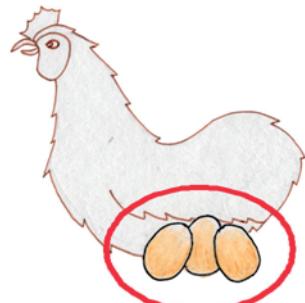


8





9



10



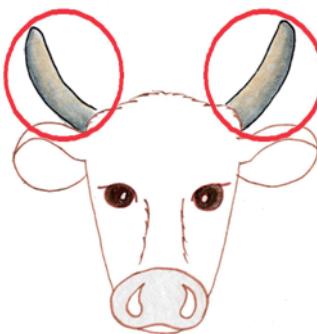
11



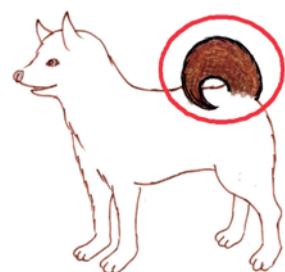
12



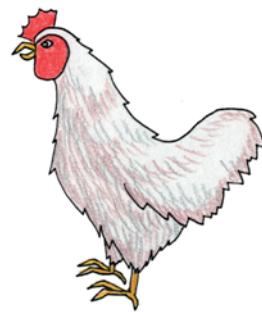
13



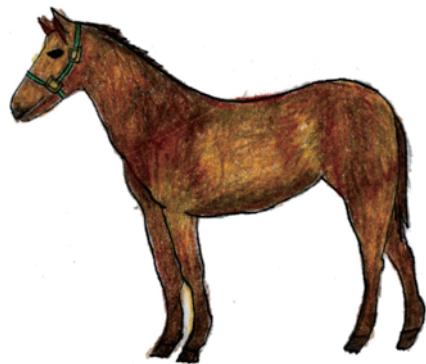
14



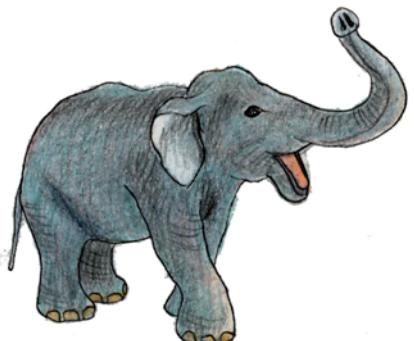
15



16



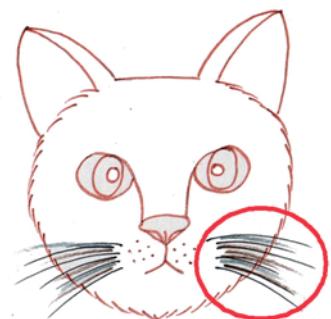
17



18



19



20



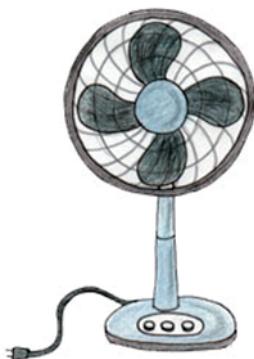
21



22



23

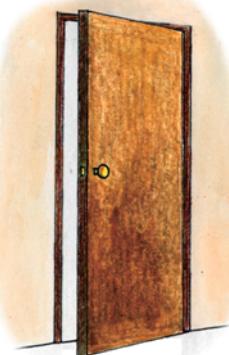


24

25



26



27



28



29



30

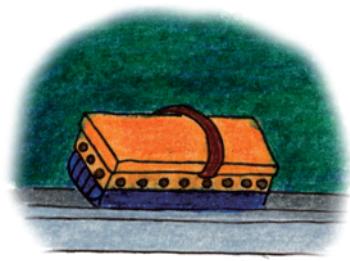


31

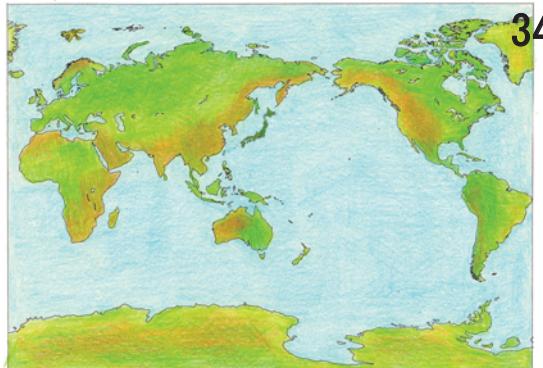


32

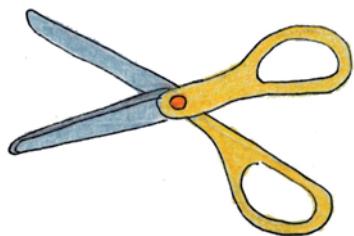




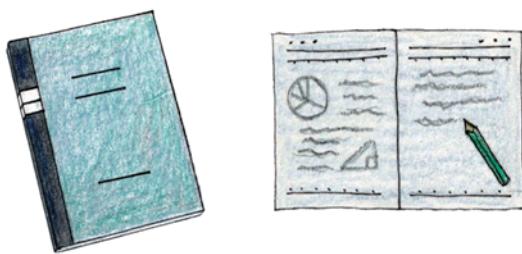
33



34



35



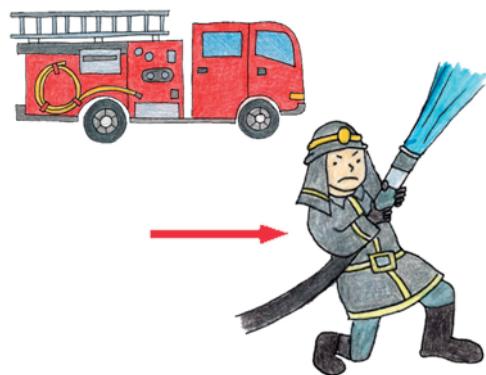
36



37



38

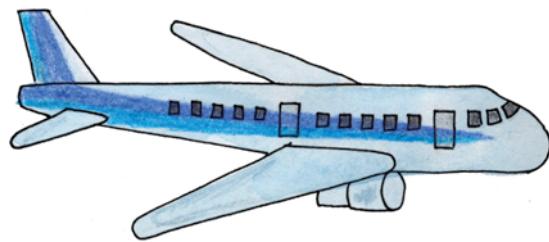


39

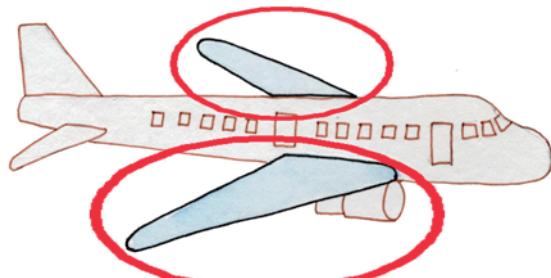


40

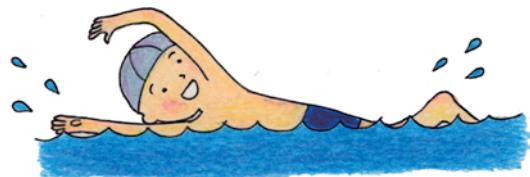
41



42



43



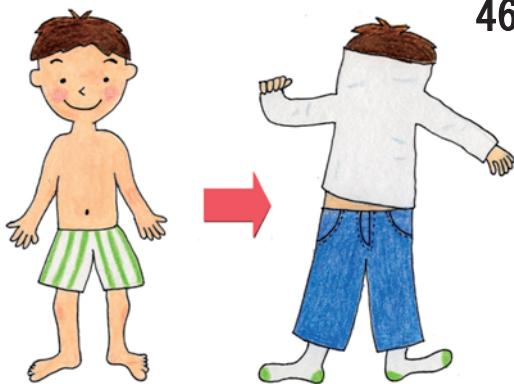
44



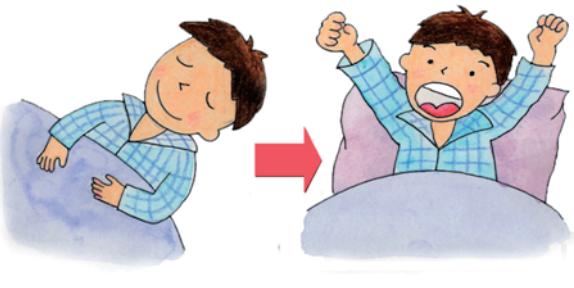
45



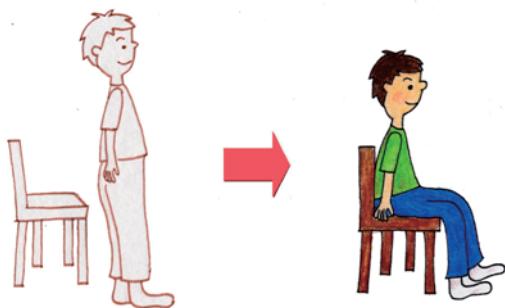
46



47



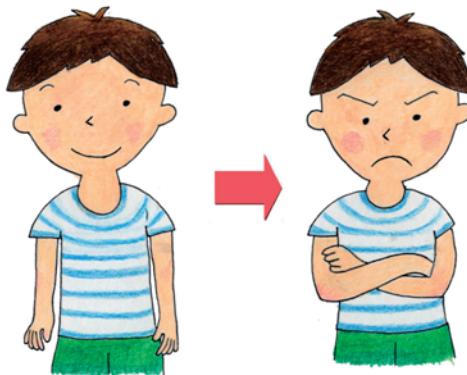
48



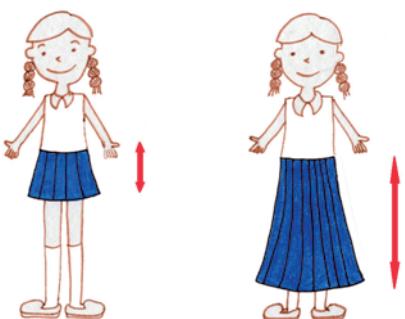
49



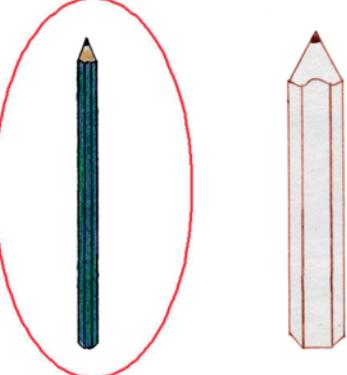
50



51



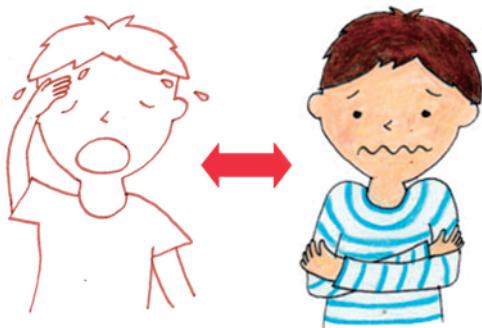
52



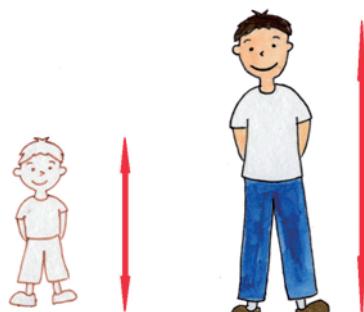
53



54

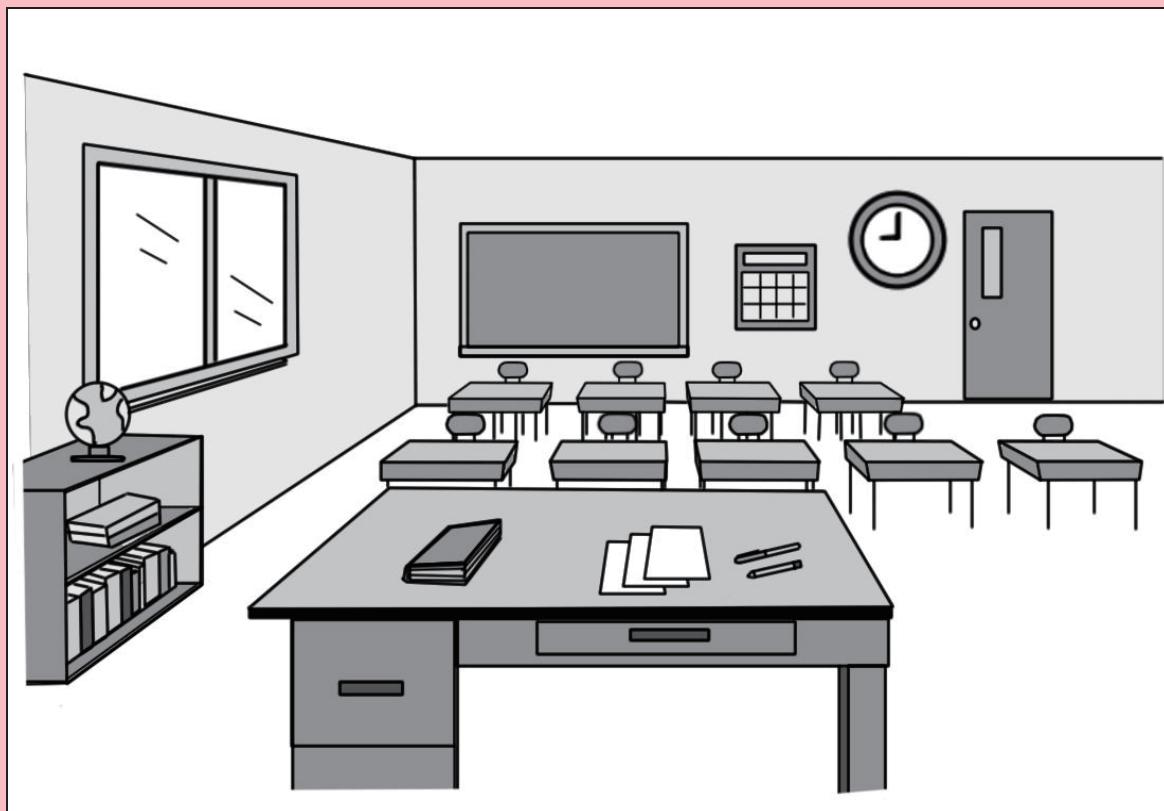


55

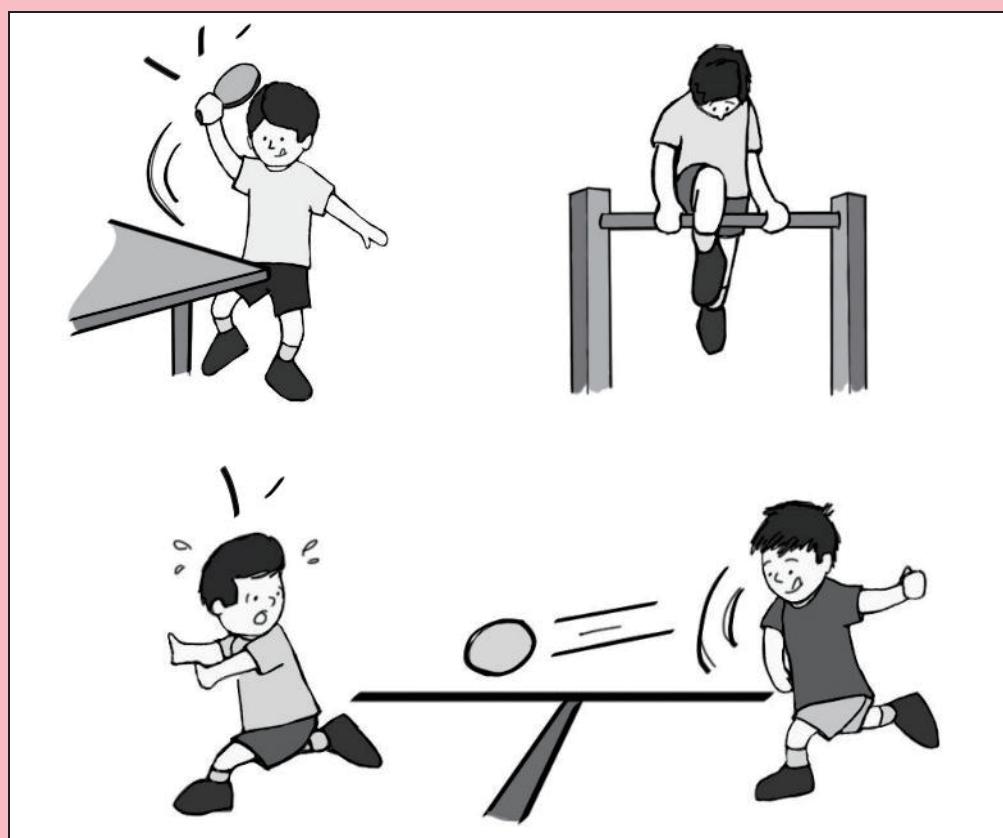


2. DLA <話す> 基礎カード

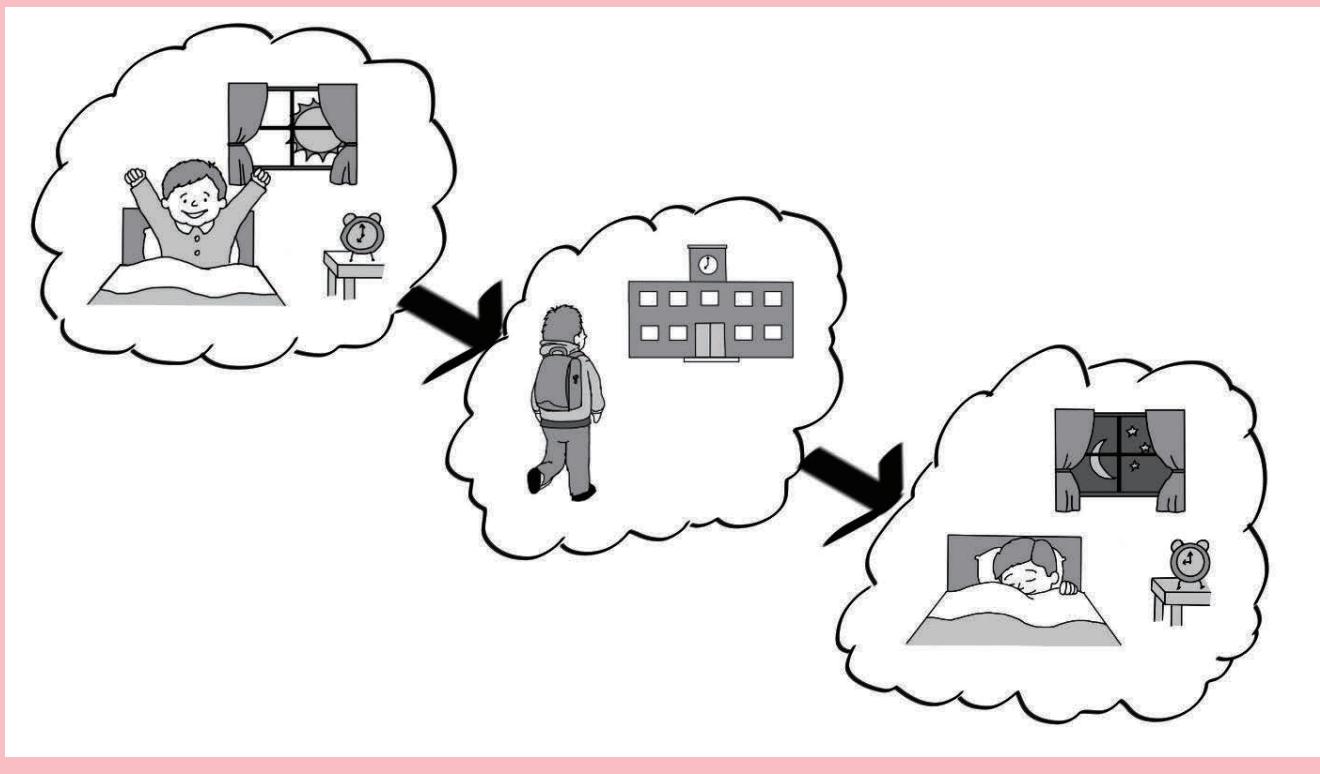
(1) 「教室」



(2) 「スポーツ」

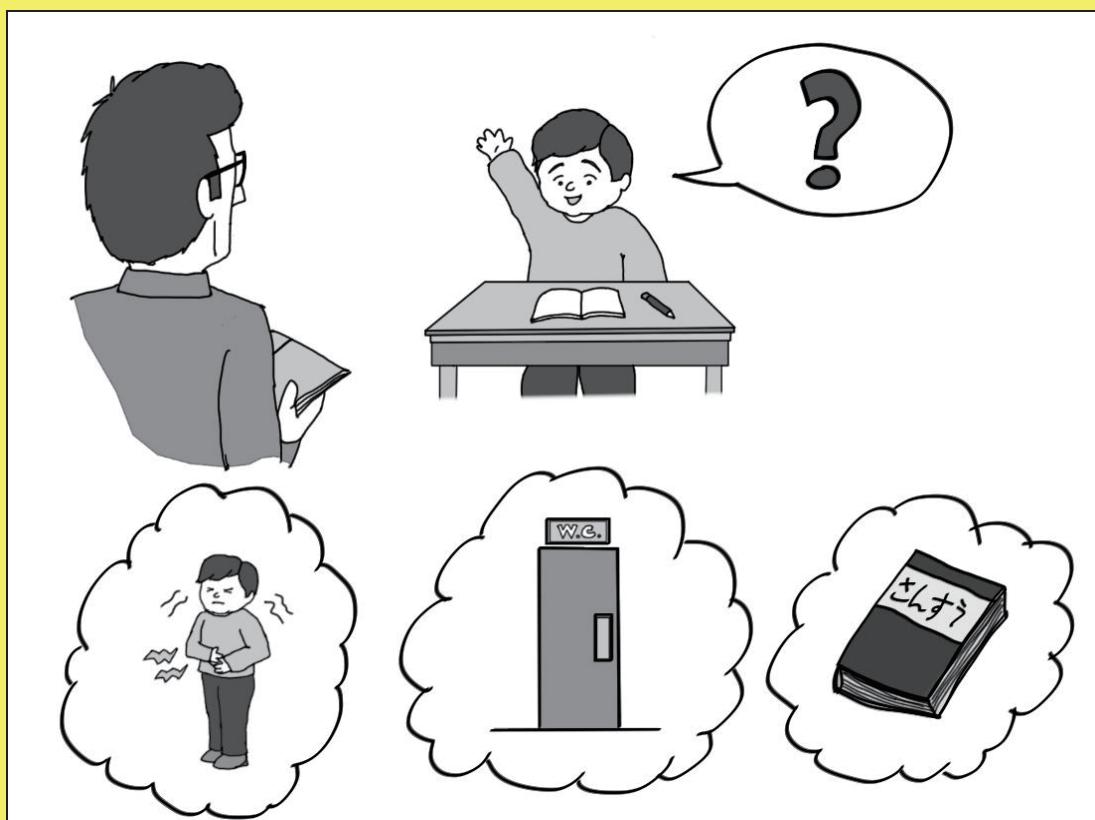


(3) 「日課<起床><登校><就寝>」



タスクカード

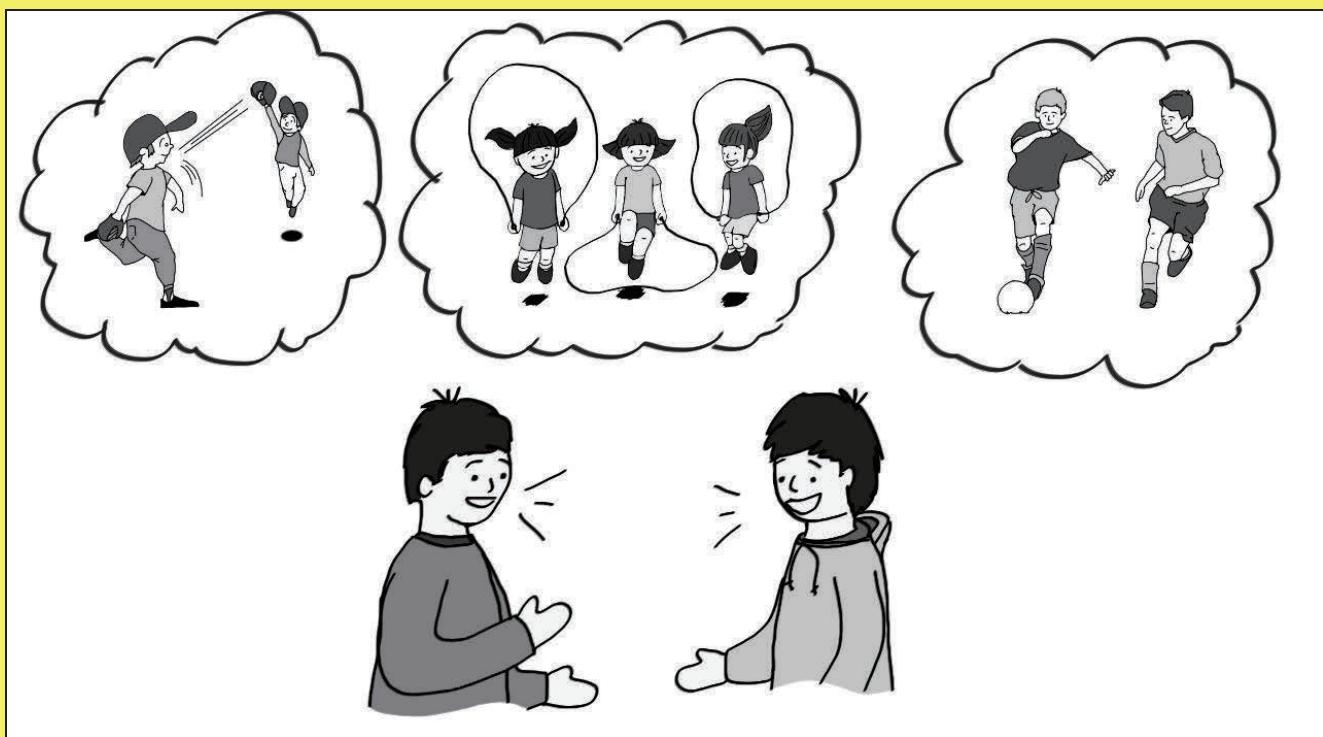
(4) 「先生に質問」



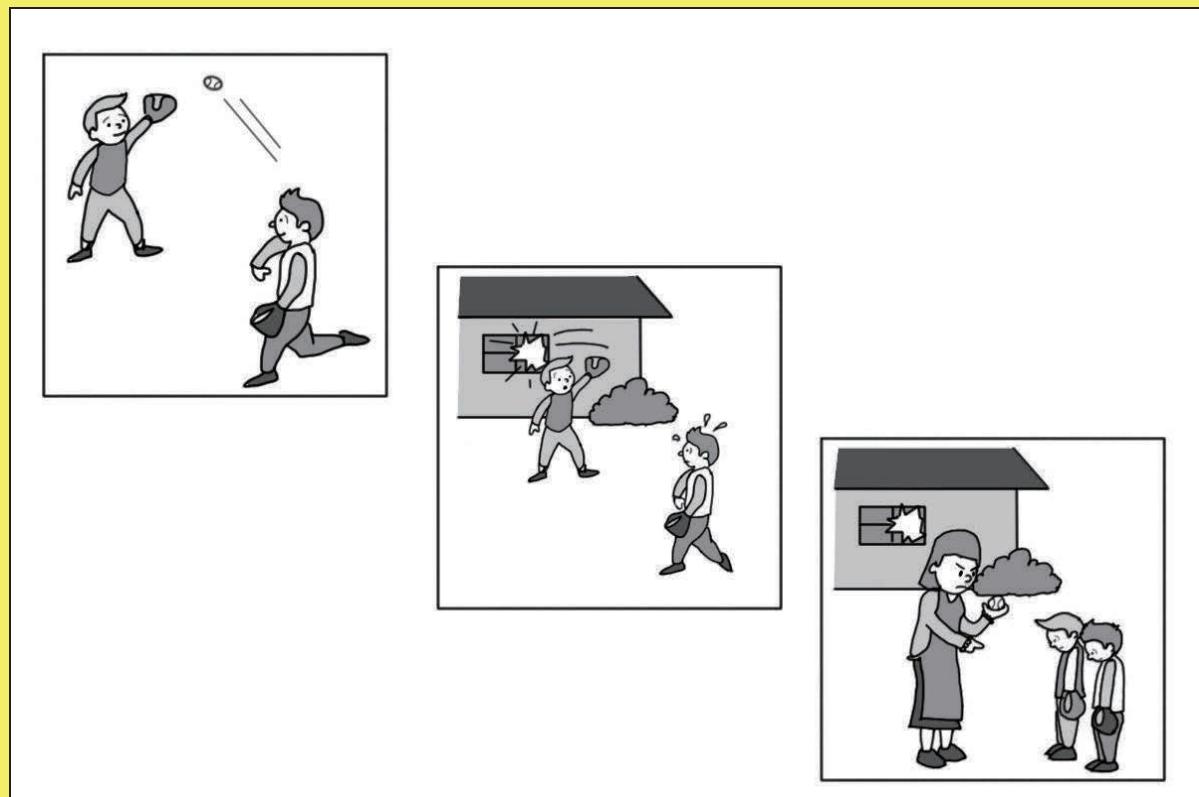
(5) 「新しい先生」



(6) 「友達を誘う」



(7) 「キャッチボール事件」



認知カード

(8) 「お話」



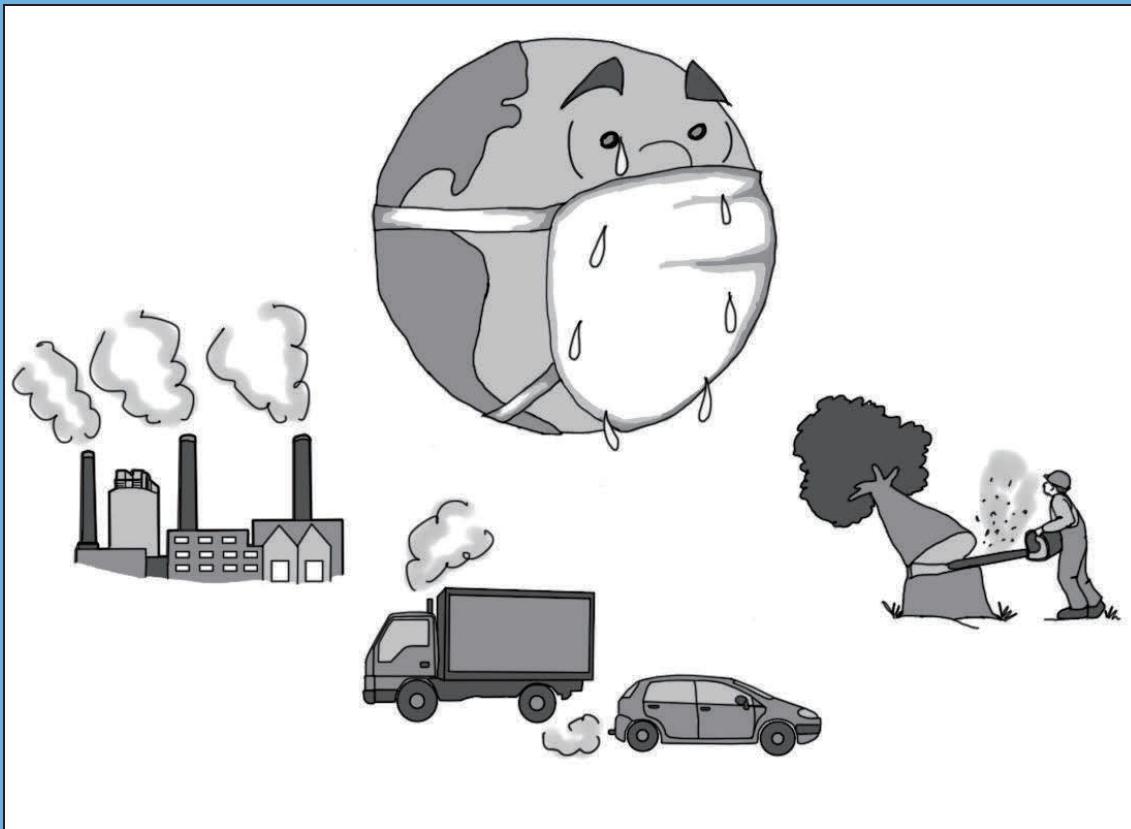
(9) 「消防車」



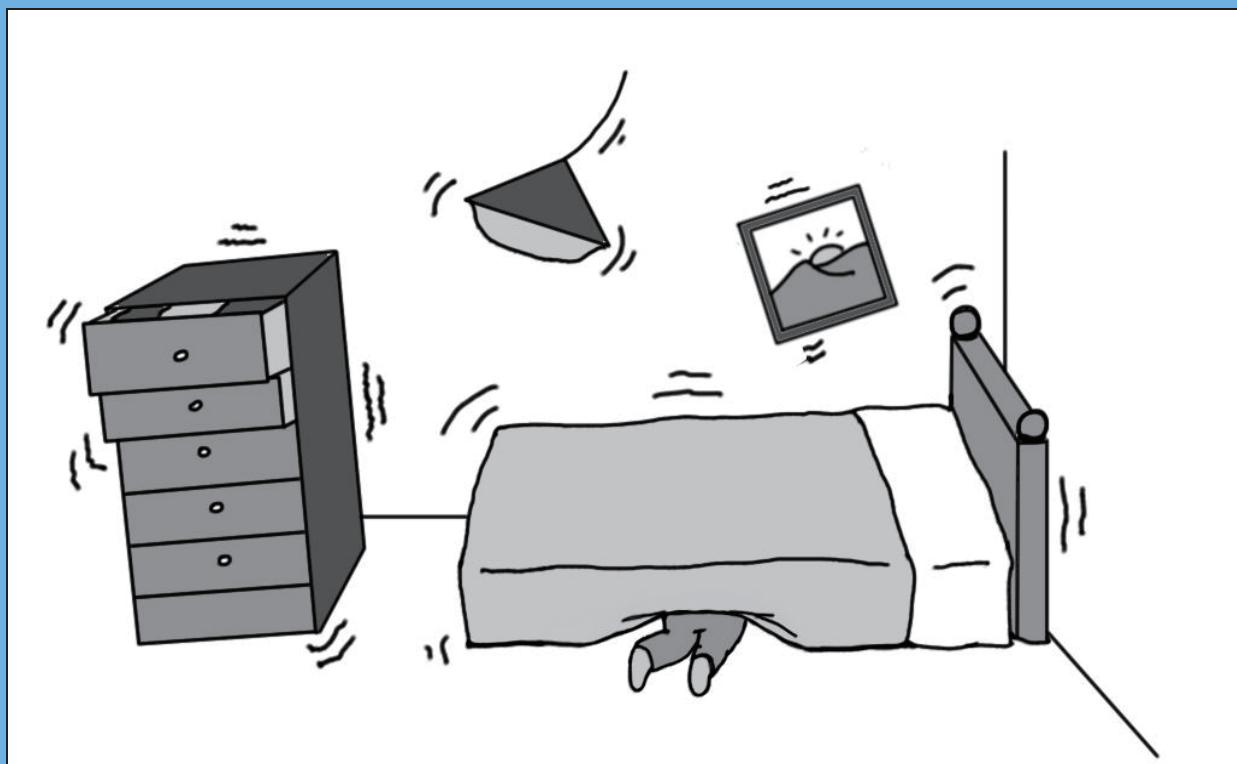
(10) 「キャッチボール事件の報告」



(11) 「環境問題」



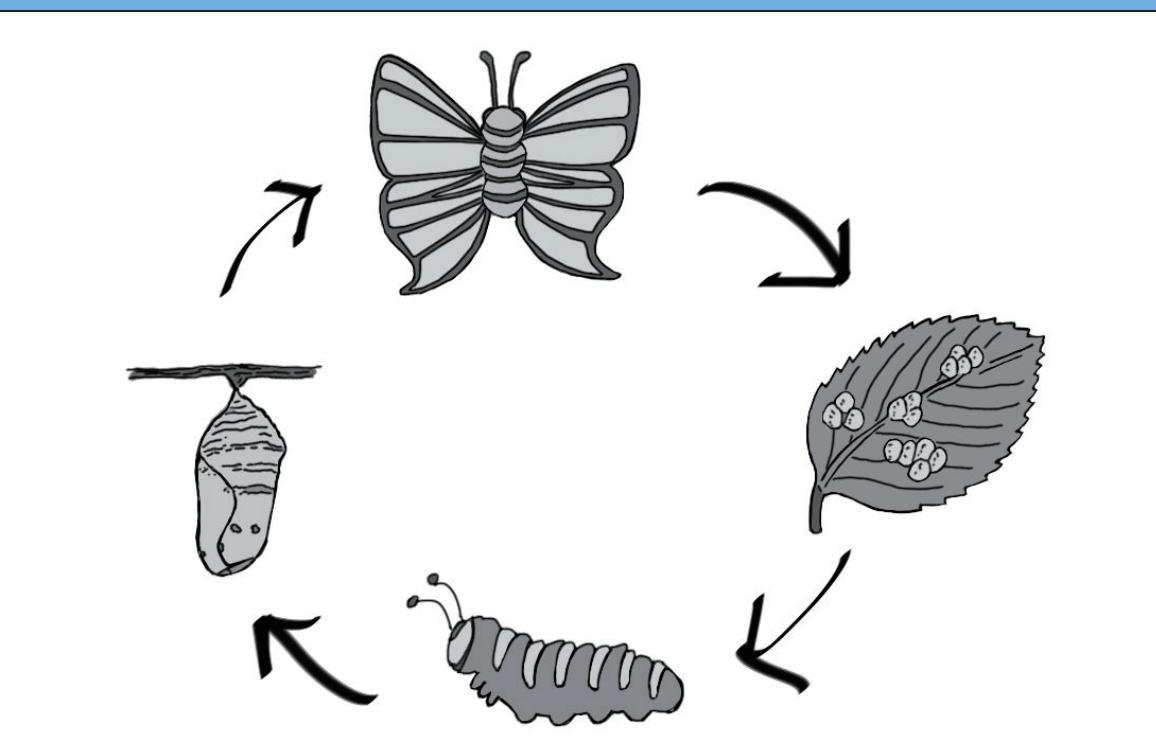
(12) 「地震」



(13) 「水の循環」



(14) 「蝶の一生」



学校紹介

あなたの学校について紹介してください。

今の学校でも、前の学校でもいいです。

四百字以内で書いてください。
時間は三十分です。

メモ

日本の○○

日本と外国を比べて、違うところを説明してください。

○○は自由に決めてください。

四百字以内で書いてください。
時間は三十分です。

メモ

メールと手紙

気持ちを伝えるのにメールと手紙、どちらがいいと思うか、五百字以内であなたの考えを書きなさい。

時間三十分

メモ

携帯で読める本(電子書籍)があれば紙の本はいらなく、
いう意見についてどう思うか。理由とともに六百字以内で
述べよ。

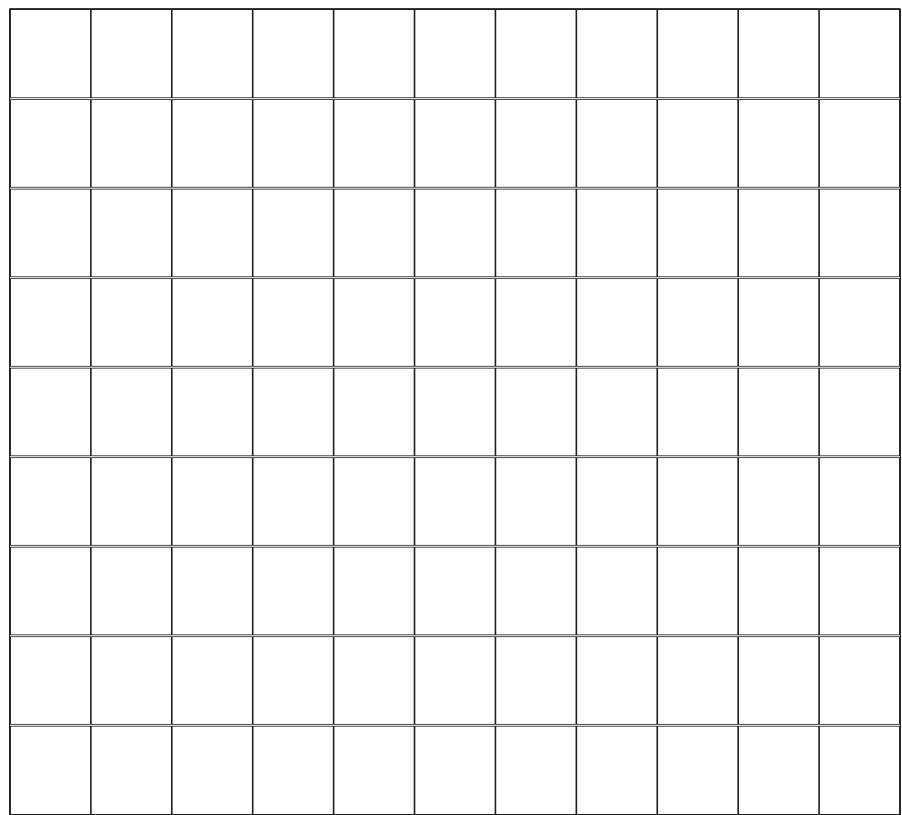
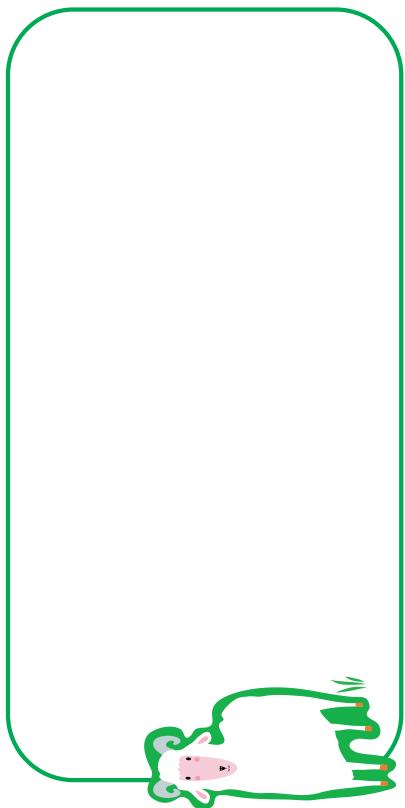
時間三十分

メモ

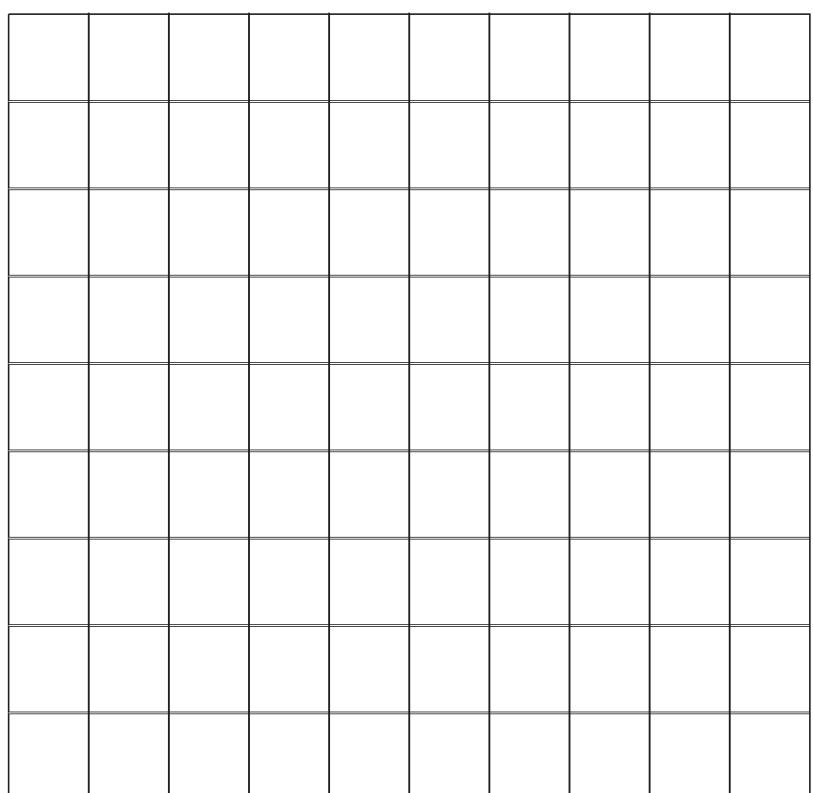
作文紙

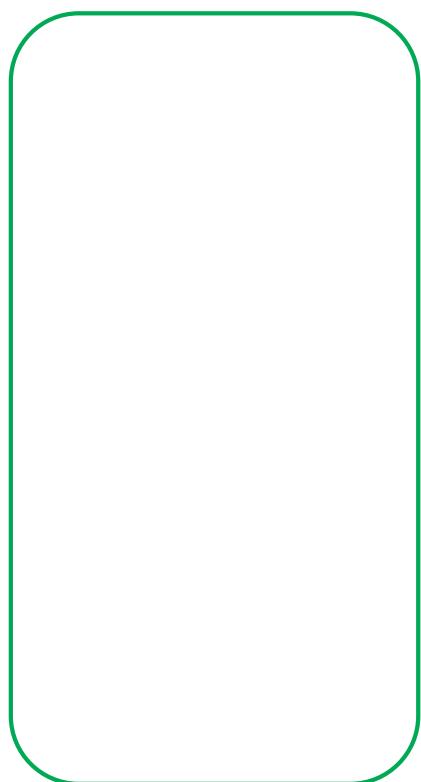
作文紙





老鼠





5. DLA <聴く> 映像 (DVD) スクリプト

1 「えんそく」

皆さん、遠足って知っていますか。（遠足の絵を見せて）遠足ですよ。

明日、遠足に行きます。（さくら山の絵を見せて）さくら山です。さくら山に行きます。（バスの絵を見せて）バスで行きますよ。みんなでさくら山に登りましょう。

2 「うんどうかい」

皆さん、明日は運動会です。（運動会の絵を見せて）運動会ですよ。（徒競走・玉入れの絵を見せて）走ります。80メートル走ります。（体育の服装の絵を見せて）体育の服で学校へ来てください。（給食の絵を見せて）明日は土曜日ですが、給食があります。（片手を勢いよく高く上げて）みんな、頑張りましょう。

3 「工場見学」

皆さん、これを見てください。（自動車工場の絵を見せて）これは、どこですか。ここで自動車を作ります。そうですね、自動車の工場ですね。来週、自動車の工場に見学に行きます。（持ち物の絵を見せて）持ち物は、お弁当、水筒、それから、ノートと鉛筆です。工場の人の話をよく聞いてくださいね。

4 「えんそくの おしらせ」

はい。では、うしろまでプリントいきましたかね。はい。では、説明をします。えー、このお手紙は遠足のお知らせです。よく見てください。では、ちょっとみんなに質問してみようかな。遠足に行くのはいつですか。はい、あたり一。5月10日木曜日です。5月10日木曜日に遠足に行きます。では、次の質問。場所はどこですか。お一正解。はい。大山公園に行きます。大山公園には、大山がありますよね。そう、大山に登ります、登ります。はい。え一大山公園、大山、高さどれくらいだか知っていますか。もっと、もっともっと。あー、600メートルね、あるんですね。その頂上からは晴れていれば海が見えます。先生もあそこの海とっても楽しみなので、みんなも晴れたら海が見えると思います。楽しみにして頑張って登りましょうね。

はい。続いて、出発は9時。みんなはいつも通り学校に登校します。ただし、ランドセルじゃありませんよ。リュックで来てくださいね。はい。持ち物はリュック。それから中にはお弁当、水筒、それから頂上でお弁当を食べるので、その敷くレジャーシートがあるといいと思いますね。それを持ってきてください。えー、お弁当、水筒、シート。それから帰りはだいたい3時くらいになります。3時くらいに帰ってきますので、このお手紙と一緒におうちの人によくお伝えしてください。はい。それではこのお知らせのお話はこれでおしまいです。

5 「トマトの さいばい」

はい、みなさん。この写真を見てください。うん、そうです。トマト。ねー、真っ

赤ですね。トマト好きな人？ おー、いっぱいいる。苦手な人？ あー、これも結構いますね。はい。先生も小学生の時はトマト苦手でした。でも、すぐに好きになりましたね。みずみずしくて夏はおいしいなーって思って食べてました。

はい。それでは今日これからやることを説明します。これから外に行って、トマトの苗を植えます。そう、一人ひとつずつ。自分のトマトを育てましょう。

うん、楽しみだね。あ、そう。あのー、大きく育って実がなったら、収穫してみんなで食べることもできますよ。はい。まず、外に出たら、先生が一人一人に鉢、植木鉢を渡します。そしたら、スコップで土を半分まで入れてください。

多すぎても少なすぎてもいけませんよ。半分まで土を入れてください。

そしたらそのあとで、トマトの苗をここに入れます。トマトの苗を真ん中に置いたら、またスコップで土を入れていきます。それでここまで、トマトの苗が隠れるここまで土を入れます。今日やることはここまでです。

でも、この先の話をちょっと説明します。花、そうトマトの花。ねえ、こんな色なんです。黄色。きれいですね。ここに実がなってますね。トマトの花です。

それからトマトが育ってきたら、棒をさします。ね、棒。何のために棒をさすのでしょうか。あ、そう、あたり。よく分かりましたね。そう。トマトはツルなので、こう横にね曲がって行っちゃう、倒れちゃうんですね。倒れないで、まっすぐ伸びてくださいのために、棒を縦に立てます。それで、棒にツルをこう結んでおくんですね。そうすると、まっすぐ育っていきます。それから大事なこと。水ですね。はい。自分のトマトなので、自分で水をしっかりあげられるといいですね。はい。じょうろにくんで、水をこのようにあげていってください。

さあ、それではみんなで外に出て、実際にトマトの苗を植えてみましょう。

6 「ごみの ゆくえ」

はい、ではこの写真をみてください。何の写真ですかね？ おお、あ、みんな、そうね、さすがですね。はい、ごみ収集車がごみを集めてるところですね。はい。え、では、この写真を見て何か気づくとこ、ありますか。ふん、ああ、ヘルメットね。はい、作業の人がヘルメットをかぶっていますね。はい、それから？ ああ、長袖、長ズボン。ね、何で、何でヘルメットかぶって、長袖、長ズボンなんでしょうか。うん、ああ、危険なんだ。危険な仕事、へえ、なるほどね。どんなふうに危険なんだろうね。うん、ああ、何、BINが割れたりするの？ ああ、危ないんだ。ははあ。じゃ、BINがこん中に入ってるの？ えつ、入ってない？ はつ、ふうん、じゃ、このごみは…紙屑。じゃ、じゃ危なくないじゃん。あ、でも危ないんだ。なるほどね。さあ、実際どうなんでしょうか。

では、今日はこのごみの行方という勉強をしたいと思います。え、では、まずみんな、ええと、おうちで、1週間ごみ調べの勉強をしてきましたね。調べたごみについてちょっと話してもらいたいなって思います。はい。おうちではどんなごみが出ましたか。はい、あ、紙くず。ね、紙屑さっき出ましたね。はい、紙屑。それから？ うん、あ、生ごみ。それから？ 生ごみね。生ごみ、出ますね。生ごみね、それから？ うん、新聞、ちらし、いっぱい出ますね。古新聞、それから？ あ、ペットボトル、

でますね。先生のうちもね、ペットボトルいっぱい出ます。はい、ペットボトル。ね、いろんなごみが出ますね。

はい、じゃ、このごみ、どこに持っていくの？ うん、ごみ収集車に積んで…え、海に捨てに行くの？ ううん、あっ、違う。ううん、あっ、燃やす。燃やすのね。全部燃やすんだ、これ、全部、バアーっと。全部どつか持って行って燃やすんだ。うん、あっ、はあ、ペットボトルは燃やさない。古新聞も燃やさない。あ、じゃ、この2つは燃やす（古新聞・生ごみを指して）。こっちは燃やさない。なるほどね。はい、さあ、実際どうなんでしょうか。

じゃ、次の質問。これ、ごみ、どこに持っていくんでしょう。うん、どこ？

では、このごみ、ね、このごみ収集車に乗ってどこに行くんでしょう？ どこ？ はは、はあ、はあ、大体あたりですね。ええ、こう言います。ごみ処理センター。はい、これらのごみは、ごみ処理センターに持っていきます。はい。では、今日はこのごみは、ごみ処理センターに運ばれて、それでどうなるのかということを勉強したいと思います。

7 「エネルギー」

はい、それでは、このグラフを見てください。これは、今から35年以前。先生がもう小さい時ですね。1975年の日本の電力を作る時のエネルギー源の割合のグラフです。さあ、何か気付いたことがありますか。うん。はい。石油、62.1%。ね。石油を使って電気をほとんど作っていたんですね。それから、水力、原子力、天然ガス、石炭というふうに続いていました。はい。ところが、こんなに石油に頼っていていいのかなあ、っていう話になりました。なぜなら、オイルショックというのがあったんですね。それで、この62.1%を占めている石油がもし日本に来なくなってしまったら、大変なことになる。ということになりました、この後、日本はこの割合を変化させていきます。どのようになったか。

今から5年、6年前、2006年はこのようになりました。はい。さあ、何か気付いたことある人？ うん、そうだね。石油が7.8%。減りましたね。それから水力、石炭、天然ガスを使って、一番多いのは？ そう原子力です。30.5%。ただし、ね、みなさんもご存知のように、あの東日本大震災で、原子力発電所が事故に遭ってしまいました。もう原子力は使えないかもしれない。さあそうなったら、この30.5%、どうなっちゃうんでしょう。ですので、今、電気を使わないように省エネだよっていう話が盛んに言われております。

さあ、今後日本は、この原子力で電気を起こせないとしたら、どうしたらいいんだろうか。それを考えていくのが、このエネルギーの勉強です。ね。どうしたらいいと思う？ うーん、どうしよう。ま、ヒントをちょっと差し上げます。これを見てください。

これは、日本と同じ、島国。ね、アイスランドのエネルギー源の割合です。同じく2006年。はい、気付いたこと。うん、そうだね。地熱・太陽・風力、60.7%。かなりを占めています。それから。石油、水力、石炭などを使って電気を作っている。ということですね。

さあ、それでは今後日本はどのようにエネルギーを使っていったらいいんだろうか。
さあ、それをこれから勉強していきたいと思います。

8 「地震」

皆さん、ええ、今日から新しい勉強が始まります。テーマは地震です。

日本は地震が多い国なんです。昔から、あちこちで大きな地震が起きています。そうそう、昨日の夜も強い地震がありましたよね。先生の家では、本棚の本が落ちてきました。皆さんの家はどうでしたか。夕べの地震がどのぐらいだったか、ニュースで聴いた人、いますか。はい、そうですね、この辺は震度4って言ってましたね。

ところで、地震のニュースではよく震度とか、マグニチュードって言葉を聴きますね。どんな意味だかわかる人いますか。ふうん、震度は、どのぐらい揺れたか、地震の揺れの大きさ…その通り。震度は、地震の揺れの大きさを表しているんですね。じゃあ、マグニチュードは？ ううん、これはちょっと難しいかな。マグニチュードは、地震のエネルギーの大きさを表しているんです。

地震の強さを表すのに、二つの言葉が使われているんですね。今日は、このうちの、震度について勉強します。震度は、今言ったように、地震の揺れの大きさを表しているんですね。震度は、震度計っていう機械で測ります（震度計）。夕べの震度は4でしたが、この震度って、いったいいくつに分かれているか、知っていますか。えつ、20？いや、そんなに多くはないなあ。ええ、教科書の32ページを開けてください。そこにある震度表を見てください。（震度表）震度0から始まって、震度1、2、3、4とだんだん強くなっていきます。震度5と震度6は、それぞれ弱い、強いの二つあります。震度5の弱い地震、震度5の強い地震というように。そして、最後は震度7。全部で10に分かれていますね。ええと、例えばですね、震度1は、「建物の中にいる人の一部が、揺れを感じる。」って書いてありますね。夕べの地震は震度4でしたね。震度4は、「眠っている人のほとんどが目を覚ますような地震。」って書いてあります。ええ、結構強い地震だったことがわかりますね。

さあ、その次に進みます。ええ、地震は地球の内部で起こります。地震が起こると、揺れが地面の中を伝わっていきますね。次に、それがどう伝わっていくのか、地震の揺れの伝わり方を見てみましょう。ええ、これは地震計といいます。地震の揺れを記録する道具です（地震計の写真）。この地震計の記録を見てください（地震計の記録を指して）。これを見て、何か気がついたことはありませんか。うん、どうですか。そうですね、ほら、最初は揺れが弱いですね。でも、後から大きな揺れがきていますね。そうなんですね。地震は、最初に弱い揺れがやって来て、その後に強い、大きな揺れがやってくる。これが地震の揺れの特徴なんです。

さあ、それが書いてあるところを読んでみましょう。34ページを開けてください。

6. DLA <聴く> 視覚補助教材 (キーワード)

イラスト 1 えんそく

えんそく

1

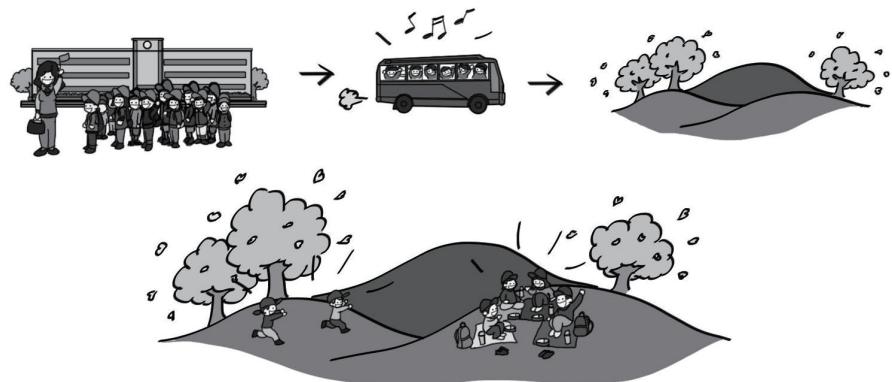
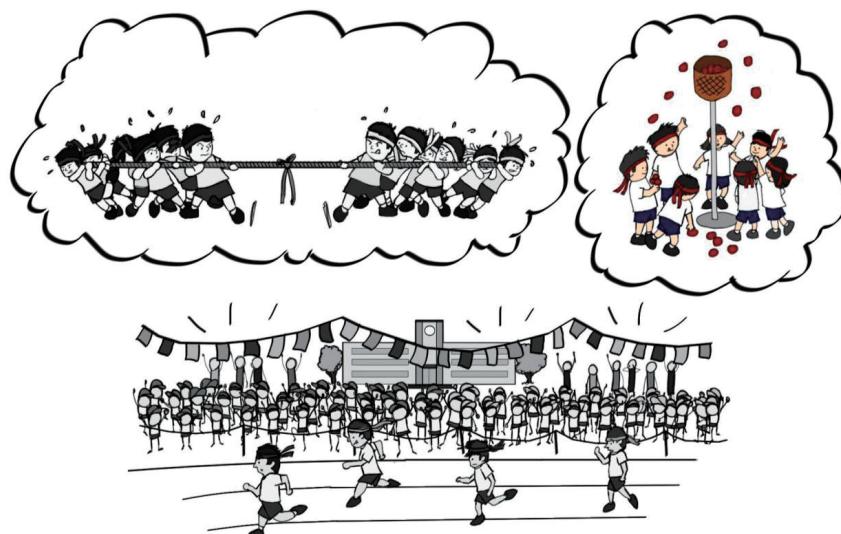


イラスト 2 うんどうかい

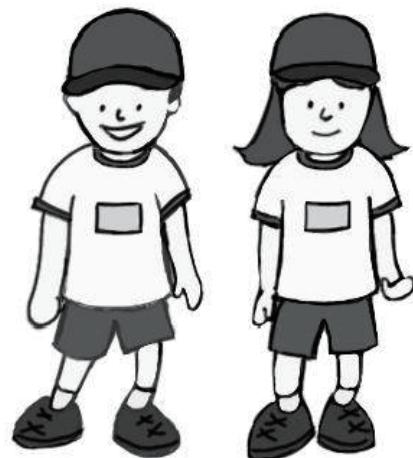
うんどうかい

2



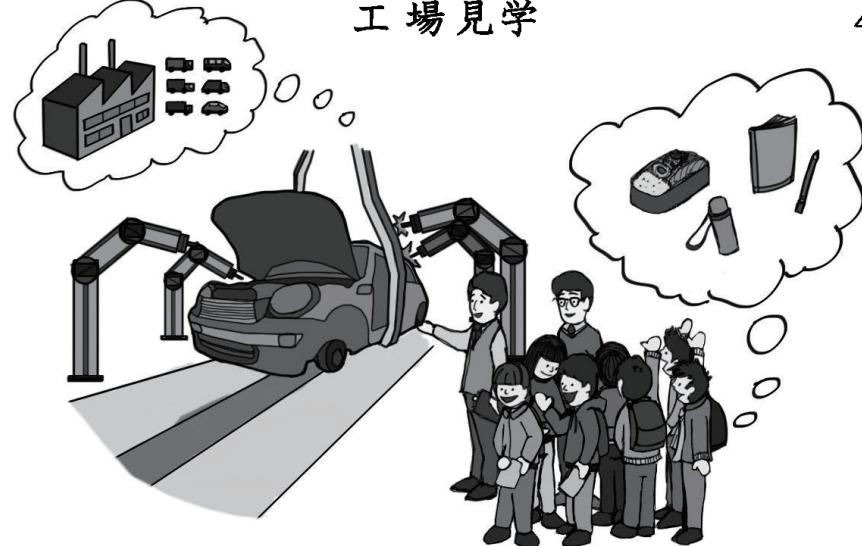
たいいくの ふく

3



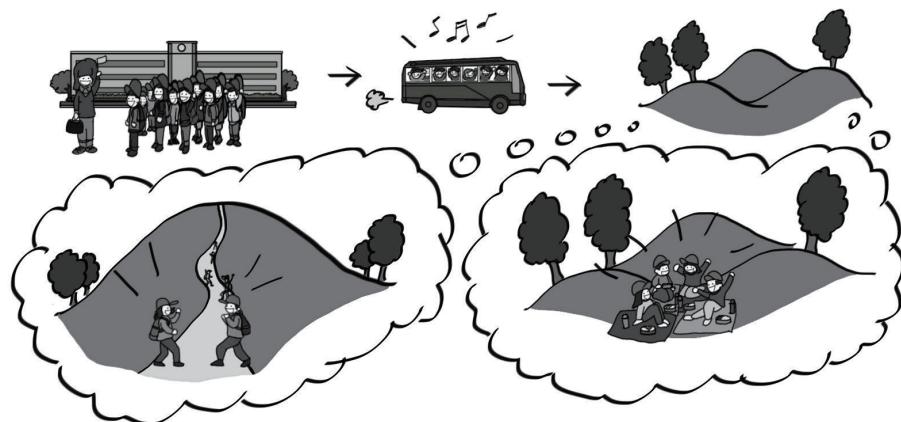
こうじょうけんがく
工場見学

4



えんそくの おしらせ

5



もちもの

6

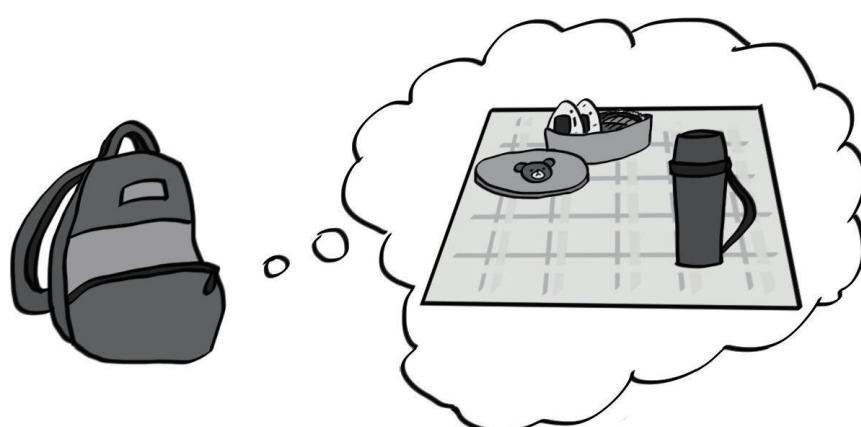


イラスト7 トマトの さいばい

トマトの さいばい

7

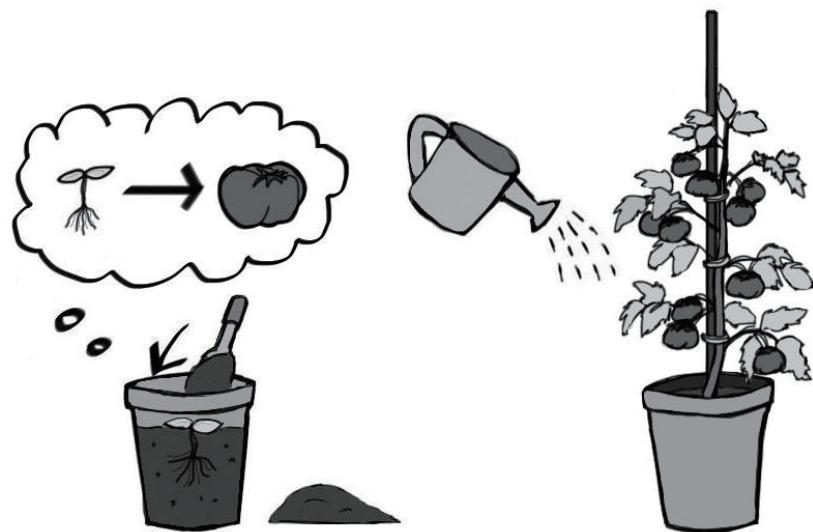
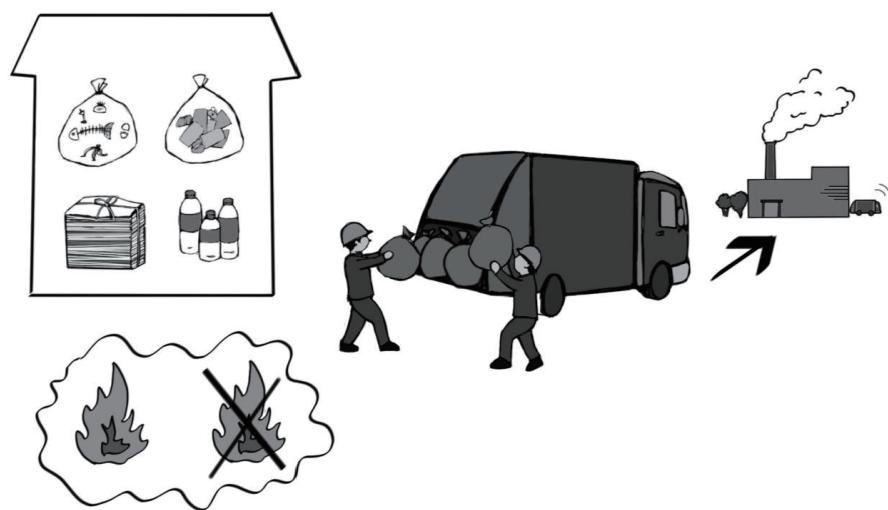
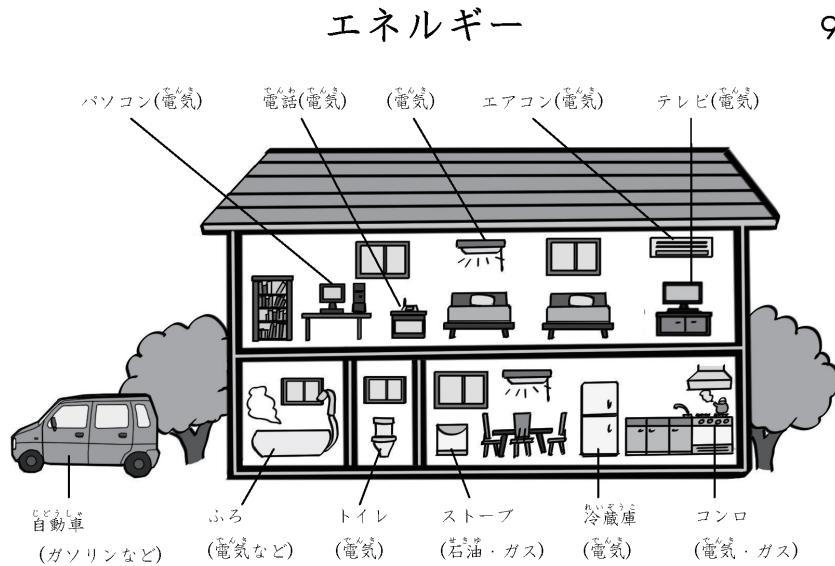


イラスト8 ごみの ゆくえ

ごみの ゆくえ

8





エネルギーとエネルギー源 10

エネルギー源	エネルギー
石油 石炭	水力 火力 原子力 太陽熱 風力など
ガソリン 灯油	ガソリン ガス
天然ガス	

イラスト 11 震度表

11

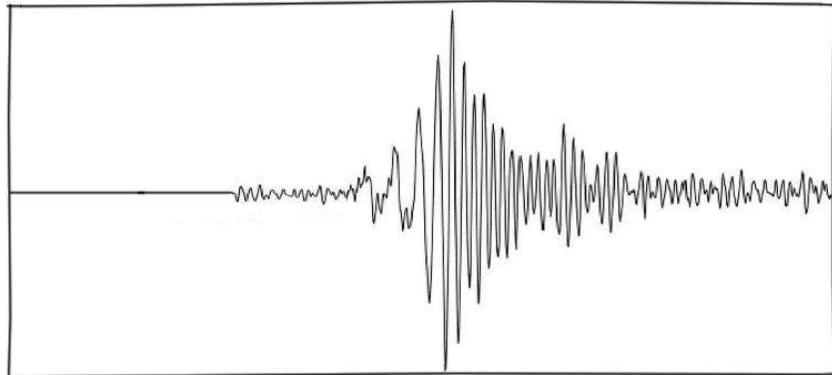
震度表
しんどひょう

震度 0	人はゆれを感じない。	
震度 1	たてもの建物の中にいる人の一部が、ゆれを感じる。	
震度 2	たてもの建物の中にいる人の多くが、ゆれを感じる。ねむっている人の一部が目をさます。	
震度 3	たてもの建物の中にいる人のほとんどが、ゆれを感じる。こわいと思う人もいる。	
震度 4	かなりの人がこわいと思う。ねむっている人のほとんどが目をさます。	
震度 5弱	たなにあるものが落ちることがある。	
震度 5強	とてもこわいと思う。たなにあるものが多く落ちる。	
震度 6弱	立っていることができない。へやに置いてある家具の多くが動いたり倒れたりする。	
震度 6強	へやに置いてある重い家具のほとんどが動いたり倒れたりする。	
震度 7	自分ではどうすることもできない。家の中の家具が大きく動き、飛ぶものもある。古い家は倒れることもある。	

イラスト 12 地震のゆれ

地震のゆれ
じしん

12



「テスト設計・言語発達一般」に関する質問

Q

1. なぜ「対話型」で測定するのですか。ペーパーテストではダメですか。

A

従来型のペーパーテストでは、文化的、言語的に多様な背景を持つ子どもの力は、なかなか測れません。また、紙筆テストでは潜在的な力を測るには十分ではありません。ただ現場では、日頃の指導を通して、子どもがどのくらい理解しているのかを知る必要があります。潜在的な能力は、対話を通して引き出すのが一番です。対話によって、子ども自身が学びつつある自分に気づき、それが自信にもつながります。また、学習に対する興味や意欲をかき立てるには、指導者との関係作りが必要ですし、指導者の励ましや助言が必要です。そのためにも、対話を重視しています。

Q

2. 外国人児童生徒の日本語力と日本人児童生徒の日本語力はどこが違うのでしょうか。どのくらいで、またどうすれば日本人児童生徒に追いつくのでしょうか。

A

JSL児の日本語力は、何歳で日本に来たか（入国年齢）、何年ぐらい日本にいるか（滞日年数）、母語（あるいは第一言語）がどのくらい伸びているかによって異なります。日本語の習得が速いのは、母語がしっかりしていて、母語で教科学習の経験がある子どもです。それでも話す力に約2年、読み書きに5年かかると言われます。逆に日本生まれや幼児期に来日した子どもは、日本語力に問題がないと思われがちですが、実は問題があり、日常会話は流暢でも、読解力や作文力の獲得に5年から10年かかると言われます。母語の下支えがある場合は5年、ない場合は10年かかるということです。また、追いつくと言っても日本人児童と全く同じ力を持つわけではないので、義務教育が終わってからも何らかの支援が必要です。

Q

3. 滞日年数が4大要因の1つということですが、滞日年数とJSL参照枠のステージとはどんな関係があるのでしょうか。

A

各ステージにほぼ1年かかると思ったらいいでしょう。つまり授業参加ができるのは、ステージ5ですが、ステージ5に達するのに5年くらいかかるということです。ただ、日本語学習の開始年齢が高いほど、母語力の下支えがあるため、ステージ1から3の習得が速くなります。逆に日本生まれや幼児期に来日した子は、話す力はステージ4でも、読みと書きの習得に非常に時間がかかると思った方がいいでしょう。

Q

4. 入国年齢は、日本語の習得とどのような関係がありますか。

A

入国年齢が高い子どもの方が、母語の力が強い上に学校経験も豊かですから、教科学習に必要な言語能力の獲得が速いのです。しかし、入国年齢と直接強い関係があるのは、母語の保持と伸長です。年齢相応の母語力を持って来日した場合は、日本語を習得しつつ母語も保持することが可能ですが、母語が未熟なまま、日本語環境に置かれた低学年齢児の場合は、日本語力と母語力が競い合うことになり、母語があっと言う間に弱まっていきます。そうなると、家で親が母語で話しかけても日本語で応答するという、ジグザグのコミュニケーションスタイルになり、親子関係に大きな亀裂を生じます。つまり、じっくり話し合う共通の

言葉がなくなってしまうのです。ですから、日本生まれや、幼児期に来日した子どもには、保護者に家庭で母語を率先して使うように勧めると同時に、学校全体で「日本語も大事、母語も大事」というメッセージを子どもに伝え、「母語も出来る子」という誇りやアイデンティティが早くから育つようにする必要があります。

Q 5. 支援の段階を知るために、「JSL 評価参考枠<全体>」(8 頁)を参照したり、「DLA 採点表<全体評価>」(140 頁)に記入したりすることになっていますが、全ての DLA を一度にしなければならないのですか。

A いいえ。子どもの日本語力は会話力を基礎にして段階的に伸びていくと言われています。まずは、会話力がしっかりと身についたかどうか測定してください。その上で、聴く力をDLA<聴く>のDVDのA(初歩レベル)を使って、まとまりのある話が聴けるかどうか測定します。また、文字の読み書き能力が一定程度進んだ段階になって、DLA<読む>を実施してください。そして、DLA<書く>でまとまりのある文章が書けるかどうかを測定してください。教科内容がどの程度わかるかを測定したい時に、DLA<聴く>のB(教科内容レベル)を聴かせて、日本語力を測定します。このように、子どもの日本語能力の伸びに合わせて段階的に実施することが大切です。一度に全ての DLA を実施して、日本語能力を測定するようなことはしないでください。

Q 6. 「母語で語彙力チェック」は、どうして必要なのですか。

A 理由が3つあります。第1は、母語の語彙力を調べることで、日本語力全体の伸びをある程度予測できることです。母語の語彙が豊富な子は、日本語の語彙の習得も早いのです。また語彙の力は話す力、読む力、書く力と密接な関係があるため、母語力全体の予測もある程度できるのです。第2は、言語習得が遅い場合、言語の力が弱いだけなのか、何らかの機能的障害や学習障害があるためか、見分けがつきません。見分ける方法の一つは、両言語で同じテストをして、共通の問題があるかどうかを調べることです。障害がある場合は、同じような課題が日本語にも母語にも現れます。第3は、母語と日本語の力関係を見ることによって、ダブルリミテッド(母語でも日本語力でも年齢相応レベルに達しない学習困難児)の早期発見に繋がります。

Q 7. 日本生まれの子どもで、日本語を流暢に話すのですが、どうして授業についていけないのでしょうか。

A 日本生まれのJSL児は、日常会話の力は育っても、教科授業に必要な語彙や読み書きの力が母語話者児童と同じようには育ちません。例えば日本語母語話者児童は、5,000語近い語彙を持って小学校に上がってくるのですが、JSL児は100語もないケースが多いのです。そういう場合、ひらがなやカタカナなど文字は覚えても、文を読むのに必要な語彙が足りないために意味がつかめません。また、授業や教科書で使われる語彙が、毎日使う日常語彙と違うことも、授業についていけない原因の一つです。このため、教科書用語などは、ていねいに教える必要があります。

Q 8. JSL 評価参考枠<全体>や個人指導記録は、学校運営や教育委員会に、どのように役立つのでしょうか。

A JSL 評価参考枠<全体>で、在籍の JSL 児童生徒がそれぞれの技能でどのレベルの支援を必要しているかが分かります。その情報が、学校運営や教育委員会に役に立ちます。学校全体、あるいは地

域全体で、どのレベルの支援がどのくらい必要かという情報を踏まえて、教員の配属や予算の計上につなげることができるでしょう。また「個人指導記録」に、評価の結果を記録していくことにより、指導教員の入れ替わりや転校の際に、指導の継続性を確保することが可能になります。

Q

9. 保護者も子どもの日本語習得について知りたがっています。保護者にはどのように伝えればいいでしょうか。

A

母語語彙チェックの結果も含めて、四つの言語領域の習得状況を、そのまま保護者に知らせてあげるといいでしょう。技能別DLA評価やJSL評価参照枠(全体)は、担当教師や指導員が学習目標と子どもの習得状況について、具体的に説明するのに役立ちます。DLA(話す)やDLA(読む)の録画や、DLA(書く)で書いた作文なども、保護者に見せて、実際にどのくらい日本語力が伸びているかを自分の目で確認してもらうのもいいでしょう。長い目で見て、子どもの母語と日本語力の両方を強めることが子どもの言語能力全体、また学力に大きなプラスになりますので、家では、保護者が母語を意図的に使用して母語力を強めることを勧めてください。母語を伸ばすことが、ゆくゆくは日本語力を強めることにもつながるのだ、という点を強調するといいでしょう。

＜はじめの一歩＞に関する質問

Q

10. 〈はじめの一歩〉を終えるだけで1人20分～30分かかってしました。早見せで次へ行ってもいいのでしょうか。それともしっかり答えを待つののでしょうか。

A

〈はじめの一歩〉は口慣らし、ウォームアップです。余り時間をかけないで、テンポよくさらっと済ませるように心がけてください。

Q

11. いつも勉強を教えている児童生徒の場合は、〈導入会話〉の自己紹介はなくてもいいのでしょうか。

A

はい、省略しても構いません。柔軟に対応してください。また自己紹介だけでなく、既にわかっている内容は省略していいのです。ただし、「今日は知らない人になっていろいろ質問するから、答えてくださいね」という指示を出して、〈導入会話〉を全部やってもらうという選択もあります。

Q

12. 語彙チェックで、普段使われないような語彙も含まれていました。どうしてこの55問を選んだのでしょうか。

A

13 の領域から複数の語彙を選んでいます。領域とは、例えば、体の部分、食べ物、動植物、機器、家の一部、職業、乗り物、学校生活の動作、仕事の動作、感情、形狀などです。その中で、全体の名称とその一部(局部)の名称を対比して入れてあります。例えば、手と指、机と引き出し、木と枝などです。習得論の立場から、全体名称の方を先に習得する、そして忘れるときは局部名称を先に喪失する、という仮説に基づいて作成してあるものです。さらに品詞では、名詞、動詞、形容詞が入れてあります。

「DLA〈話す〉」の実施に関する質問

Q 13. 少し説明すると思い出すことが多かったのですが、数秒待って答えが出なければ「できない」としたほうがよかつたのでしょうか。

A まずじっくり待ってあげることが大事です。それでも答えがでなければ「できない」と判断したらどうでしょうか。多種多様なタスクを数多く与えることによって、総合的にどのくらい話す力があるかを判断するので、1つの問題にあまり時間をかけずにつぎのタスクに移ったほうがいいでしょう。

Q 14. 標準語ではなく、地域語で話した子どもの話す力の評価はどうなりますか。

A 話す力の評価は、地域語あるいは標準語という基準で区別して評価されるものではありません。ただほかの地域からの編入生で、母語の影響なのか、その地域語の影響なのか分からぬこともあります。その場合は、詳しい事情はあとで調べることにして、その場ではすべてを肯定的に受け止めることが大事です。

Q 15. 日本語で聞いているのに、母語で答えた場合は、どうすればいいですか。

A まずは、「日本語で言ってみてください」とやさしく促してください。ただ、来日したばかりで、日本語体験が浅い子どもには、「母語で答える」というサバイバル方略を取る子どももいます。そのような場合でも、まず「日本語ではなしてください」と促してください。それでも母語で通そうとしたら、「DLA〈話す〉」の評価はまだ無理だということで、そこでDLAを終了してください。

Q 16. 実施者の日本語が理解できないのか、それは分かっているが、応答ができないのか分からぬときは、どうすればいいですか。

A 一度の説明や質問が理解できない場合もあります。3回までは繰り返し同じ言い方で話しかけてください。それでもわからない場合は、つぎのタスクに移ってください。ただ3回繰り返しても応答がなかったということは、日本語力の判定に役立ちますから、記録に残しておいてください。

「DLA〈読む〉」の実施に関する質問

Q 17. ある程度理解していても表現力が乏しい場合、うまく自分の言葉で説明できていなければ、やはり「読む力」がない、ということになるのでしょうか。

A 表現力のテストではないので、あくまで内容が理解できているかどうかで判断します。つまり、評価者が子どもが表現したことを通して、読みの理解度を推察するということです。ただ母語の話す力の

ほうが明らかに強く、また子どもがそう望む場合は、「DLA〈読む〉」を終了した段階で、母語で話すように促してもかまいません。後で、母語がわかる人に録音データを聞いてもらうとよいでしょう。

Q 18. 物語の再生で、すらすら答えるのですが、読んだ内容ではなく、自分の想像で答えている場合があります。そのようなときには、どのように対処しますか。

A 子どもが話している最中は否定せず、最後まで聞き、受け止めます。評価をする際は、自分の想像で答えた部分がテキストの内容と違っていれば、その内容を十分に理解していなかったと判断します。

指導においては、予測・推測力は読解において大切な力ですので、その力を認めつつ、細部の内容にもよく注意を向けるように指導するとよいでしょう。子どもは、読んだ内容ではなく、テキストのイラストなどから自分なりに内容を想像してしまうことがよくあり、特にそれが習慣になっている子どもにはていねいな指導が必要です。

Q 19. 読むことに興味はあるようですが、漢字がネックになってすらすら読めない子どもには、どうしますか。

A 「漢字がわからなければその場で教える」ということを、まず、しっかり子どもに伝えます。それでも選択したテキストが読み進められない場合は、テキストのレベルを下げます。

Q 20. すらすら読めるのですが、内容を全く言っていいほど理解していない場合があります。そのような場合は、どのように対処したらいいでしょうか。

A 確かにすらすら読んでいても、文字を追っているだけで、内容についてはほとんど答えられない子どもがいます。「字面読み」とでも言えるような、この読み方は、実は1970年代から先住民や移住者の子どもの課題とされてきました。幼児期の言語環境が貧しいことと関係があります。例えば、絵本の読み聞かせをしてもらった幼児は、文字の背後に面白いストーリーがあることを知っていますが、そのような経験がなかった子どもは、1年生になって文字を習って本を読むようになると、テキストのはじめの文字から最後の文字まで読むことが、「読む」ことだと認識するようです。では、このような子どもにどう対処するかということですが、短期間でも幼児期に戻って、「(絵本を)いっしょに読んで、その内容について話し合う」という活動を取り入れるといいでしょう。

「DLA〈書く〉」の実施に関する質問

Q 21. 質問を多くすれば、児童生徒がもっと書けるようになると感じたのですが、指導的な助言や質問をしてもいいのでしょうか。

A こうしたら書けそうという質問・声かけはどしどしてあげてください。その際は、助言を「与える」のではなく、「引き出す」ための質問をたくさんしてください。質問されたことについては答えてかまいません。子どもが自分で考える前に先回りしないようにだけ、留意してください。

Q

22. 児童生徒が文章を書くときに、どこまで文章が成り立つように支援すればいいのでしょうか。

A

支援は求められた時に与えるようにしてください。自力でどこまで書けるのかを見るのが、アセスメントの一つの目的です。支援者に全面的に頼ってしまう状況は避けるように心がけてください。

Q

23. 文章を書くときに児童生徒が書けなかつたので、話しながら一緒に文章を作り、それを写すことでとりあえずは書いたのですが、このような方法でいいのでしょうか。

A

やり方としては可能ですが、「一緒に文章を作る」際に、支援者が先回りして文を言ってしまうと、子どもの作文力が測れません。子どもにまず話させ、それを文字にするようにしてください。支援者の役割は、子どもから発話を引き出すことです。

Q

24. 簡単に書いて済ませる子や書く内容をよく考えてから取り掛かる子など、様々な子がいます。与えられたテーマの作文で本当の日本語力が測れるのでしょうか。

A

もちろん、一つのテーマの作文だけで日本語力の全ての面を測ることはできません。子どもの様々な面を総合的に見て初めて日本語力の総体がわかります。DLAでは、出来上がった作文だけでなく、作文に取り組む姿勢(書く態度)も作文力の一部として評価し、また、対話によって潜在的な力を測ります。簡単に書いて済ませる子に対しては、書いたあとの対話の中で、よりよい取り組み方へのヒントを自覚できることが望ましく、それが作文指導へのヒントとなるでしょう。

Q

25. 用紙を選ばせるとありますが、ほかの用紙を使わせてもいいのでしょうか。

A

はい、用紙は何を使ってもかまいません。巻末資料4.に用意したのは、まず書くことへの意欲を高めること、そして原稿用紙が使えない低学年の子どもに、年齢に適した升目の用紙を提供するためです。

「DLA〈聴く〉」に関する質問

Q

26. DVDを見せるときに、Aを見せて内容が理解できていたらBのDVDも見せていいのでしょうか。それとも、片方のDVDしか見せないのでしょうか。

A

児童生徒の聴く力をより適正に測るために、基本的には、A、Bの2種類のDVDを聴かせることをお勧めします。しかし、ふだんの観察からAが不要と判断されたら、Bから始めてかまいません。Bの聴解用DVDを使用する場合は、まず、年齢より一段、または二段下のDVDを聴かせた方がよいでしょう。それらが理解できるようであれば、段階を上げて聴かせてみましょう。(実践編・第6章「DLA〈聴く〉概要」p105参照)。

Q 27. 1回のテストで児童生徒の聞く力が測れるのでしょうか。DVDの話題により聞き取れること、聞き取れないこともあるのではないのでしょうか。

A 実際には、短い聴解用DVDを1本聴かせて児童生徒の聞く力のすべてを測ることは難しいことです。児童生徒の聴解力、授業の参加の可能性を見るためには、聴解用DVDを一つのモデルとしていただき、教室での実際の授業でも同じような観察をしていただくことをお勧めします。本測定の診断結果は参考としてお使いください。

Q 28. 対話型で聞く力が測れるのでしょうか。話す能力の測定にならないのでしょうか。

A 「DLA〈聴く〉」では、児童生徒に聴解用DVDを見せ、その後でどんな話だったか内容を言わせたり、それについて感想や意見を言わせたりして、児童生徒がどの程度内容を理解したか測定します。話す力のチェックでも、暗記チェックではないので、話の大筋が言えれば良しとします。実際児童生徒の話す力にはばらつきがあり、答える時も文にはならず単語で答える等レベルは様々です。実践ガイドには、あらかじめ話の大筋をまとめたチェックリストが載せてあります。重要と思われる語や表現には下線が引いてあります。文で答えられない場合も、それらの重要な語が言えれば理解できていると考えます。

Q 29. 一度で聞き取れず、もう一度聴きたいと子どもが言ったら、2度見せてもいいのでしょうか。

A 原則的には、聴解用DVDは1回のみ見せます。実施に当たっては、突発的なことが起こることも考えられます。また、高学年でメモ取りに夢中になり聴くことに問題が生じた場合は、教師の判断で再度聴かせてください。そういうケース以外は、もう一度みたいと言っても、1度しか見せません。ただし、1回視聴した後に、内容に興味を持ち、もう一度聴きたいというのは、「聴解行動」の評価対象となり、高く評価できます（実践編・第6章「DLA」〈聴く〉「1.〈聴く〉概要」p105 参照）

Q 30. 未習語彙が多いせいか、ほとんど理解できなかったようです。そのような場合はどうしたらいいのでしょうか。

A 「DLA〈聴く〉」では、まず、聴解用DVDを視聴する前に、視聴覚補助教材を使ってテーマ、キーワードを確認します。そのうえで、どのくらい理解できるか判定します。聴解用DVDの視聴後に、言葉の意味を質問されたら児童生徒がわかるように説明してください。B（教科のテーマに関わる内容の聴解用DVD）を聴いて、内容がほとんど理解できていないようであれば、年齢より一段、または二段下のDVDを聴かせてください。それでも、理解が難しい場合は、A（初歩レベル）のDVDを聴かせてみてください。

主要参考文献

- 伊東祐郎 (1999) 「外国人児童生徒に対する日本語教育の現状と課題」『日本語教育』100号記念号 pp.33-44 日本語教育学会
- 井上惠子 (2009) 『外国からの子どもたちと共に 改訂版』本の泉社
- カナダ日本語教育振興会 (2000/2012) 『子どもの会話力の見方と評価-バイリンガル会話テスト(OBC)の開発-』カナダ日本語教育振興会 抜粋版「OBCワークショップ資料集」
(k.nakajima@utoronto.caより入手可能)
- 外国人子女の日本語指導に関する調査研究協力者会議 (1998) 『外国人子女の日本語指導に関する調査研究《最終報告書》』東京外国语大学
- 川上郁雄編著 (2006) 『「移動する子どもたち」と日本語教育—日本語を母語としない子どもへのことばの教育を考える』明石書店
- 川上郁雄・石井恵理子・池上摩希子・齋藤ひろみ・野山広編 (2009) 『「移動する子どもたち」のことばの教育を創造する—ESL教育とJSL教育の共振—』ココ出版
- 国立国語研究所 (1956) 『小学校低学年の読み書き能力』秀英出版
- 国立国語研究所 (1958) 『小学校中学年の読み書き能力』秀英出版
- 国立国語研究所 (1960) 『小学校高学年の読み書き能力』秀英出版
- 国立国語研究所 (1972) 『幼児の読み書き能力』東京書籍
- 国立国語研究所 (2009) 『教育基本語彙の基本的研究』(国立国語研究所報告 127)増補改訂版 明治書院
- 小林幸江・横田淳子・鈴木孝恵 (1999) 「外国人児童に対する日本語教育の語彙調査」『東京外国语大学留学生日本語教育センター論集』25号 pp.17-32 東京外国语大学
- コリン・ベーカー著、岡秀夫訳 (1996) 『バイリンガル教育と第二言語習得』大修館書店
- 齋藤ひろみ編 (2011) 『外国人児童生徒のための支援ガイドブック—子どもたちのライフコースによりそって—』凡人社
- 櫻井千穂 (2013) 「言語的マイノリティの子どもたちのバイリンガル読書力の発達」大阪大学 大学院言語文化研究科博士論文
- 佐藤郡衛・齋藤ひろみ・高木光太郎 (2005) 『小学校 JSL カリキュラム「解説」』(外国人児童の「教科と日本語」シリーズ)スリーエーネットワーク
- ジム・カミンズ (2006) 「学校における言語の多様性-すべての児童生徒が学校で成功するための支援-」(中島和子・湯川笑子訳) www.mhb.jp/mhb_files/Cumminshanout.doc (ダウンロード可能)
- ジム・カミンズ (著)・中島和子 (訳著) (2011) 『言語マイノリティを支える教育』慶應義塾大学出版会
- JSL カリキュラム研究会・池上摩希子 (2005) 『小学校「JSL 算数科」の授業作り』(外国人児童の「教科と日本語」シリーズ)スリーエーネットワーク
- JSL カリキュラム研究会・大蔵守久 (2005) 『小学校「JSL 理科」の授業作り』(外国人児童の「教科と日本語」シリーズ)スリーエーネットワーク
- JSL カリキュラム研究会・齋藤ひろみ (2005) 『小学校「JSL 社会科」の授業作り』(外国人児童の「教科と日本語」シリーズ)スリーエーネットワーク
- JSL カリキュラム研究会・今澤悌・齋藤ひろみ・池上摩希子 (2005) 『小学校「JSL 国語科」の授業作り』(外国人児童の「教科と日本語」シリーズ)スリーエーネットワーク

東京外国語大学留学生日本語教育センター編 (1998) 『外国人児童生徒のための日本語指導
<第1分冊>カリキュラム・ガイドラインと評価』 ぎょうせい

東京外国語大学留学生日本語教育センター編 (1998) 『外国人児童生徒のための日本語指導
<第2分冊>算数(数学)・理科の教科書—語彙と漢字』 ぎょうせい

中島和子 (1998) 『言葉と教育』 海外子女教育振興財団

中島和子 (1998/2001) 『バイリンガル教育の方法』 増補改訂版 アルク

中島和子 (2002) 「バイリンガル児の言語能力評価の観点—会話能力テスト OBC 開発を中心
に」 『多言語環境にある子どもの言語能力の評価 (日本語教育ブックレット1)』 国立国語研
究所 26-44.

中島和子編著 (2011) 『マルチリンガル教育への招待—言語資源としての外国人・日本人年少
者』 ひつじ書房

中島和子・櫻井千穂 (2012) 『対話型読書力評価』 (科研費(21320096)研究成果報告書)
k.nakajima@utoronto.caより入手可能)

文部省 (1992) 『にほんごをまなぼう』 ぎょうせい

文部省 (1993) 『日本語を学ぼう 2』 ぎょうせい

文部省 (1995) 『日本語を学ぼう 3』 ぎょうせい

文部省 (1995) 『ようこそ日本の学校へ—日本語指導が必要な外国人児童生徒の指導資料ー』
ぎょうせい

文部科学省 (2008) 『小学校学習指導要領解説 国語編』 東洋館出版社

文部科学省 (2008) 『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』 東洋館出版社

文部科学省 (2008) 『小学校学習指導要領』 東京書籍

文部科学省 (2008) 『改訂版中学校学習指導要領解説国語編』

文部科学省国際教育課 (2003) 「『学校教育における JSL カリキュラムの開発について』(最
終報告)小学校編」 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/001/008.htm

文部科学省国際教育課 (2007) 「学校教育における JSL カリキュラム(中学校編)」
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/001/011.htm

文部科学省国際教育課 (2011) 『外国人児童生徒受入れの手引き』

吉島茂・大橋理恵ほか (2004) 『外国語教育II—外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッ
パ共通参照枠』 朝日出版社

- Coelho, E. (2004). *Adding English: A guide to teaching in multilingual classrooms.*
Don Mills, Ontario: Pippin.
- Cummins, J. (1991). Interdependence of first-and second-language proficiency in
bilingual children. Bialystok, E. (ed.) *Language Processing in Bilingual Children.*
Cambridge: Cambridge University Press.
- Cummins, J. (2000). *Language, Power and Pedagogy: Bilingual Children in the Crossfire.*
Clevedon, UK: Multilingual Matters.
- Cummins, J. (2001). Assessment and Intervention with Culturally and Linguistical Diverse
Learners. In Hurley, S.R. & Tinajero, J.V. (Eds.) *Literacy Assessment of Second
Language Learners.* Needham Heights, MA: Allyn & Bacon. 115-129.
- Cummins, J. (2007). Rethinking monolingual instructional strategies in multilingual
classrooms. *Canadian Journal of Applied Linguistics.* Vol. 10, No.3, 221-240.

- Hill, B.C. (2001) Developmental Continuums: A framework for literacy instruction and assessment K-8, Norwood, MA: Christopher-Gordon.
- Organisation for Economic Co-operation and Development (OECD) (2006) Where Immigrants Students Succeed: A Comparative Review of Performance and Engagement in PISA 2003, OECD Publishing.
- Ontario Education (2005) Many Roots Many Voices: Supporting English language learners in every classroom: A practical guide for Ontario Educators. <http://www.edu.gov.on.ca/eng/document/manyroots/manyroots.pdf>
- Ontario Education (2007) English Language Learners and: ESL and ELD Programs and Services. <http://216.187.93.167/downloadables/ELL%20Policy%202007.pdf>
- Ontario Education (2007) The Ontario Curriculum Grades 9-12: English as a Second Language and English Literacy Development. <http://216.187.93.167/downloadables/esl912currb.pdf>
- Ontario Education (2009) Supporting English Language Learners: A practical guide for Ontario educators. Grades 1-8. <http://216.187.93.167/downloadables/ELL%201%20-%208%20Ministry%20doc%20January%202009.pdf>
- Ontario Education (2009) Supporting English Language Learners in Kindergarten. <http://216.187.93.167/downloadables/ELL%20Kindergarten.pdf>
- Ontario Education (2010) Supporting English Language Learners with Limited Prior Schooling: A practical guide for Ontario educators. Grades 3-12. http://216.187.93.167/downloadables/ELL_LPS.pdf
- Ontario Education (2011) Steps to English Proficiency (STEP): A Guide for Users. http://post.queensu.ca/~chengly/STEP_OngoingClassroomAssessmentContinua.pdf
- Thomas, W.P., & Collier, V.P. (2002). A national study of school effectiveness for language minority students' long-term academic achievement. Santa Cruz, CA: Center for Research on Education, Diversity & Excellence, University of California–Santa Cruz.
- WIDA Consortium (2007) WIDA English Language Proficiency Standards and Resource Guide. Pre-K through Grade 12. World-Class Instructional Design and Assessment Consortium. <http://www wida us/standards/eld.aspx>
- WIDA Consortium (2012). 2012 Amplification of the English Language Development Standards: Kindergarten-Grade 12. World-Class Instructional Design and Assessment Consortium. <http://www wida us/standards/eld.aspx>

協力者一覧

＜研究推進委員＞ [敬称略、五十音順]

- 安野 勝美 大阪府教育センター教育企画部人権教育研究室 主任指導主事
(H24.4～)
- 石井 恵理子 東京女子大学 教授
(H23.9～)
- ◎ 伊東 祐郎 東京外国語大学 教授 留学生日本語教育センター長
- 伊藤 卓哉 三重県教育委員会事務局小中学校教育課
学力向上推進グループ 副課長
- 井上 恵子 千葉県教育委員会 委嘱研究員・相談員
- 齋藤 ひろみ 東京学芸大学 教授
- 櫻井 千穂 大阪大学大学院言語文化研究科 博士課程
(H23.9～)
- 佐藤 裕之 川崎市立宮崎小学校 校長
- 澤田 直子 浜松市教育委員会指導課教育相談支援センター 指導主事
(H23.4～)
- 楠野 正人 浜松市教育委員会指導課教育相談支援センター
指導主事・教育相談グループ長
(H22.4～H23.3.31)
- 倉島 義彦 上田市教育委員会学校教育課 課長
(H24.4～)
- 小林 幸江 東京外国語大学 留学生日本語教育センター 教授
- 篠原 政也 鈴鹿市教育委員会事務局人権教育課 課長
(H23.4～)
- 菅長 理恵 東京外国語大学 留学生日本語教育センター 准教授
- 鈴木 英文 鈴鹿市教育委員会事務局指導課 課長
(H22.9～H23.3.31)
- 築樋 博子 豊橋市教育委員会学校教育課 外国人児童生徒教育相談員
- ☆ 中島 和子 トロント大学 名誉教授
(H23.9～)
- 中村 栄孝 上田市教育委員会学校教育課 課長
(H22.4～H24.3.31)
- 古角 美之 兵庫県教育委員会事務局人権教育課 副課長
- 矢崎 満夫 静岡大学教職大学院 准教授

(◎委員長 ☆特別研究推進委員 ○ワーキングメンバー ※役職は委嘱時点のもの)

＜モニター調査協力校＞

千葉県千葉市立小中台小学校	愛知県豊橋市立野依小学校
千葉県千葉市立幸町第二中学校	愛知県豊橋市立玉川小学校
千葉県八千代市立村上北小学校	愛知県豊橋市立南陽中学校
千葉県八千代市立村上東中学校	愛知県豊橋市立豊岡中学校
千葉県市川市立新浜小学校	愛知県豊橋市立東部中学校
千葉県市川市立第七中学校	愛知県豊橋市立南陵中学校
千葉県市原市立白金小学校	愛知県豊橋市立青陵中学校
千葉県佐倉市立佐倉小学校	愛知県豊橋市立吉田方中学校
兵庫県立芦屋国際中等教育学校	愛知県豊橋市立豊城中学校
兵庫県神戸市立港島小学校	愛知県豊橋市立五並中学校
静岡県浜松市立葵が丘小学校	三重県鈴鹿市立長太小学校
静岡県浜松市立砂丘小学校	三重県鈴鹿市立飯野小学校
静岡県浜松市立瑞穂小学校	三重県鈴鹿市立牧田小学校
静岡県浜松市立大瀬小学校	三重県鈴鹿市立明生小学校
静岡県浜松市立入野小学校	三重県鈴鹿市立旭が丘小学校
静岡県浜松市立和田東小学校	三重県鈴鹿市立神戸小学校
静岡県浜松市立佐鳴台中学校	三重県鈴鹿市立清和小学校
長野県上田市立第一中学校	三重県鈴鹿市立河曲小学校
長野県上田市立第四中学校	三重県鈴鹿市立玉垣小学校
長野県上田市立東小学校	三重県鈴鹿市立一ノ宮小学校
長野県上田市立南小学校	三重県鈴鹿市立桜島小学校
長野県上田市立神川小学校	三重県鈴鹿市立白子小学校
岐阜県可児市立土田小学校	三重県鈴鹿市立椿小学校
岐阜県可児市立今渡南小学校	三重県鈴鹿市立平田野中学校
神奈川県川崎市立川崎小学校	三重県鈴鹿市立白子中学校
神奈川県川崎市立宮前小学校	三重県鈴鹿市立創徳中学校
神奈川県川崎市立川崎中学校	三重県鈴鹿市立千代崎中学校
神奈川県川崎市立富士見中学校	三重県鈴鹿市立神戸中学校
愛知県豊橋市立岩田小学校	大阪府松原市立松原南小学校
愛知県豊橋市立吉田方小学校	大阪府松原市立松原東小学校
愛知県豊橋市立旭小学校	大阪府松原市立恵我南小学校
愛知県豊橋市立大村小学校	大阪府東大阪市立池島小学校
愛知県豊橋市立岩西小学校	大阪府泉佐野市立第二小学校
愛知県豊橋市立富士見小学校	大阪府泉南市立鳴滝小学校
愛知県豊橋市立多米小学校	大阪府門真市立門真小学校
愛知県豊橋市立二川小学校	大阪府吹田市立第二中学校
愛知県豊橋市立羽根井小学校	

<聴解力ビデオ教材協力>

佐藤 莊二郎 神奈川県川崎市立宮前小学校
木脇 淑子 山口県萩市白水小学校
鎌田 勝之 埼玉県立上尾鷹の台高等学校 教頭

<サンプルビデオ撮影協力>

根津 真寿美 愛知県知立市立知立東小学校
上出 仁美 大阪府八尾市立北山本小学校

<イラスト>

有本 昌代
Adam Gaudet

<編集協力>

大橋 めぐみ 文部科学省委託事業事務局
原 絵莉子 早稲田大学大学院日本語教育研究科 修士課程
松本 裕典 早稲田大学大学院日本語教育研究科 修士課程

平成 22 年度～平成 24 年度
「学校において利用可能な日本語能力の測定方法の開発」

**Dialogic Language Assessment
for Japanese as a Second Language**
**外国人児童生徒のための
JSL 対話型アセスメント**

発行日：平成 26 (2014) 年 1 月
発 行：文部科学省初等中等教育局国際教育課
住 所：〒100-8959 東京都千代田区霞が関 3-2-2
電 話：03-5253-4111 (内線：2035)
編 集：東京外国语大学 留学生日本語教育センター
「外国人児童生徒の総合的な学習支援事業」
研究推進委員会

平成26年1月発行

発行 文部科学省初等中等教育局国際教育課

住所 〒100-8959 東京都千代田区霞が関 3-2-2

電話 03-5253-4111 (内線 2035)

E-mail kokukyo@mext.go.jp

URL http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/main7_a2.htm